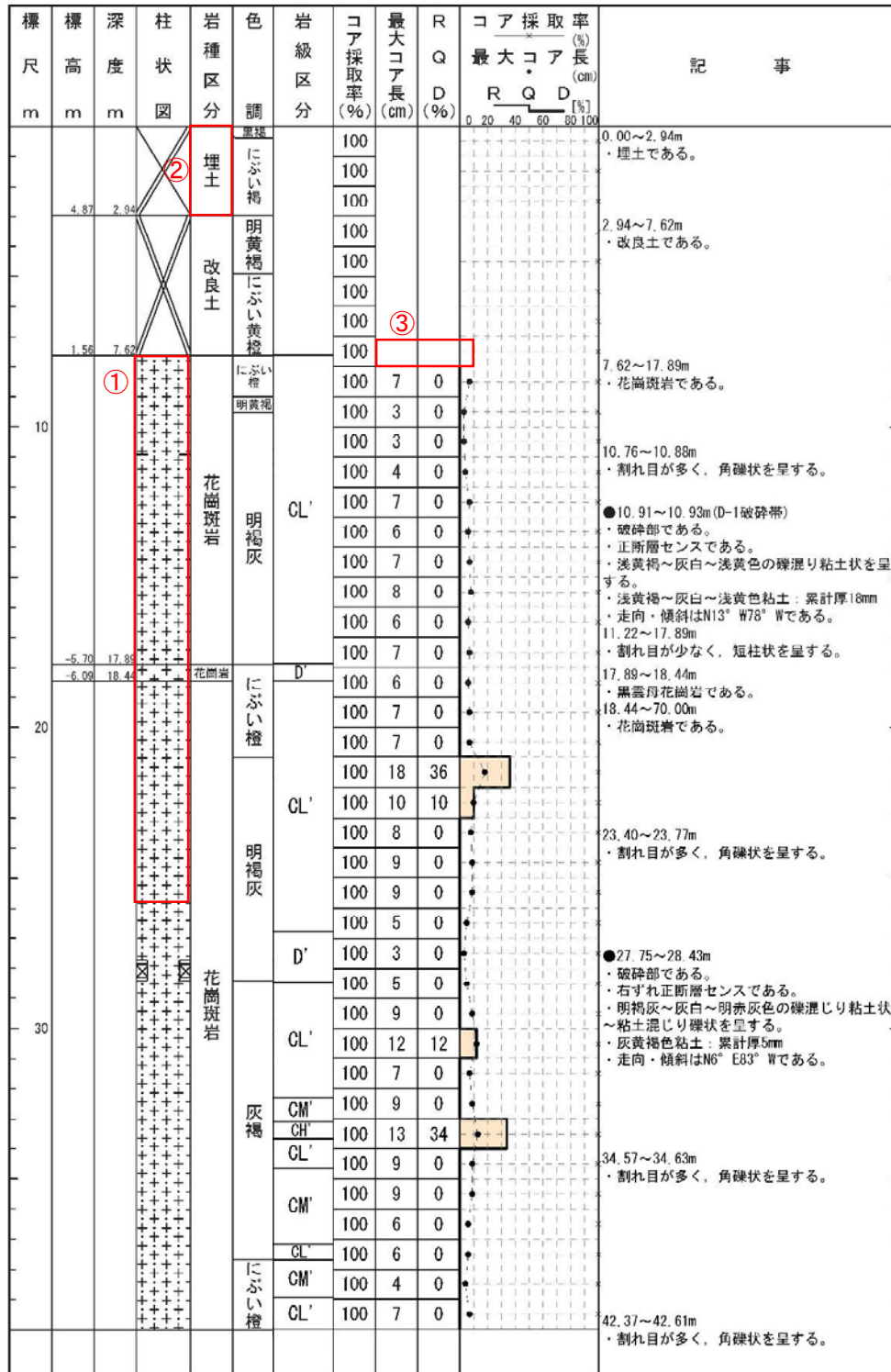


標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記 事
		①		花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0		<ul style="list-style-type: none"> ●52.13～52.28m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰褐～灰白～明褐灰色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい橙～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN7° E70° Wである。 ●56.88～57.24m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明褐灰色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい赤橙色粘土：累計厚0mm ・走向・傾斜はN2° E89° Wである。 58.29～58.53m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
						CL'	100	13	13		
						CL'	100	8	0		
						CL'	100	12	12		
						CL'	100	11	11		
						CL'	100	10	10		
						CL'	100	8	0		
						CL'	100	8	0		
						CM'	100	5	0		
						CM'	100	7	0		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	5	0		
						CL'	100	4	0		
						CL'	100	6	0		
						CM'	100	5	0		
						CM'	100	5	0		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	4	0		
						CL'	100	3	0		
						CL'	100	5	0		
						CL'	100	6	0		

2-4(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

H24-D1-4

孔口標高	T.P.	6.95m	掘削長	70.00m
------	------	-------	-----	--------



2-8 (分類c) ①
申請書作成の際に模様を見直したため。
2-9 (分類c) ②
表現を統一したため。

2-10, 2-11 (分類c) ③
基盤上限の1m未満の区間を省いたため。

第7.4.4.170図 (1) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	標準貫入		孔内水位(測定月)	試験					室内掘進	掘進速度	孔径	コアチップ	給送	回送	送水	排水												
														N値~深度			図													原位置試験(孔内水平位置)	試験	室	掘進	掘進	孔径	コアチップ	給送	回送	送水	排水	
														(m)	(m)		(m)	(m)	(m)	(m)	(m)																				(m)
30	30		花崗斑岩		明礬灰	Dg IVe	cg	2	26.78~27.75m: 微細な割れ目が1~3cm間隔で分布し、ハンマー打撃で細片化する。 ●27.75~28.43m: 破砕帯 27.75~27.91m: 硬質粘土状破砕部(Hb)。上端20'で不明瞭、下端15'で直線的。径10mmまでの石英粒、粘土化した岩片を多く含む。 27.91~28.33m: 粘土混り硬質破砕部(Hj)。下端5'で直線的。岩片間に網状に粘土が分布。 28.33m: 粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜45'。幅2~5mm。灰褐色。 28.33~28.43m: 硬質粘土状破砕部(Hb)。下端60'で直線的。幅60mm。 29.73~30.20m: 硬質で良好な岩盤となる。 34.00m: 白色粘土挟在。傾斜60'で直線的でシャープ。幅1~5mm。 34.57~34.63m: 割れ目が密集する	0	50	100	CL'	0	10	20	30	40	50	5/20	80	ダブルコアチップ/ダイヤモンビット	1.0	120	0.1	泥水?	2														
																												95	5/21	90	1.0	150	0.1	泥水?	2						
																																				80	1.0	150	0.1	泥水?	1

H24-D1-4

孔口標高	T.P.	6.95m	掘削長	70.00m
------	------	-------	-----	--------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	記事			
													0	20	40
		4.87	[X-pattern]	埋土	黒緑 にぶい褐色		100					0.00~2.94m ・埋土である。			
		2.94					改良土	明黄褐色 にぶい黄褐色		100					2.94~7.62m ・改良土である。
		1.56								花崗斑岩	明褐色 にぶい黄褐色	明褐色	100	7	0
10		7.62		花崗斑岩	明褐色	明褐色							100	3	0
							100	3	0						
							100	4	0					・浅黄褐色~灰白~浅黄色粘土：累計厚18mm ・走向・傾斜はN13° W78° Wである。	
			100				7	0					11.22~17.89m ・割れ目が少なく、短柱状を呈する。		
			100				8	0					17.89~18.44m ・黒雲母花崗岩である。		
			100				6	0					18.44~70.00m ・花崗斑岩である。		
			100				7	0							
				花崗岩		D'	100	6	0						
20			[X-pattern]	明褐色	明褐色	明褐色	100	7	0			23.40~23.77m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。			
							100	7	0						
							100	18	36						
							100	10	10						
							100	8	0						
				100	9	0									
				100	9	0									
				100	5	0									
				100	3	0									
				100	5	0									
30			[X-pattern]	灰褐色	明褐色	明褐色	100	9	0			●27.75~28.43m ・破碎部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明褐色~灰白~明赤灰色の礫混り粘土状~粘土混り礫状を呈する。 ・灰黄褐色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN6° E83° Wである。			
							100	12	12						
							100	7	0						
							100	9	0						
							100	13	34						
				100	9	0									
				100	9	0									
				100	6	0									
				100	6	0									
				100	4	0									
				にぶい褐色		明褐色	100	7	0			42.37~42.61m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。			

2-8(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

6--7-4-1018

第7.4.4.170図(1) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コアラ	割れ目の状態	風化	変質	記号	コアラ採取率 → (%) 最大コアラ長 ← cm R Q D ↳ [%]	岩級	孔内水位(測) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平試験)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	コアラチップノット	給戻 (rpm)	送水 (MPa)	送水量 (L/分)	排水 (L/分)																															
															(N 値 ~ 深度)	図																																								
30				花崗斑岩	明礬灰	Dg	IVg	cg	δ	2	26.78~27.75m: 微細な割れ目が1~3cm間隔で分布し、ハンマー打撃で細片化する。 ●27.75~28.43m: 破砕帯 27.75~27.91m: 硬質粘土状破砕部(Hb)。上端20'で不明瞭、下端15'で直線的。径10mmまでの石英粒、粘土化した岩片を多く含む。 27.91~28.33m: 粘土混り輝状破砕部(Hj)。下端5'で直線的。岩片間に細粒粘土が分布。 28.33m: 粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜53'。幅2~5mm。灰褐色。 28.33~28.43m: 硬質粘土状破砕部(Hb)。下端60'で直線的。幅60mm。 29.73~30.20m: 硬質で良好な岩盤となる。	CL'			0	10	20	30	40	50	5/20	80	1.0	120	0.1	泥水?	2																													
5/21	90	1.0				150	0.1	泥水?																				2																												
																													5/22	80	1.0	150	0.1	泥水?	1																					
																																				5/23	60	2.0	150	0.1	泥水?	1														
																																											5/24	50	2.0	150	0.1	泥水?	1							
																																																		5/25	40	2.0	150	0.1	泥水?	1
					5/27				60	2.0	150	0.1	泥水?	1																																										
5/28	75	2.0				150	0.1	泥水?							1																																									
																5/29	70	2.0	150	0.1	泥水?	1																																		
																							5/30	80	1.0	150	0.1	泥水?	1																											
																														灰礬	Bg	IVg	bg	γ	2	34.00m: 白色粘土挟在。傾斜60'で直線的でシャープ。幅1~5mm。	CM'																			
																																																	5/22	90	1.0	150	0.1	泥水?	1	
					5/23				60	2.0	150	0.1	泥水?	1																																										
5/24	50	2.0				150	0.1	泥水?							1																																									
																5/25	40	2.0	150	0.1	泥水?	1																																		
																							5/27	60	2.0	150	0.1	泥水?	1																											
																														5/28	75	2.0	150	0.1	泥水?	1																				
																																					5/29	70	2.0	150	0.1	泥水?	1													
					5/30				80	1.0	150	0.1	泥水?	1																																										
灰礬	Bg	IVg				bg	γ	2							34.57~34.63m: 割れ目が密集する																													CL'												
																5/22	80	1.0	150	0.1	泥水?	1																																		
			5/23	60																			2.0	150	0.1	泥水?	1																													
																												5/24	50	2.0	150	0.1	泥水?	1																						
																																			5/25	40	2.0	150	0.1	泥水?	1															
					5/27				60	2.0	150	0.1	泥水?	1																																										
5/28	75	2.0				150	0.1	泥水?							1																																									
																5/29	70	2.0	150	0.1	泥水?	1																																		
			5/30	80																			1.0	150	0.1	泥水?	1																													
																												花崗斑岩	Bg	IVg	bg	γ	2	38.95~39.34m: 多くの割れ目に、幅1mm前後の粘土脈を伴う。 39.34~39.41m: 細片化した、網状に粘土脈が分布。上端25'、下端30'で両端とも直線的に幅2~4mmの灰白~にぶい黄褐色の粘土が分布。 39.50m: 白色鉱物脈。傾斜20'、幅2~4mm。 39.90~40.68m: 傾斜40~50'の割れ目が平行に分布。 40.68~43.34m: 傾斜20~50'の割れ目自体で、微細な割れ目も分布。一部高角割れ目が斜交して角礫化。またマンガン汚染を受ける。 42.37~42.61m: 割れ目が密集する 47.67~48.84m: 傾斜40~50'の割れ目が平行に分布する。一部で砂状化する。 48.84~49.83m: 傾斜40~50'で、微細な割れ目が主体。49.17mまでは割れ目沿いの砂状化が多い。一部で幅0.5mmの白~明黄褐色粘土を挟む 49.83~52.07m: 傾斜20~40'の割れ目が分布する。一部緑灰色化する 51.30m, 51.33m: 傾斜38'、47'の各割れ目に微細な黄鉄鉱が晶出する。 52.07~52.55m: 変質により著しく軟化する。網状に粘土脈が発達する 52.07m, 52.52m: 方解石脈。各々傾斜45'、幅7~8mm、傾斜25'、幅3~5mm 52.55~52.97m: 不規則な微細割れ目が多く、岩片化する。一部に方解石脈や緑灰色粘土挟在。								CL'														
																																			5/22	80	1.0	150	0.1	泥水?	1															
					5/23				60	2.0	150	0.1	泥水?	1																																										
5/24	50	2.0				150	0.1	泥水?							1																																									
																5/25	40	2.0	150	0.1	泥水?	1																																		
			5/27	60																			2.0	150	0.1	泥水?	1																													
																												5/28	75	2.0	150	0.1	泥水?	1																						
																																			5/29	70	2.0	150	0.1	泥水?	1															
					5/30				80	1.0	150	0.1	泥水?	1																																										
花崗斑岩	Bg	IVg				bg	γ	2							●52.97~53.46m: 破砕帯 52.97~53.10m: 硬質粘土状破砕部(Hb)。上端50'、下端不明瞭。幅70~80mm。 53.05m: 粘土状破砕部(Hc-1)。傾斜45'で直線的。幅3mm。褐灰色。 53.10~53.44m: 粘土混り輝状破砕部(Hj)。下端45'でやや波打つ。径5~20mmの岩片と粘土化した基質からなり、基質中に粘土が10~50'で分布する。 53.44~53.46m: 硬質粘土状破砕部(Hc-2)。下端45'で直線的。幅4~12mm。灰白~緑灰色。 53.46~53.68m: 著しく軟化する。一部に緑灰色粘土脈を挟む。 53.68~56.54m: 交差する割れ目が細かく分布。コアは細片状。 54.44m: 方解石脈。傾斜70'、幅6mm。上端割れ目、下部には密着。 56.54~56.57m: 硬質粘土状破砕部(Hb)。上端不明瞭。幅30~50mm。 60.16~60.38m: 粘土混り輝状破砕部(Hj)。下端60'で直線的。岩片間に灰白色粘土が網状に分布。 60.38~61.39m: 割れ目が多く岩片状で、粘土脈や白色鉱物脈を伴う。 61.39~61.47m: 径5~20mmの岩片と粘土化した基質からなる。																											CL'														
																5/22	80	1.0	150	0.1	泥水?	1																																		
			5/23	60																			2.0	150	0.1	泥水?	1																													
																												5/24	50	2.0	150	0.1	泥水?	1																						
																																			5/25	40	2.0	150	0.1	泥水?	1															
					5/27				60	2.0	150	0.1	泥水?	1																																										
5/28	75	2.0				150	0.1	泥水?							1																																									
																5/29	70	2.0	150	0.1	泥水?	1																																		
			5/30	80																			1.0	150	0.1	泥水?	1																													

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事						
										最大 コア 長 (cm)	R	Q		D					
			①	花崗斑岩	花崗斑岩	花崗斑岩	100	10	10	0 20 40 60 80 100			49.83~52.07m ・緑灰色に変色する。 52.07~52.97m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 56.57~59.47m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 60.06~60.38m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・右ずれセンスである。 ・灰褐色~灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・暗緑灰色粘土：累計厚8mm ・走向・傾斜はN18° E86° Wである。 60.38~61.39m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 61.47~61.52m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・暗緑灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN27° W83° Wである。 63.67~63.90m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白~赤灰色の粘土状~礫混じり粘土状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN19° W89° Wである。 66.65~67.05m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。						
														CL'	100	7	0		
														CM'	100	7	0		
														CL'	100	12	12		
														CL'	100	6	0		
														CL'	100	5	0		
														CH'	100	12	33		
														CH'	100	18	34		
														CL'	100	9	0		
														CL'	100	8	0		
														CM'	100	9	0		
														CM'	100	14	35		
														D'	100	8	0		
														D'	100	2	0		
														CL'	100	4	0		
														CL'	100	4	0		
														CL'	100	12	12		
														CM'	100	6	0		
														CM'	100	9	0		
						CL'	100	7	0										
						CL'	100	4	0										
						CL'	100	4	0										
						D'	100	3	0										
						CL'	100	9	0										
						CL'	100	5	0										
						CL'	100	4	0										
						CL'	100	2	0										
						CL'	100	3	0										
						CL'	100	5	0										

2-8(分類c)①
 申請書作成の際に模様を見直したため。

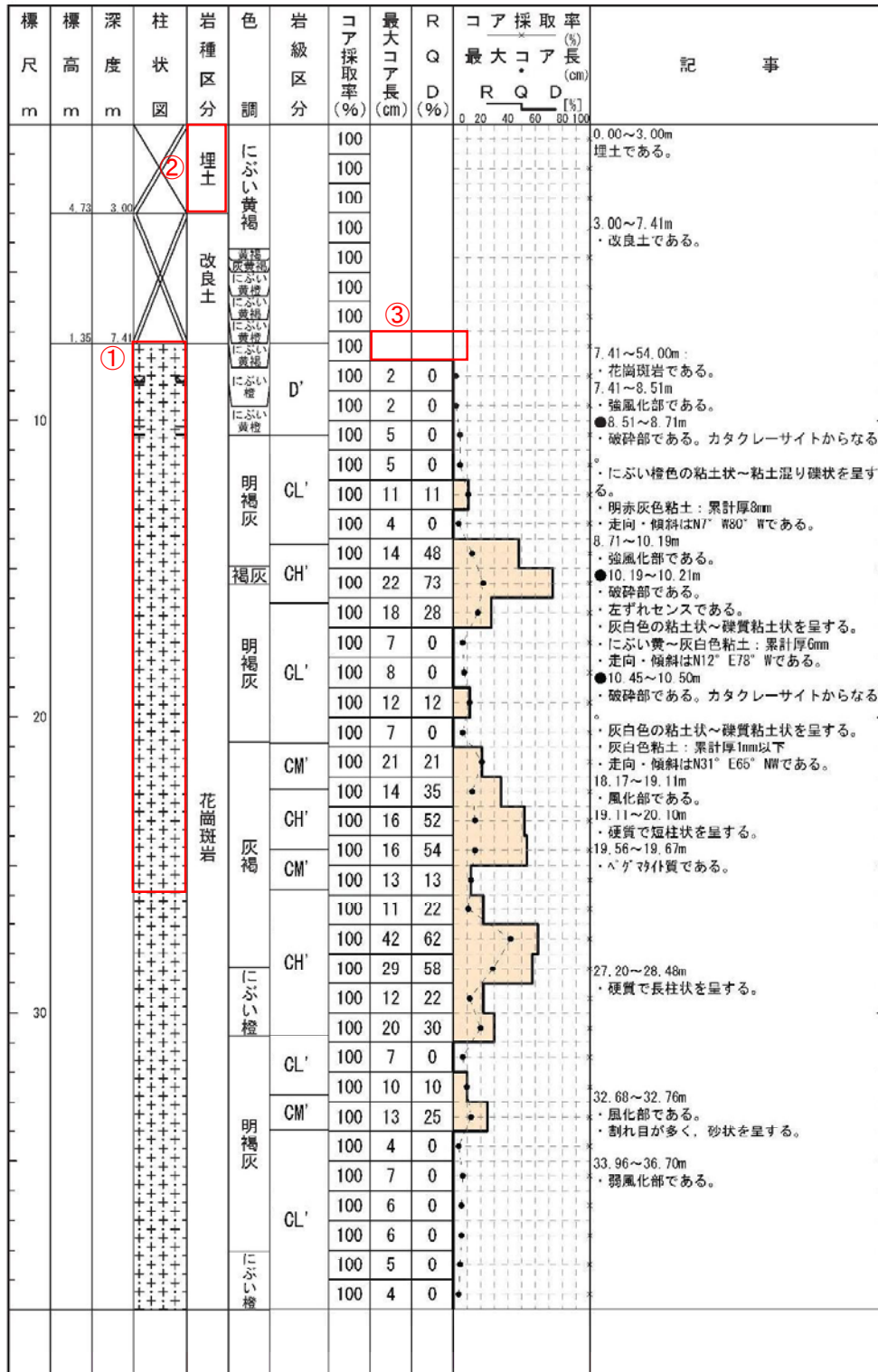
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアラチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
														(N 値)	(図)																			
-42.55	70.00			花崗斑岩										0	10																			
				灰褐	Dg	Vg	cg		3	●63.67~63.90m: 破碎帯 63.67~63.83m: 粘土混り礫状破碎部(Hj)。上端45°, 下端60°で両端とも不明瞭。径20mmまでの岩片間に白色粘土脈が網状に分布。 63.72m: 灰赤色粘土扶瓦。傾斜45°で直線的。幅2~3mm。 63.83~63.88m: 礫質粘土状破碎部(Hb)。下端70°で直線的。幅20~30mm 63.88~63.90m: 粘土状破碎部(Ho-1)。傾斜70°で直線的。幅5~10mm。赤灰色。半固結状。	CL										80		5/30	95	86	タルコアラチューブ / タイヤモンロッドビット / タルコアラチューブ / タイヤモンロッドビット	1.0	150	0.1		泥水?	1		
				明褐灰	Dg	Vg	cg		2	63.90~64.05m: 径5~20mmの岩片と、粘土化した基質からなる。 64.05~66.65m: 傾斜30~60°と、これらに交差する40~80°の割れ目が分布。 66.65~67.05m: 変質で著しく軟化し、角礫状を呈する。 67.05~67.99m: 傾斜60~70°の割れ目が認められる。一部に白~暗緑灰色の粘土脈が分布。 67.88~70.00m: 割れ目は傾斜50~70°が主体。割れ目沿いの砂状化~細片化や暗緑灰色の粘土脈がみられる。	CL																							
				灰褐	Dg	Vg	cg		3																									
				明褐灰	Dg	Vg	cg		2																									

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (cm)	R Q D [%]	記事	
													0
50				花崗斑岩	花崗斑岩	CL'	100	10	10				49.83~52.07m ・緑灰色に変色する。 52.07~52.97m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 56.57~59.47m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 60.06~60.38m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・右ずれセンスである。 ・灰褐色~灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・暗緑灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN41° E50° NWである。 60.38~61.39m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 61.47~61.52m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・暗緑灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN27° W83° Wである。 63.67~63.90m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰白~赤灰色の粘土状~礫混じり粘土状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN19° W89° Wである。 66.65~67.05m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
						CM'	100	7	0				
						CL'	100	12	12				
						CL'	100	6	0				
						CL'	100	5	0				
						CH'	100	12	33				
						CH'	100	18	34				
						CL'	100	9	0				
						CL'	100	8	0				
						CM'	100	9	0				
						CM'	100	14	35				
						D'	100	8	0				
						D'	100	2	0				
						CL'	100	4	0				
						CL'	100	4	0				
						CL'	100	12	12				
						CM'	100	6	0				
						CM'	100	9	0				
						CL'	100	7	0				
						CL'	100	4	0				
CL'	100	4	0										
D'	100	3	0										
D'	100	9	0										
D'	100	5	0										
CL'	100	4	0										
CL'	100	2	0										
CL'	100	3	0										
CL'	100	5	0										

2-8(分類c) ①
 申請書作成の際に模様を見直したため。

H24-D1-5

孔口標高	I.P.	7.03m	掘削長	54.00m
------	------	-------	-----	--------



2-12(分類c)① 申請書作成の際に模様を見直したため。
 2-13(分類c)② 表現を統一したため。
 2-14, 2-15(分類c)③ 基盤上限の1m未満の区間を省いたため。

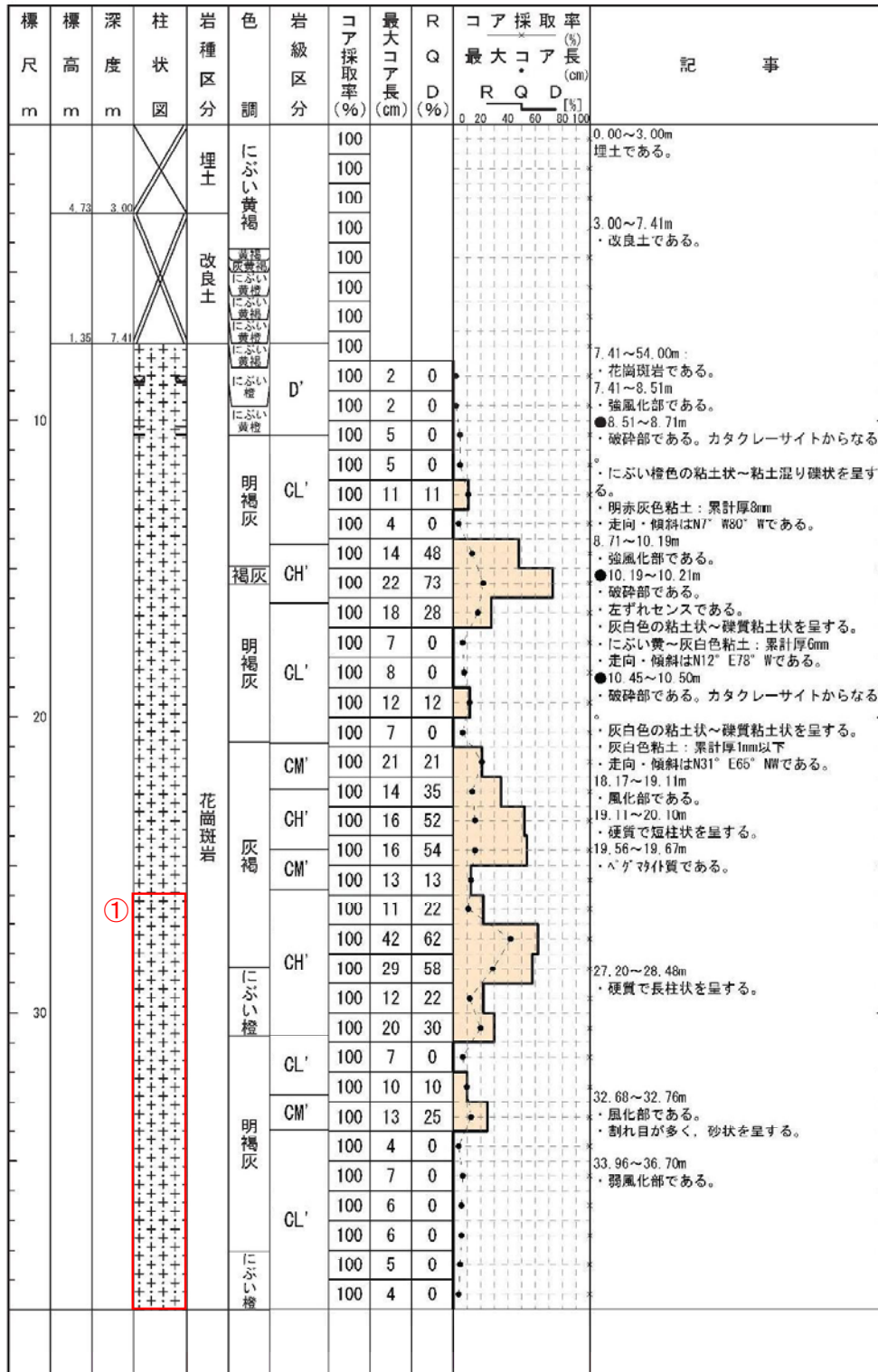
第7.4.4.171図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

6-7-4-1020

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日)	標準貫入試験		原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ/ビット	給送水量 (L/分)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)																																																			
															(N 値)	(N 値~深度) 図																																																													
30			[Image]	花崗斑岩	灰褐	Bg	IIg	bg	γ	2	23.96~24.47m: コアは柱状となる。24.47~25.80m: 傾斜30~50°の割れ目が1~6cm間隔で平行に分布する。一部で細片化する。25.80~27.20m: コアは短柱~柱状を主とする。一部割れ目交差部で細片化がみられる。27.20~28.48m: 堅硬でコアは長柱状を呈する。28.48~30.77m: 傾斜20~50°の割れ目が平行に分布する。割れ目に沿って褐色化する。コアは短柱~柱状を主とする。	[Figure]	CH'															ダブルコア/ナイフ/ダイヤモンドビット	3.0 3.0	200	0.1	泥水10	10																																												
																																		5/31	25	4.0	150	0.1	泥水10	5																																					
																																		6/1	20	4.0	300	0.1	泥水10	0																																					
																																		6/2	25	2.0	200	0.1	泥水10	3																																					
																																		40			[Image]	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	δ	3	2	30.77~31.57m: 上位に比べやや軟化する。傾斜30~50°の割れ目主体。割れ目沿いの砂状化がみられる。31.57~32.68m: 傾斜30~50°の割れ目を主体とする。32.68~32.76m: 風化で砂状化する。上端に明黄褐粘土を伴う。32.76~33.96m: 傾斜40~70°の割れ目が発達し、一部割れ目沿いに砂状化する。33.96~36.70m: 風化により、多くの割れ目沿いやコア表面で砂状化が認められる。36.50~36.70m: 多くの割れ目で灰白色粘土を挟む。36.70~38.73m: 傾斜50~70°と、斜交する20~40°の割れ目が分布。一部で径10~20mmに細片化する。37.73m: 灰白色粘土挟む。傾斜65°、幅1~2mm。周縁5mm前後が淡緑灰色化し、微細な金属鉱物が付着。38.73~38.82m: 砂状化と幅1mm以下の粘土脈を多く伴い劣化する。38.82~40.73m: 傾斜40~70°の割れ目を主体とする。40.73~40.85m: 上端55°、下端60°の割れ目に囲まれ砂状化する。幅2~3mmの灰白~灰赤色粘土脈を伴う。41.08~41.49m: 堅硬でコアは短柱状	[Figure]	CL'																ダブルコア/ナイフ/ダイヤモンドビット	1.0	150	0.1	泥水10	1									
																																																																					55	80	1.5	150	0.1	泥水10	7		
																																																																					6/3	110	86	90	1.0	150	0.1	泥水10	5
																																																																					6/4	80	105	90	1.0	150	0.1	泥水10	7
																																																																					6/5	110	110	110	1.0	150	0.1	泥水10	5
																																																																					6/6	100	100	100	2.0	150	0.1	泥水5	3
																																		50			[Image]	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	2	3	43.25~45.09m: 風化・実質により著しく軟化する。幅1~3mmの灰白色粘土を脈状または網状に伴う。45.09~45.82m: 傾斜30~50°の割れ目主体、割れ目沿いに砂状化する。45.82~45.89m: 粘土混り岩片状を呈する。灰白~灰黄色。●47.47~47.89m: 破砕帯(D-1) 47.47~47.48m: 粘土状破砕部(Ho-1)。上端65°で直線的。幅3~6mm。灰褐色。少量の石英粒を含む。47.48~47.66m: 膠質粘土状破砕部(Hh)。下端は漸移的。幅67mm。径10mmまでの石英、粘土岩片を含む。47.66~47.86m: 粘土混り塊状破砕部(Hj)。下端63°で直線的。径10~40mmに岩片化し、岩片間は灰黄~灰白色に粘土化する。47.86~47.89m: 砂混り粘土状破砕部(Ho-2)。下端60°で直線的。幅15mm。径2~10mmの石英粒を含む。48.30~49.50m: 傾斜40~60°の割れ目主体で、一部で20~30°のものが斜交。一部砂状化~細片化する。52.75~54.00m: 堅硬でコアは短柱~柱状を主とする。傾斜20~60°の割れ目が分布する。	[Figure]	CM'																ダブルコア/ナイフ/ダイヤモンドビット	3.0	200	0.1	泥水10	8									
																																																																					6/7	25	3.0	200	0.1	泥水10	8		
6/8	25	3.0	200	0.1	泥水10	8																																																																							
6/9	20	3.0	150	0.1	泥水10	7																																																																							

H24-D1-5

孔口標高	I.P.	7.03m	掘削長	54.00m
------	------	-------	-----	--------



2-12(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

6-7-4-1020

第7.4.4.171図(1) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図(H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日)	標準貫入 (試験)		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給送水量 (L/分)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)																																																																						
															(N 値 ~ 深度)	図																																																																																
30			[Diagram]	花崗斑岩	灰褐	Bg	IIg	bg	γ	2	23.96~24.47m: コアは柱状となる。24.47~25.80m: 傾斜30~50°の割れ目が1~6cm間隔で平行に分布する。一部で細片化する。25.80~27.20m: コアは短柱~柱状を主とする。一部割れ目交差部で細片化がみられる。27.20~28.48m: 堅硬でコアは長柱状を呈する。28.48~30.77m: 傾斜20~50°の割れ目が平行に分布する。割れ目に沿って褐色化する。コアは短柱~柱状を主とする。	[Graph]	CH'														ダブルコア / ニュー / ダイヤモンド / ビット	3.0	200	0.1	泥水10	10																																																																
											5/31																						25	4.0	150	0.1	泥水10	5																																																										
											6/1																						20	4.0	300	0.1	泥水10	0																																																										
											6/2																						25	2.0	200	0.1	泥水10	3																																																										
											40																								[Diagram]	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	δ	3	30.77~31.57m: 上位に比べやや軟化する。傾斜30~50°の割れ目主体。割れ目沿いの砂状化がみられる。31.57~32.68m: 傾斜30~50°の割れ目を主体とする。32.68~32.76m: 風化で砂状化する。上端に明黄褐色粘土を伴う。32.76~33.96m: 傾斜40~70°の割れ目が発達し、一部割れ目沿いに砂状化する。33.96~36.70m: 風化により、多くの割れ目沿いやコア表面で砂状化が認められる。36.50~36.70m: 多くの割れ目で灰白色粘土を挟む。36.70~38.73m: 傾斜50~70°と、斜交する20~40°の割れ目が分布。一部で径10~20mmに細片化する。37.73m: 灰白色粘土挟む。傾斜65°、幅1~2mm。周縁5mm前後が淡緑灰色化し、微細な金属鉱物が付着。38.73~38.82m: 砂状化と幅1mm以下の粘土脈を多く伴い劣化する。38.82~40.73m: 傾斜40~70°の割れ目を主体とする。40.73~40.85m: 上端55°、下端60°の割れ目に囲まれ砂状化する。幅2~3mmの灰白~灰赤色粘土脈を伴う。41.08~41.49m: 堅硬でコアは短柱状	[Graph]	CL'															ダブルコア / ニュー / ダイヤモンド / ビット	1.0	150	0.1	泥水10	1																																
																																										6/3																							55	1.0	150	0.1	泥水10	1																										
																																										110																									[Diagram]	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	δ	3	36.70~38.73m: 傾斜50~70°と、斜交する20~40°の割れ目が分布。一部で径10~20mmに細片化する。37.73m: 灰白色粘土挟む。傾斜65°、幅1~2mm。周縁5mm前後が淡緑灰色化し、微細な金属鉱物が付着。38.73~38.82m: 砂状化と幅1mm以下の粘土脈を多く伴い劣化する。38.82~40.73m: 傾斜40~70°の割れ目を主体とする。40.73~40.85m: 上端55°、下端60°の割れ目に囲まれ砂状化する。幅2~3mmの灰白~灰赤色粘土脈を伴う。41.08~41.49m: 堅硬でコアは短柱状	[Graph]	CL'												ダブルコア / ニュー / ダイヤモンド / ビット	1.5	150	0.1	泥水10	7			
																																																																										6/4																				80	1.5	150
																																										50																									[Diagram]	花崗斑岩	明褐灰	Dg	Vg	cg	2	42.23~42.74m: 傾斜50~60°で幅1mm前後の石英脈が多数分布する。42.74~43.25m: 風化で割れ目は不明瞭となる。43.25~45.09m: 風化・実質により著しく軟化する。幅1~3mmの灰白色粘土を脈状または網状に伴う。45.09~45.82m: 傾斜30~50°の割れ目主体、割れ目沿いに砂状化する。45.82~45.89m: 粘土混り岩片状を呈する。灰白~灰黄色。47.47~47.89m: 破砕帯(D-1) 47.47~47.48m: 粘土状破砕部(Ho-1)。上・下端65°で直線的。幅3~6mm。灰褐色。少量の石英粒を含む。47.48~47.66m: 膠質粘土状破砕部(Hb)。下端は漸移的。幅67mm。径10mmまでの石英、粘土岩片を含む。47.66~47.86m: 粘土混り塊状破砕部(Hj)。下端63°で直線的。径10~40mmに岩片化し、岩片間は灰黄~灰白色に粘土化する。47.86~47.89m: 砂混り粘土状破砕部(Ho-2)。下端60°で直線的。幅15mm。径2~10mmの石英粒を含む。48.30~49.50m: 傾斜40~60°の割れ目主体で、一部で20~30°のものが斜交。一部砂状化~細片化する。52.75~54.00m: 堅硬でコアは短柱~柱状を主とする。傾斜20~60°の割れ目が分布する。	[Graph]	CM'															ダブルコア / ニュー / ダイヤモンド / ビット	3.0	200	0.1	泥水10	8
																																																																										6/5																						
											6/6																						100	2.0	150	0.1	泥水5	3																																																										
											6/7																						25	3.0	200	0.1	泥水10	8																																																										
6/8	25	3.0	200	0.1	泥水10	8																																																																																										
6/9	20	3.0	150	0.1	泥水10	7																																																																																										

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	記事	
													0 20 40 60 80 100
		50	①	花崗斑岩	にぶい 橙 明褐灰 橙	CL'	100	11	11		<p>41.08~41.49m ・硬質で短柱状を呈する。</p> <p>43.25~45.09m ・風化部である。 ・割れ目が多く、砂~角礫状を呈する。</p> <p>●47.47~47.89m(D-1破碎帯) ・破碎部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰黄~黄灰色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐~褐灰色粘土：累計厚6mm ・走向・傾斜はN1° E88° Wである。</p> <p>52.75~54.00m ・硬質で短柱~柱状を呈する。</p>		
						明褐灰 灰黄	CL'	100	2			0	
						明褐灰 灰黄	CL'	100	1			0	
						明褐灰 灰黄	CL'	100	3			0	
					明褐灰 灰黄	CL'	100	4	0				
					明褐灰 灰黄	CL'	100	4	0				
					明褐灰 灰黄	CL'	100	3	0				
					明褐灰 灰黄	CL'	100	7	0				
					明褐灰 灰黄	CL'	100	10	10				
					明褐灰 灰黄	CL'	100	10	10				
					明褐灰 灰黄	CL'	100	19	29				
					明褐灰 灰黄	CL'	100	12	24				

2-12(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

H19-No. 2

孔口標高	T.P. 127.40m	掘削長	220.00m
------	--------------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	①	記 事
				花崗斑岩	灰黄	①	100	0	0				00~4.70m ・花崗斑岩である。 ・12~4.70m ・強風化部である。 ・2.35~2.42m ・変質が強い。
	124.26	4.70		にぶい黄			100	0	0				
				アブライト	灰黄	①	100	0	0				4.70~8.00m ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭である。 ・強風化しており、割れ目に植物根を挟む。
	122.05	8.90					100	0	0				
				花崗斑岩	明赤灰		100	0	0				8.00~10.20m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は不明瞭である。 ・強風化しており、割れ目に酸化マンガン を挟む。
	120.57	10.20					100	0	0				
				アブライト	灰白		100	18	18				10.20~90.62m ・アブライトが主体である。 ・所々に花崗斑岩とペグマタイトを挟む。 ・上端境界は不明瞭である。
	118.70	13.00					100	30	56				
	118.40	13.45		ベグマタイト	灰白	CL'	100	13	35				13.00~13.45m
				アブライト	灰白		100	12	12				15.21~15.35m
	117.22	15.21		ベグマタイト	にぶい黄	GM'	100	43	75				17.68~87.90m ・ペグマタイトである。 ・アブライトとの境界は傾斜10°~45°である。
					灰白		100	33	66				
					明褐灰	CL'	100	24	44				
					にぶい黄		100	12	12				18.30~19.10m ・強風化部である。
				アブライト			100	22	22				
					にぶい黄	CL'	100	14	37				
					にぶい橙		100	10	10				
					橙	D'	100	8	0				22.58~24.38m ・変質している。 ・粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は6°、下端境界の傾斜は5°である。
					明褐灰	CL'	100	20	30				
					明褐灰		100	23	82				24.38~24.46m ・破砕部である。 ・砂質シルト状を呈する。 ・砂質シルト：累計厚65mm ・ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は43°である。
					灰黄褐	CM'	100	31	84				
	108.23	28.65					100	58	76				26.14~29.62m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
				花崗斑岩	灰黄	CL'	100	46	94				28.65~30.30m ・花崗斑岩である。 ・上端境界、下端境界は漸移的である。
	107.13	30.30			にぶい黄		100	30	63				29.89~30.00m ・ドレライトを挟む。
					にぶい黄		100	17	30				31.10~31.44m ・変質している。 ・灰白色粘土を網目状に挟む。 ・上端境界の傾斜は3°、下端境界の傾斜は2°である。
					灰黄褐		100	19	40				
					にぶい黄		100	41	95				31.44~44.90m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
					明黄褐		100	25	47				36.21~36.48m ・変質している。 ・粘土化している。
					にぶい黄		100	27	81				39.83~39.89m ・変質している。
					明黄褐		100	20	60				
					明黄褐		100	25	69				
					にぶい黄		100	26	80				
					明黄褐		100	29	82				
					明黄褐		100	52	98				

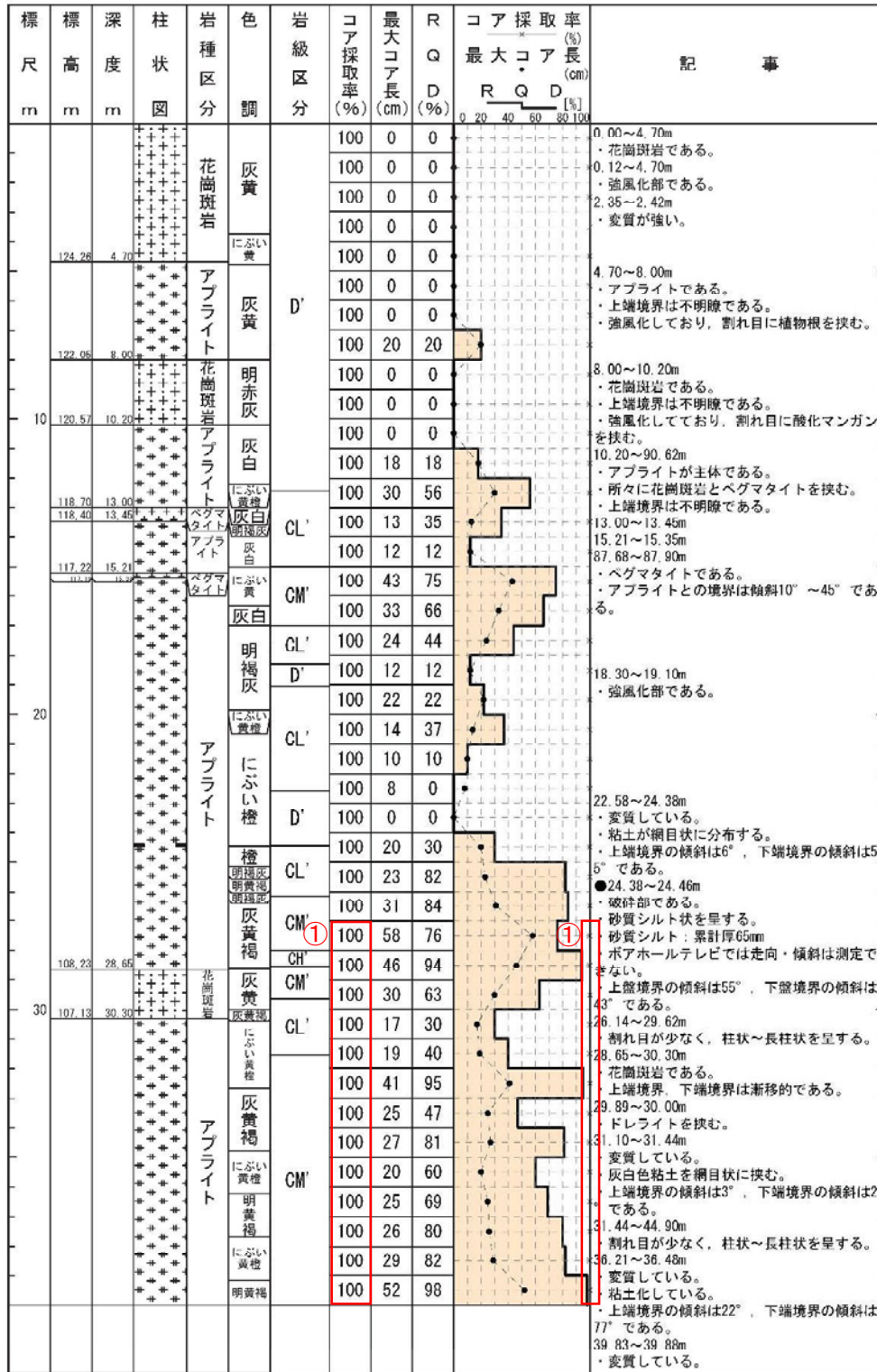
2-16~2-18(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1032

第7.4.4.174図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

H19-No. 2

孔口標高	T.P. 127.40m	掘削長	220.00m
------	--------------	-----	---------



2-18(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

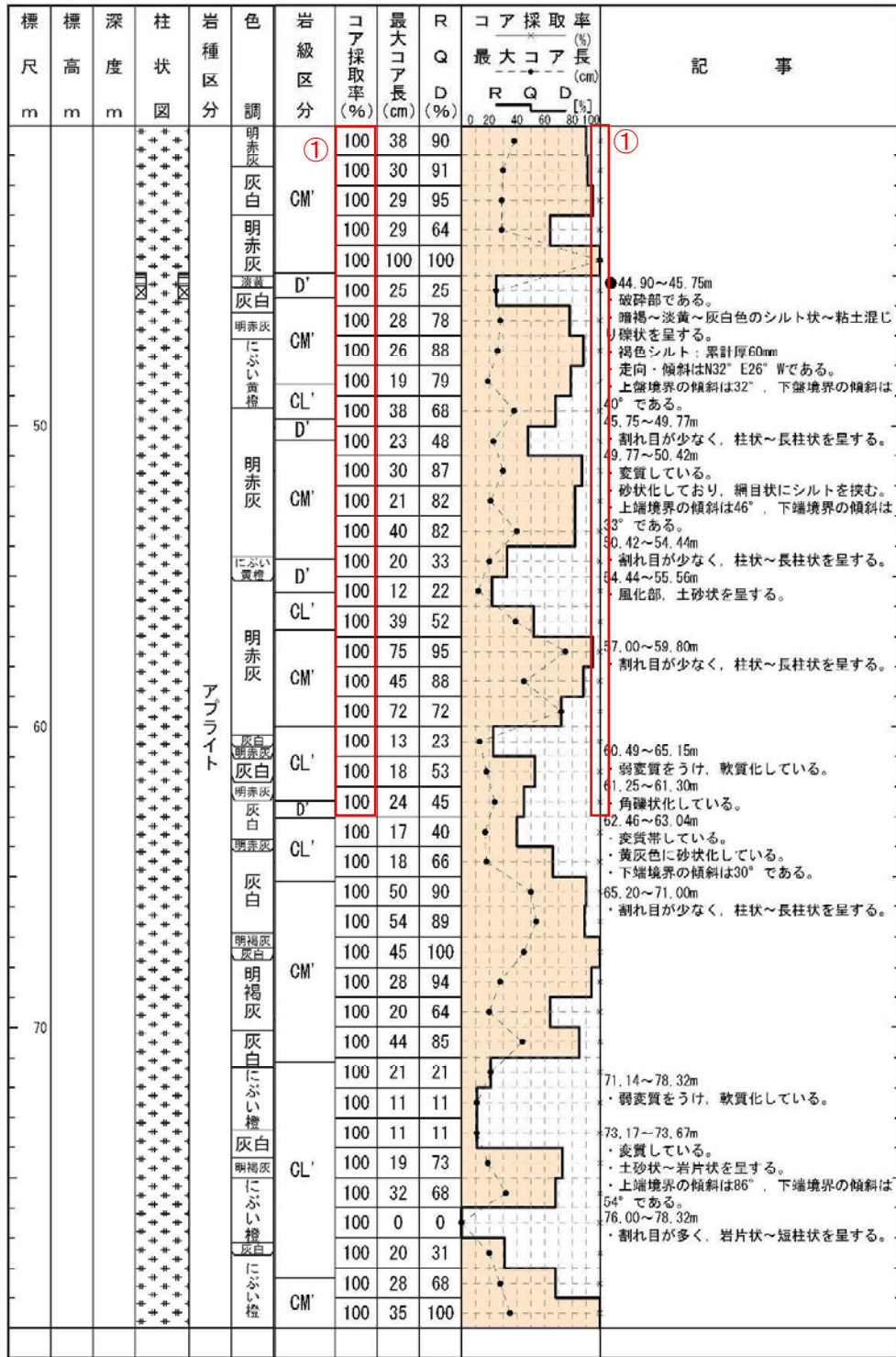
6-7-4-1032

第7.4.4.174図(1) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H19-No.2孔)

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D □ [%]	岩盤分類	孔内水位(測定月日) (N) 値	標準貫入試験) 試験 (N 値 ~ 深度)					原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (KN・MPa)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)						
													0	10	20	30	40									50					
108.23	28.65		<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 5px;">↑</div> </div>	灰黄褐 Ilg	β	1 花崗斑岩。上位との境界漸移的。 深度28.65~30.30m: 花崗斑岩。 径3~5mm程度の長石、石英及び黒雲母の賦存を3~5%程度含み、石礫は径0.1mm以下である。 2 2 花崗斑岩とアプライトの境界、漸移的。 3 3 深度31.10~31.44m: 変質帯。上盤3度、下盤2度。灰白色粘土を網目状に挟む。 3 3 深度31.44~36.21m: 全体に風化するが褐色化弱く、割れ目に沿ってのみ黒褐色化する。	0	50	100	0	10	20	30	40	50			12/24 27.20	53												
107.13	30.30			花崗斑岩	灰黄 Ilg		β			OM										71	115										
					にぶい黄橙		Ilg	β			CL									72											
					灰黄褐		Ilg	β													70										
					明黄褐		Ilg	β			OM											109									
					灰白		Ilg	γ														76									
					明赤灰		Ilg	β														135									
					淡黄灰白		Ilg	β														60									
					明赤灰		Ilg	β														50									
					灰白		Ilg	β														92									
					明赤灰	Ilg	β																								
					灰白	Ilg	β																								

ダブルコアチューブ/ダイヤビット

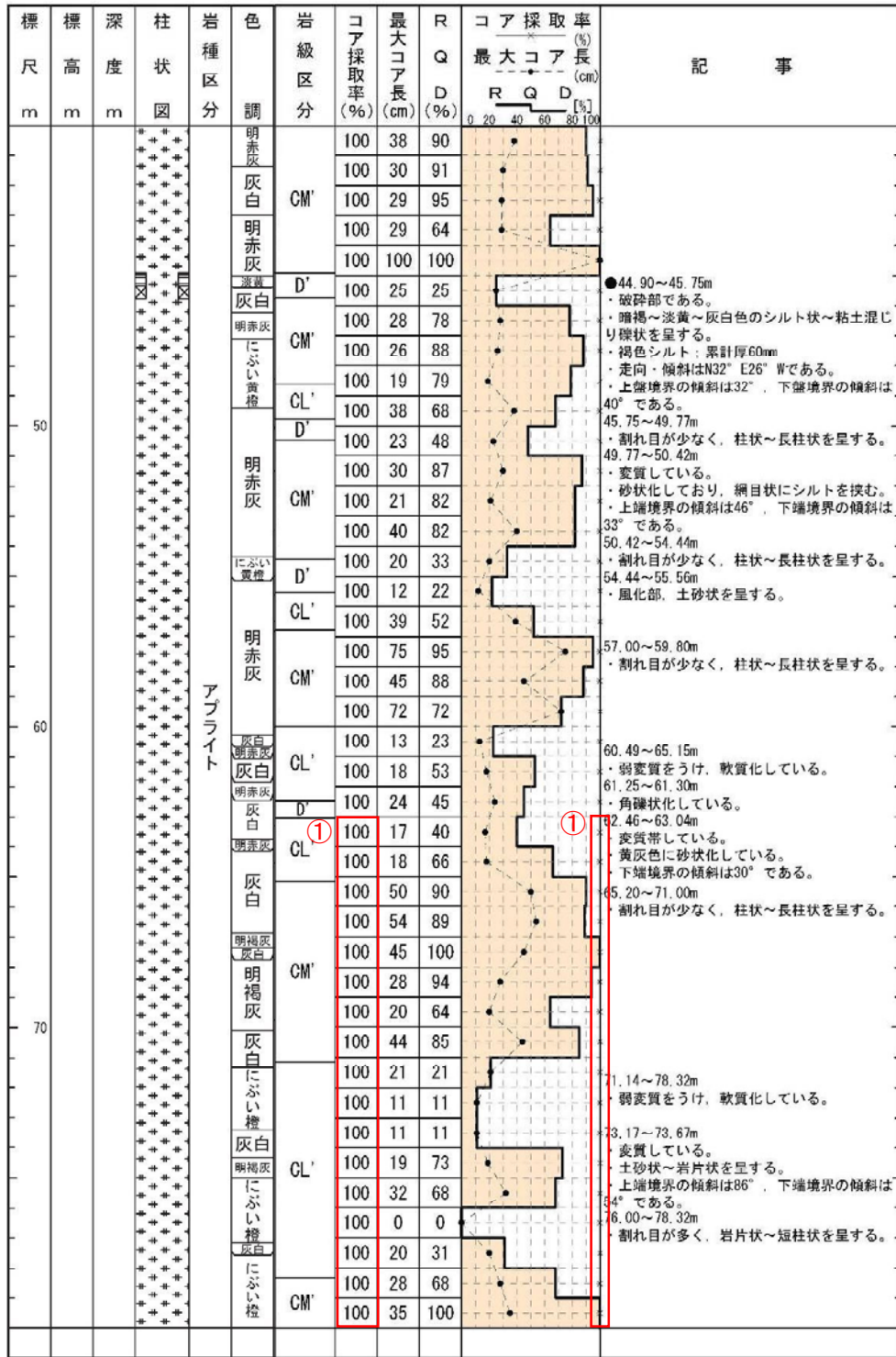
No.2(2/7)



2-18(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

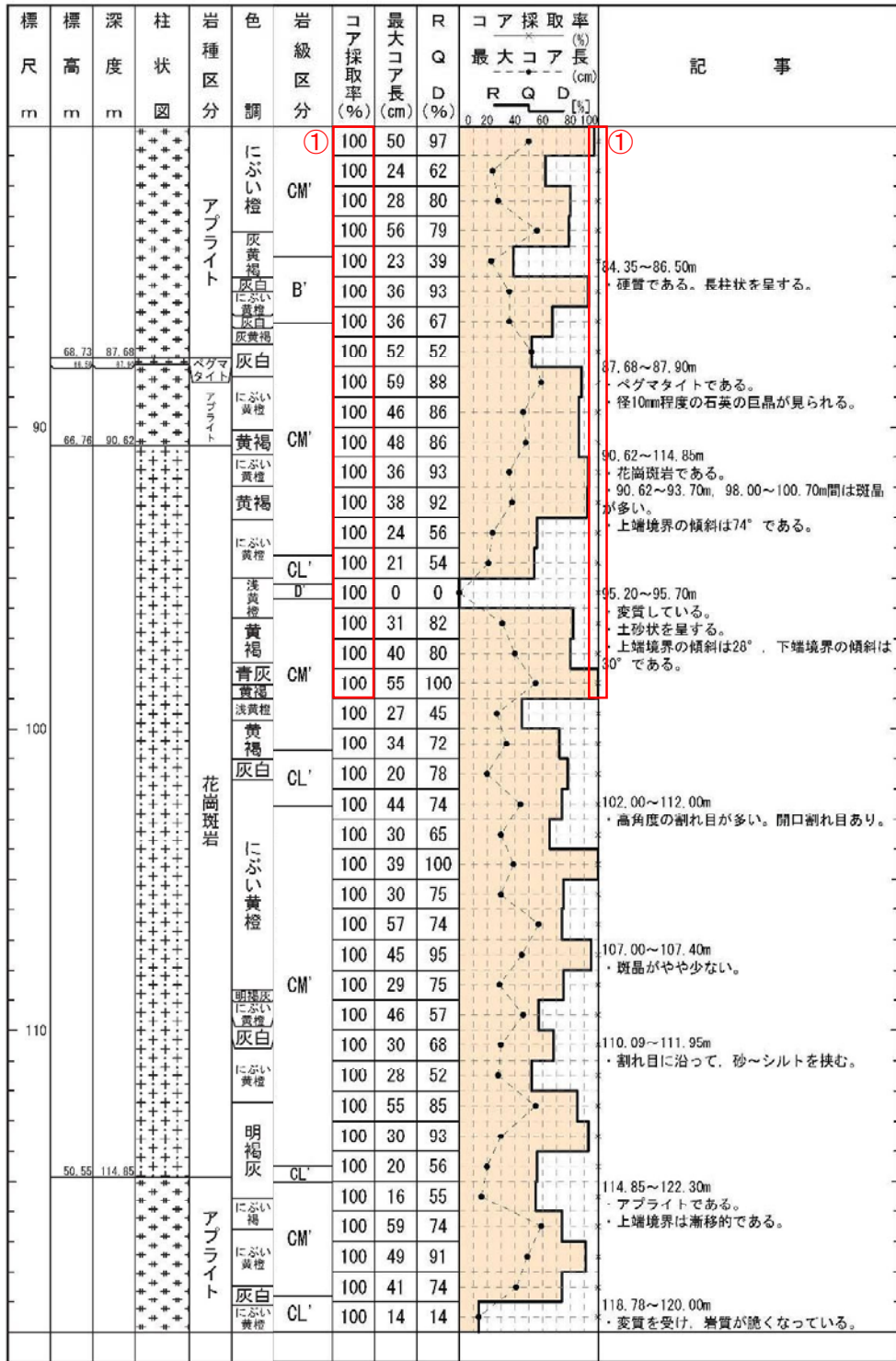
標 尺 高 度 (m)	標 尺 深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	割 れ 目 の 状 態	風 化	変 質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩 盤 分 類	孔 内 水 位 測 定 日 値	(標準貫入試験) 試験		原 位 置 試 験 (孔 内 水 平 載 荷)	室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm)	孔 壁 保 護	コ ア チ ュー ブ ピ ット	給 圧 (KN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (1/分)	排 水 量 (1/分)								
													(N 値 ~ 深度)																				
70	68.73 68.58			灰白 明褐色	IVg Dg IVg Dg		γ	2	深度64.65~65.15m：黒褐色顕著。 深度65.00~66.87m：風化を受け全体に褐色化している。	17 140 118 94 57 190	CL [CL]		1 19 61.45					92															
70				明褐色 灰白	IVg Dg IVg Dg	β	1	深度67.60~68.08m：径0.3cm程度の珪晶を3~5%程度含む。 深度68.75~69.20m：珪晶が散在する。	28 194 25 164	CM [CM]			1 16 68.50																				
80			アプライト	灰白 いぶい橙	IVg Dg IVg Dg	γ	3	深度71.14~78.32m：やや変質うけ、軟質化している。	31 111				1 70.85 77.64																				
								深度73.17~73.67m：変質帯。上盤86度。下盤54度。土砂状。 深度73.67m：シーム。傾斜54度。幅2~4mm。灰白・暗褐色粘土状。	11 119 32 193	CL [CL]																							
								深度76.00~78.32m：割れ目多い。開口した割れ目にペントナイトが流入している。割れ目は黒褐色顕著。 深度78.22~82.82m：わずかに褐色化した新鮮岩。節理に沿って黒褐色帯びる。	23 191 28 168 35 100 56 191																								
80			アプライト	いぶい橙	IVg Dg IVg Dg	β	2	深度82.28~82.78m：変質受け溶解する。 深度83.00~87.68m：全体に褐色化顕著。黒褐色の部分も見られる。	28 192 138 181				2 15 83.20																				
90	66.76 90.62		アプライト	灰白 いぶい黄橙 黄褐	IVg Dg IVg Dg	γ	3	深度87.68~87.90m：ベグマタイト。径10mm程度の石英の巨晶が見られる。 花崗斑岩。上位との境界は傾斜74度。部分的に同方向の節理に沿って変質受け。 深度90.62~114.85m：花崗斑岩。珪晶がやや細粒な花崗斑岩である。径3~10mm程度の石英、長石及び黒雲母の珪晶を10~40%程度含み、石基は0.1~0.5mm程度である。石基の組織は均質である。 深度90.62~93.70mおよび深度98.00~100.70m間は珪晶が多い。 深度93.00~95.20m：やや変質が見られ、脱色している。 深度95.20~95.70m：変質帯。上盤28度。下盤30度。土砂状。 深度95.54m：シーム。傾斜39度。幅5mm。明褐色粘土状。	52 182 59 188 46 186 48 180 38 191 44 184 2 184 3 181	CL [CL]																							
				黄褐 いぶい黄橙 黄褐 青灰 黄褐	IVg Dg IVg Dg IVg Dg IVg Dg	β	2		45 180 55 180	CM [CM]																							

ダブルコアチューブ/ダイヤピット



2-18(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

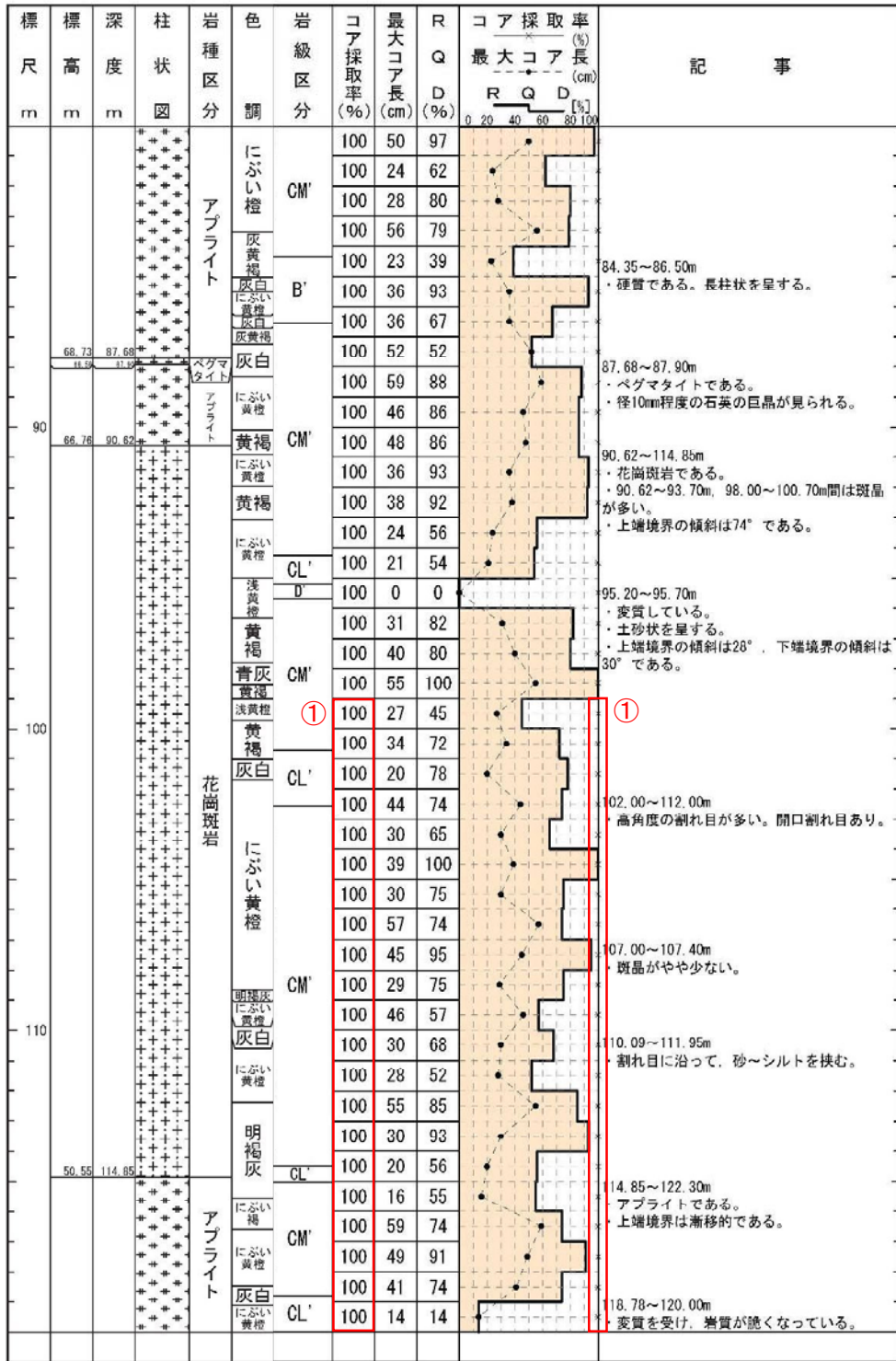
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 — (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩盤区分	孔内水位/測定月日 (N) 値	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)																																					
															(N 値 ~ 深度)																																																			
70	68.73	87.68	[Pattern: Dotted]	アプライト	灰白	IVg	cg	γ	2	2	深度64.65~65.15m: 黒褐色顕著。 深度65.00~66.87m: 風化を受け全体に褐色化している。	17, 140, 118, 161, 190, 154, 189, 145, 1000, 28, 164, 25, 164, 44, 160	CL [CL]	1/29 61.40	92	1/16 66.50	1/23 70.85	1/25 77.64	1/17 75.80	1/18 83.20	1/19 86.20	1/20 91.60	1/22 96.00	ダブルコアチューブ/ダイヤモンド	20.0	100	0.0	泥水5	0	No.2(3/7)																																				
80	68.58	87.90																													[Pattern: Dotted]	アプライト	灰白	IVg	cg	γ	2	2	深度71.14~78.32m: やや変質うけ、軟質化している。 深度73.17~73.67m: 変質帯。上盤86度、下盤54度、土砂状。 深度73.67m: シーム。傾斜54度。幅2~4mm。灰白・暗褐色粘土状。 深度76.00~78.32m: 割れ目多い、開口した割れ目にベントナイトが流入している。割れ目は黒褐色顕著。 深度78.22~82.82m: わずかに褐色化した新鮮岩。節理に沿って黒褐色帯びる。 深度82.28~82.78m: 変質受け溶融する。 深度83.00~87.68m: 全体に褐色化顕著。黒褐色の部分も見られる。	11, 111, 119, 193, 160, 23, 191, 28, 168, 35, 1000, 56, 191, 44, 192, 28, 800, 68, 138, 38, 181, 48, 161, 52, 132, 59, 188, 46, 186, 48, 180, 38, 181, 44, 150, 2, 140, 41, 181, 45, 160, 55, 1000	CL [CL]	1/25 83.20	76	1/18 83.20	1/19 86.20	1/20 91.60	1/22 96.00	75	98	58																
90	66.76	90.62																																																	[Pattern: Dotted]	アプライト	灰白	IVg	cg	γ	2	2	深度87.68~87.90m: ベグマタイト。径10mm程度の石英の巨晶が見られる。 花崗斑岩。上位との境界は傾斜74度。部分的に同方向の節理に沿って変質受ける。 深度90.62~114.85m: 花崗斑岩。斑晶がやや細粒な花崗斑岩である。径3~10mm程度の石英、長石及び黒雲母の斑晶を10~40%程度含み、石基は0.1~0.5mm程度である。石基の組織は均質である。 深度90.62~93.70mおよび深度98.00~100.70m間は斑晶が多い。 深度93.00~95.20m: やや変質が見られ、脱色している。 深度95.20~95.70m: 変質帯。上盤28度、下盤30度、土砂状。 深度95.54m: シーム。傾斜39度。幅5mm。明褐色粘土状。	59, 188, 46, 186, 48, 180, 38, 181, 44, 150, 2, 140, 41, 181, 45, 160, 55, 1000	CL [CL]	1/20 91.60	104	1/22 96.00	98	58



2-18(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩盤区分	岩級分類	(標準貫入試験) 試験			原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)		
													N 値 ~ 深度													
													N 値													
													0	10	20	30	40	50								
100				花崗斑岩	黄褐	Cg	IIIg	cg	深度99.70~101.00m: 全体に褐色化顕著。	97 [163]	OM			1/23		58										
				花崗斑岩	灰白	Dg	IVg	cg	深度101.82m: 幅1~2mm, 黄褐色固結シルト状。 深度102.00~112.00m: 全体にわずかに褐色化している。高角度な節理が多く、節理に沿って黒褐色化している。開口割れ目あり。	94 [172] 95 [178] 94 [174]	CL					83										
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	IVg	cg	深度107.00~107.40m: やや斑晶が少ない。	96 [160] 90 [178]	OM			1/24		66.60										
110				花崗斑岩	灰白	Cg	IVg	cg	深度110.09~111.95m: 全体に褐色化した柱状コア。節理に沿って砂~シルトを挟む。	95 [151] 90 [161]	OM					135										
		50.55	114.85	花崗斑岩	明褐灰	Dg	IVg	cg	深度113.00~114.48m: 褐色化弱くなる。	89 [154] 90 [161]	CL			1/25		63.70										
				アブライト	明褐灰	Dg	IVg	cg	アブライト、上位との境界漸移的。深度114.85~136.85m: アブライト。アブライト主体で、花崗斑岩を挟む。アブライトの石基は径0.1mm以下であるが、一部径0.2mm程度で、組織は全体に不均質である。	91 [150] 86 [161]	OM	OM				76										
				アブライト	灰白	Dg	IVg	cg	深度118.78~120.00m: 全体に変質うけ、岩質が脆くなる。	91 [174] 81 [174]	CL					109										
				アブライト	明褐灰	Dg	IVg	cg	深度120.00~122.00m: 全体に褐色化し、織状をなす。	84 [144] 85 [146] 91 [151]	OM			1/26		21.30										
120		45.57	122.30	花崗斑岩	灰白	Bg	IIIg	cg	花崗斑岩、上位との境界漸移的。深度122.30~123.70m: 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石及び径0.5~2mmの黒雲母の斑晶を10~40%程度含み、石基は径0.1~0.2mm程度。深度118.20m付近には、幅4cm傾斜約40度の緻密なアブライト脈を挟む。アブライト、上位との境界漸移的。	84 [169] 81 [161] 81 [161]	B'	B'					69									
		44.63	123.70	花崗斑岩	明褐灰	Dg	IVg	cg	深度125.00~125.47m: 全体に変質をうけ、岩質が脆くなる。	86 [151]	OM			1/27		25.20										
				アブライト	灰白	Bg	IIIg	cg	深度125.47~128.29m: わずかに褐色化した柱状コア。	86 [186] 83 [170]	CH					100										
				アブライト	明褐灰	Dg	IVg	cg	深度128.29~129.35m: 全体に褐色化している。節理に沿って黒褐色を呈し、褐色シルトを挟む。	88 [150] 88 [162]	OM															
130				アブライト	灰白	Cg	IVg	cg	深度131.45~131.90m: 斑晶散在。	88 [161] 88 [161]	OM			1/29		31.20										
				アブライト	明褐灰	Dg	IVg	cg	深度134.30~134.50m: 斑晶散在。 深度134.77~135.30m: 節理多く、角礫状。節理に沿って砂~シルトを挟む。	86 [170] 85 [161]	CL					90										

ダブルコアチューブ/ダイヤビット



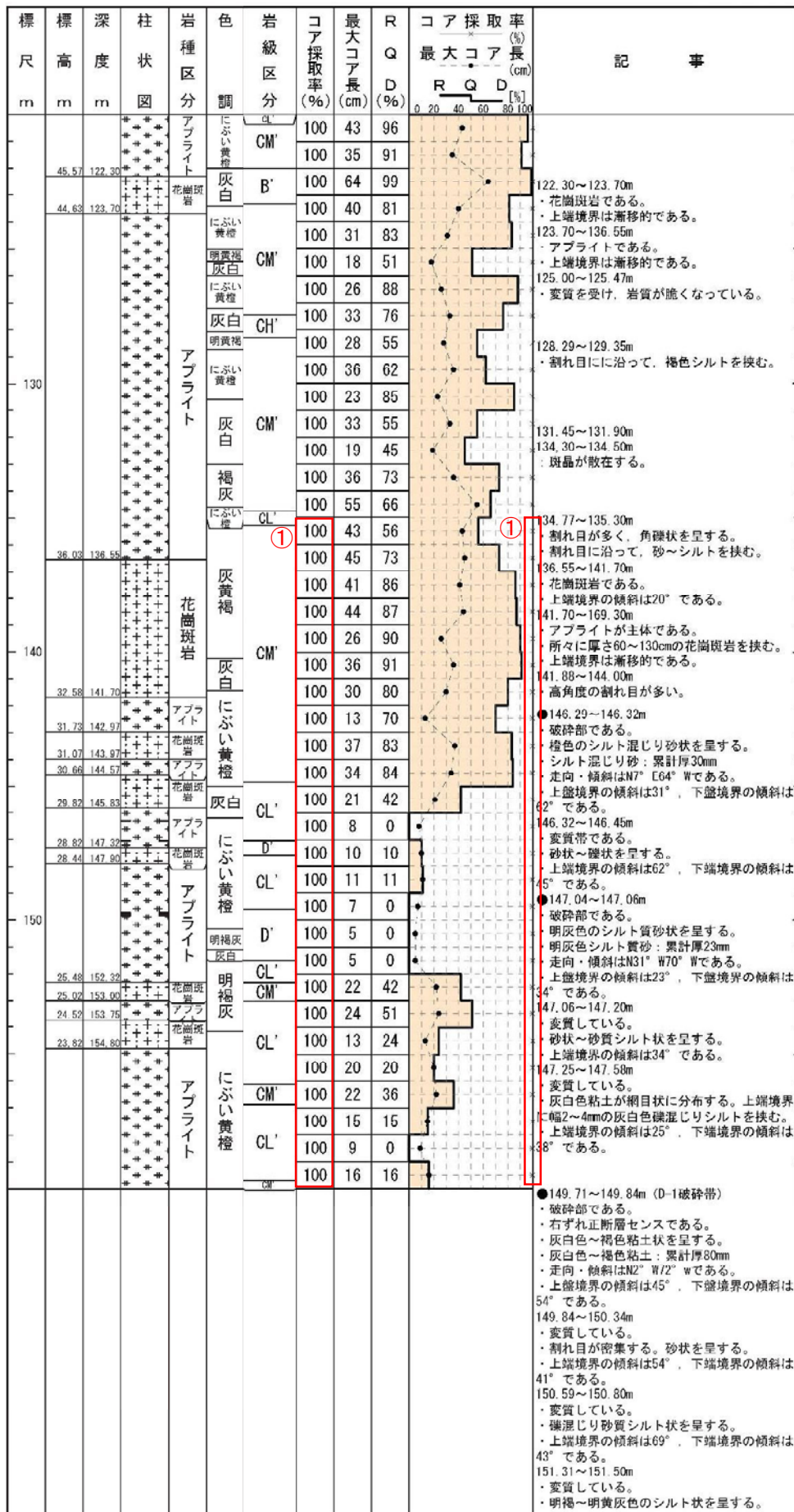
2-18(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	風割れ目	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩盤区分	孔内水位(測定月日) (N) 値	(標準貫入試験) 試験					原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)			
														(N 値 ~ 深度)															
		100		花崗斑岩	黄褐	IIIg	cg			深度99.70~101.00m: 全体に褐色化顕著。	97, 143	OM		1/23 86.30	58														
				花崗斑岩	灰白	IVg	Dg			深度101.82m: 幅1~2mm, 黄褐色固結シルト状。 深度102.00~112.00m: 全体にわずかに褐色化している。高角度な節理が多く、節理に沿って黒褐色化している。開口割れ目あり。	134, 172, 178, 174	CL			83														
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIg	IIg			深度107.00~107.40m: やや斑晶が少ない。	39, 100, 178	OM		1/24 86.60															
				花崗斑岩	明褐灰	IIg	IIg		β	深度110.09~111.95m: 全体に褐色化した柱状コア。節理に沿って砂~シルトを挟む。	151, 161	OM			135														
				花崗斑岩	灰白	IVg	Dg			深度113.00~114.48m: 褐色化弱くなる。	128, 152, 185	CL		1/25 83.70															
		50.55	114.85	アブライト	にぶい黄橙	IVg	cg			アブライト、上位との境界漸移的。深度114.85~136.85m: アブライト。アブライト主体で、花崗斑岩を挟む。アブライトの石基は径0.1mm以下であるが、一部径0.2mm程度で、組織は全体に不均質である。	146, 150, 159, 174	OM	[OM]		76														
				アブライト	灰白	IVg	Dg		γ	深度118.78~120.00m: 全体に変質うけ、岩質が脆くなる。	141, 174	CL			109														
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IIg	cg		β	深度120.00~122.00m: 全体に褐色化し、織状をなす。	144, 146, 191	OM		1/26 81.30															
		45.57	122.30	花崗斑岩	灰白	Ig	bg		α	花崗斑岩、上位との境界漸移的。深度122.30~123.70m: 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石及び径0.5~2mmの黒雲母の斑晶を10~40%程度含み、石基は径0.1~0.2mm程度。深度118.20m付近には、幅4cm傾斜約40度の緻密なアブライト脈を挟む。アブライト、上位との境界漸移的。	141, 181, 183	B			69														
		44.63	123.70	アブライト	にぶい黄橙	IIg	bg		β	深度125.00~125.47m: 全体に変質をうけ、岩質が脆くなる。 深度125.47~128.29m: わずかに褐色化した柱状コア。	141, 181, 183	OM		1/27 85.20															
				アブライト	明黄橙	IVg	cg		γ	深度128.29~129.35m: 全体に褐色化している。節理に沿って黒褐色を呈し、褐色シルトを挟む。	128, 150, 182	OM			100														
				アブライト	灰白	IVg	Dg			深度131.45~131.90m: 斑晶散在。	138, 182, 184	OM		1/29 81.20															
				アブライト	明黄橙	IVg	cg		β	深度134.30~134.50m: 斑晶散在。 深度134.77~135.30m: 節理多く、角礫状。節理に沿って砂~シルトを挟む。	136, 173, 184	CL			90														

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分①	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%)	最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	記 事	
														0
130	45.57	122.30	+	アブライト	にぶい黄橙	CL'	100	43	96	①	22.30~123.70m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。	0	0	
						CM'	100	35	91					
						B'	100	64	99					
	44.63	123.70	+	花崗斑岩	にぶい黄橙	明黄橙	CM'	100	40	81	23.70~136.55m アブライトである。 ・上端境界は漸移的である。	0	0	
							CM'	100	31	83				
							CH'	100	26	88				
	25.00	125.47m	+	アブライト	明黄橙	灰白	CH'	100	33	76	25.00~125.47m ・変質を受け、岩質が脆くなっている。	0	0	
							CM'	100	28	55				
							CM'	100	36	62				
	28.29	129.35m	+	アブライト	にぶい黄橙	灰白	CM'	100	23	85	28.29~129.35m ・割れ目に沿って、褐色シルトを挟む。	0	0	
							CM'	100	33	55				
							CM'	100	19	45				
	31.45	131.90m	+	アブライト	褐色	褐色	CM'	100	36	73	31.45~131.90m 34.30~134.50m ・斑晶が散在する。	0	0	
							CL'	100	55	66				
							CL'	100	43	56				
140	36.03	136.55	+	花崗斑岩	灰黄褐	CM'	100	45	73	34.77~135.30m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ・割れ目に沿って、砂~シルトを挟む。	0	0		
						CM'	100	41	86					
						CM'	100	44	87					
	136.55	141.70m	+	花崗斑岩	灰白	CM'	100	26	90	136.55~141.70m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は20°である。	0	0		
						CM'	100	36	91					
						CM'	100	30	80					
	141.70	169.30m	+	アブライト	にぶい黄橙	CL'	100	13	70	141.70~169.30m ・アブライトが主体である。 ・所々に厚さ60~130cmの花崗斑岩を挟む。 ・上端境界は漸移的である。	0	0		
						CL'	100	37	83					
						CL'	100	34	84					
	146.29	146.32m	+	アブライト	にぶい黄橙	CL'	100	21	42	141.88~144.00m ・高角度の割れ目が多い。	0	0		
						CL'	100	8	0					
						CL'	100	10	10					
	146.32	146.45m	+	アブライト	にぶい黄橙	CL'	100	11	11	●146.29~146.32m ・破砕部である。 ・橙色のシルト混じり砂状を呈する。 ・シルト混じり砂：累計厚30mm ・走向・傾斜はN7° E64° Wである。 ・上端境界の傾斜は31°、下盤境界の傾斜は62°である。	0	0		
						CL'	100	7	0					
						CL'	100	5	0					
147.04	147.06m	+	アブライト	明黄橙	CL'	100	5	0	146.32~146.45m ・変質帯である。 ・砂状~礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は62°、下盤境界の傾斜は45°である。	0	0			
					CL'	100	7	0						
					CL'	100	5	0						
147.06	147.20m	+	アブライト	明黄橙	CL'	100	22	42	●147.04~147.06m ・破砕部である。 ・明灰色のシルト質砂状を呈する。 ・明灰色シルト質砂：累計厚23mm ・走向・傾斜はN31° W70° Wである。 ・上端境界の傾斜は23°、下盤境界の傾斜は34°である。	0	0			
					CL'	100	24	51						
					CL'	100	13	24						
147.25	147.58m	+	アブライト	にぶい黄橙	CM'	100	20	20	147.06~147.20m ・変質している。 ・砂状~砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は34°である。	0	0			
					CM'	100	22	36						
					CL'	100	15	15						
149.71	149.84m	+	アブライト	にぶい黄橙	CL'	100	9	0	147.25~147.58m ・変質している。 ・灰白色粘土が絹目状に分布する。上端境界に幅2~4mmの灰白色礫混じりシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は25°、下盤境界の傾斜は38°である。	0	0			
					CM'	100	16	16						
					CM'	100	16	16						

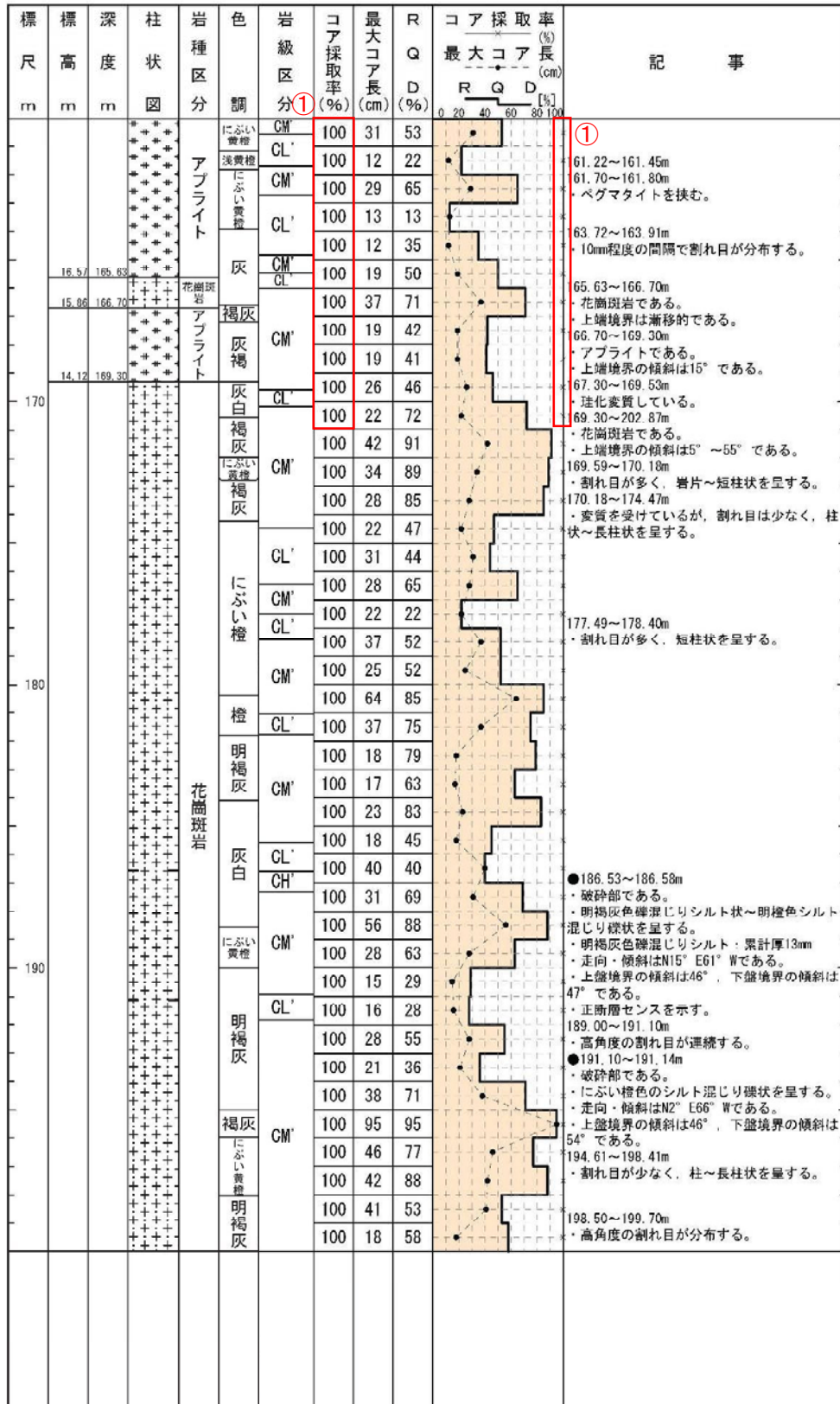
第7.4.4.174図 (4) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.2孔)

2-18(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。



第7.4.4.174図(4) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H19-No.2孔)

2-18(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

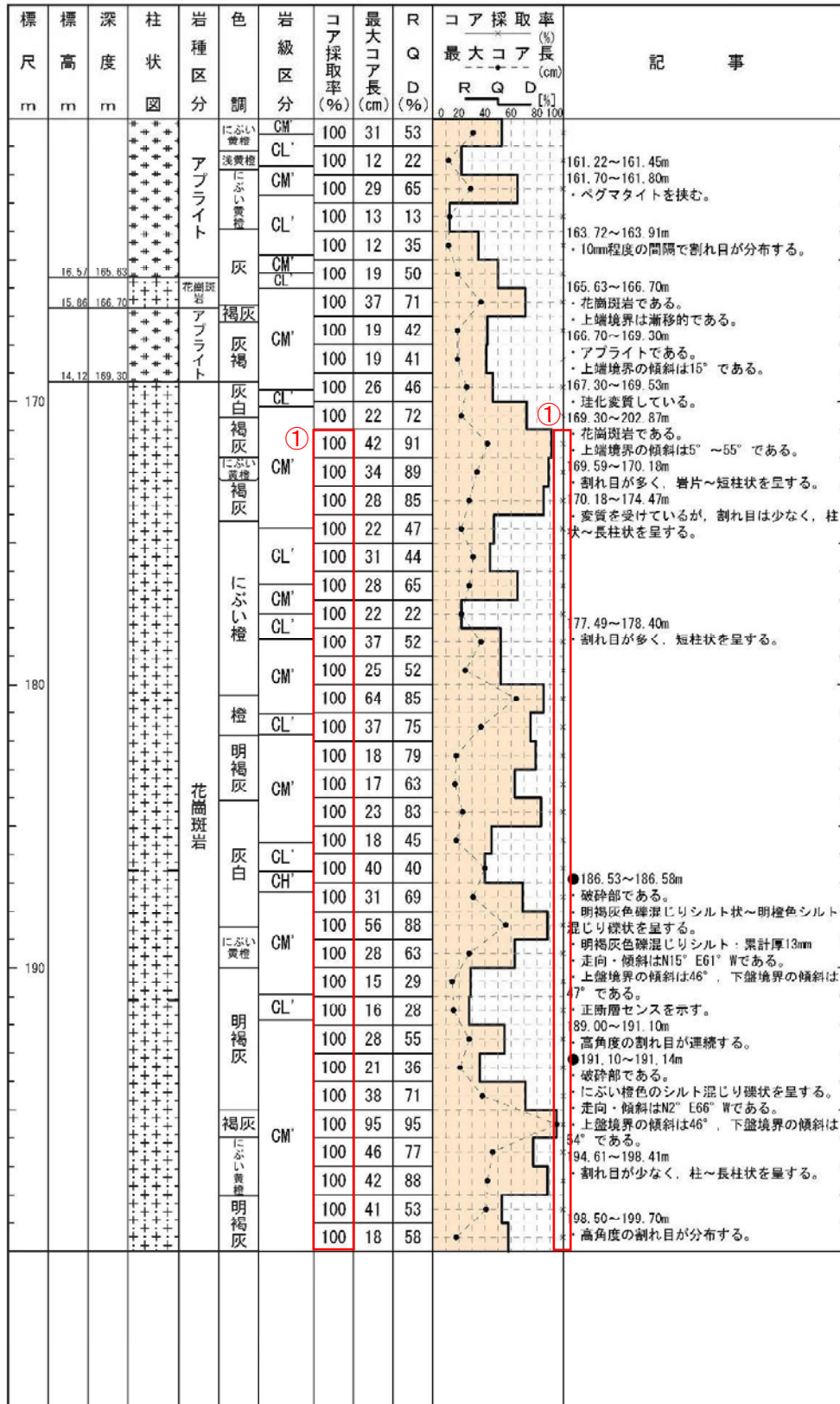


2-18(分類)①
 報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1036

第7.4.4.174図(5) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H19-No.2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩盤区分	岩級分類	孔内水位(測定)日	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進進捗 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)			
																	(N 値 ~ 深度)																			
				花崗斑岩	褐灰	I g	α				深度169.59~170.18m: 節理多く、岩片~短柱状コア主体。変質により溶脱。	47	91	OM										87												
					褐灰	II g	β				深度170.18~174.47m: 全体に変質を受けているが、節理少なく柱状~長柱状コア主体。	94	189	OM										2/9	77.80											
					にぶい橙	III g	α				深度174.74m: シーム。傾斜35度。幅5mm。礫~シルト状。	28	185	CL											95											
					にぶい橙	IV g	α				深度175.96m: シーム。傾斜15度。幅3~5mm。明褐色砂質シルト状。	31	144	CL											2/10	76.90										
					にぶい橙	III g	β				深度177.49~178.40m: 節理多く、短柱状コア主体。	22	122	OM												78										
					にぶい橙	IV g	β				深度180.38~181.80m: 全体に変質を受け、溶脱している。	37	162	OM												2/12	80.40									
					明褐灰	I g	β				深度181.21~181.25m: 幅2~7mm。明緑色シルト状。	37	193	CL												99										
					明褐灰	III g	β				深度183.61m: シーム。傾斜42度。幅2~4mm。砂混じり黒褐色シルト状。白色筋状の構造有り。正断層のセンス。	17	183	OM												2/13	83.20									
					灰白	IV g	β				深度185.61~185.64m: 幅12~24mm。砂・礫状部。	18	183	CL												103										
					にぶい黄橙	I g	α				深度186.53~186.54m: 破砕帯(Hc)。上盤46度。下盤48度。幅7~13mm。明褐色砂混じりシルト状。正断層のセンス。軟質。	40	160	CH	[CM]												76									
					にぶい黄橙	III g	α				深度186.54~186.58m: 破砕帯(Hb)。上盤49度。下盤47度。幅26~40mm。明褐色シルト混じり砂・礫状。	3	160	OM												2/14	86.40									
					明褐灰	IV g	β				深度189.00~191.10m: 高角度な節理が連続する。	28	183	OM													89									
					明褐灰	III g	β				深度191.10~191.14m: 破砕帯(Hb)。上盤46度。下盤54度。幅25~30mm。にぶい橙シルト混じり礫状。	18	128	CL													2/15	83.40								
					明褐灰	IV g	β				深度190.93~191.80m, 192.93~193.40m, 193.80~194.22m: 溶脱し岩片は粗しょう。	38	150	CL													83									
					明褐灰	III g	β				深度194.61~198.41m: 柱~長柱状コア主体。	38	171	OM													2/16	97.40								
					明褐灰	IV g	β				深度198.50~199.70m: 高角度な節理発達する。	41	153	CL													88									
					明褐灰	III g	β				深度202.81~202.85m: 破砕帯(Hc)。上盤63度。下盤64度。幅18~25mm。浅黄色シルト混じり礫~礫混じりシルト状。	19	153	CL													2/19	201.50								
					アブライト	IV g	γ				深度202.87~207.57m: アブライト上位の花崗斑岩との境界は傾斜63~64度の破砕帯。右塞は径0.1mm以下である。	14	144	CL	[GL]												115									
					明褐灰	IV g	β				深度204.22m: シーム。傾斜16度。幅0.1mm暗灰色砂状。傾斜20度の節理が見かけ0.2cm逆断層的にずれる。	14	144	CL													2/20	206.50								



2-18(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1036

第7.4.4.174図(5) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H19-No.2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩盤区分	岩級分類	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)			
																	(N 値 ~ 深度)																		
				花崗斑岩	褐灰	I g	α				深度169.59~170.18m: 節理多く、岩片~短柱状コア主体。変質により溶脱。	47	91	OM										87											
					褐灰	II g	β				深度170.18~174.47m: 全体に変質を受けているが、節理少なく柱状~長柱状コア主体。	94	189	OM										2/9	72.80										
					にぶい橙	III g	α				深度174.74m: シーム。傾斜35度。幅5mm。礫~シルト状。	28	185	CL											95										
					にぶい橙	IV g	β				深度175.96m: シーム。傾斜15度。幅3~5mm。明褐色砂質シルト状。	22	144	OM											2/10	76.90									
					にぶい橙	III g	α				深度177.49~178.40m: 節理多く、短柱状コア主体。	22	162	CL												78									
					にぶい橙	IV g	β				深度180.38~181.80m: 全体に変質を受け、溶脱している。	45	162	OM												2/12	80.40								
					にぶい橙	III g	α				深度181.21~181.25m: 幅2~7mm。明緑色シルト状。	68	193	CL												99									
					にぶい橙	IV g	β				深度183.61m: シーム。傾斜42度。幅2~4mm。砂混じり黒褐色シルト状。白色筋状の構造有り。正断層のセンス。	17	183	OM												2/13	83.20								
					にぶい橙	III g	α				深度185.61~185.64m: 幅12~24mm。砂・礫状部。	18	183	CL												103									
					にぶい橙	IV g	β				深度186.53~186.54m: 破砕帯(Hc)。上盤46度。下盤48度。幅7~13mm。明褐色砂質混じりシルト状。正断層のセンス。軟質。	40	160	CH	CM												76								
					にぶい橙	III g	α				深度186.54~186.58m: 破砕帯(Hb)。上盤49度。下盤47度。幅26~40mm。明褐色シルト混じり砂・礫状。	6	188	OM												2/14	86.40								
					にぶい橙	IV g	β			2	深度189.00~191.10m: 高角度な節理が連続する。	15	183	OM												89									
					にぶい橙	III g	α				深度191.10~191.14m: 破砕帯(Hb)。上盤46度。下盤54度。幅25~30mm。にぶい橙色シルト混じり礫状。	18	128	CL													83								
					にぶい橙	IV g	β				深度190.93~191.80m, 192.93~193.40m, 193.80~194.22m: 溶脱し岩片は粗しょう。	38	150	OM												2/15	83.40								
					にぶい橙	III g	α				深度194.61~198.41m: 柱~長柱状コア主体。	38	171	OM												83									
					にぶい橙	IV g	β				深度198.50~199.70m: 高角度な節理発達する。	41	153	CL												88									
					にぶい橙	III g	α				深度202.81~202.85m: 破砕帯(Hc)。上盤63度。下盤64度。幅18~25mm。浅黄色シルト混じり礫~礫混じりシルト状。	14	144	CL	CL											115									
					にぶい橙	IV g	β			γ	深度202.87~207.57m: アプライト上位の花崗斑岩との境界は傾斜63~64度の破砕帯。右塞は径0.1mm以下である。	14	144	CL	CL											2/19	201.50								
					にぶい橙	III g	α				深度204.22m: シーム。傾斜16度。幅0.1mm暗灰色砂状。傾斜20度の節理が見かけ0.2cm逆断層的にずれる。	14	144	CL	CL											2/20	206.50								
					にぶい橙	IV g	β																		126										

ダブルコアチューブ / ダイヤビット

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩 級 区 分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	記事
210	-8.35	202.87	+	花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	19	53	①	<ul style="list-style-type: none"> ●202.81~202.85m ・破砕部である。 ・浅黄色の礫混じりシルト状~シルト混じり礫状を呈する。 ・浅黄色礫混じりシルト：累計厚25mm ・走向・傾斜はN32° E64° Wである。 ・上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は64°である。 ●202.87~207.57m ・アプライトである。 ●207.57~216.70m ・花崗斑岩である。 ●207.94~208.69m ・破砕部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状~にぶい橙色の砂状を呈する。 ・灰白色礫混じりシルト：累計厚90mm ・走向・傾斜はN56° Wである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は59°である。 ●212.00~212.07m ・破砕部である。 ・黒色の礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・黒色シルト質砂：累計厚40mm ・走向・傾斜はN6° W63° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は41°である。 ●215.42~215.46m ・破砕部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状を呈する。 ・灰白色礫混じりシルト：累計厚35mm ・走向・傾斜はN9° W69° Wである。 ・下盤境界の傾斜は55°である。 ・逆断層的構造が見られる。条線方向は30度右である。 ●216.15~216.24m ・破砕部である。 ・褐色のシルト混じり砂~礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN26° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は63度である。 ・下盤での条線方向は50度右である。 216.70~220.00m ・アプライトである。 ・上盤境界は不明瞭である。
						CM'	100	66	82		
							CM'	100	19		
	-11.49	207.57	+	アプライト	明褐灰	CL'	100	9	0		
							CL'	100	14	14	
	-17.60	216.70	+	花崗斑岩	にぶい褐	CM'	100	14	14		
							CM'	100	9	0	
	-19.81	220.00	+	アプライト	にぶい黄橙	D'	100	19	19		
							D'	100	16	16	
						GM'	100	16	16		
							GM'	100	20	41	
						GM'	100	19	73		
							GM'	100	18	18	
						GM'	100	24	68		
							GM'	100	21	21	
					明褐灰	100	6	0			
						GL'	100	17	27		
					にぶい黄橙	100	31	42			
						GM'	100	21	67		
					明褐灰	100	28	65			
						CL'	100	17	27		

2-18(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風変質	記事	コア採取率 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩盤区分	孔内水位(測定期日) N (値)	(標準貫入試験)試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験 日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) /孔壁保護	コアチューブ /ピット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (l/分)	排 水 量 (l/分)		
													N	10	20	30	40											50	
	-11.49	207.57		アフライト	明褐灰 にふい黄	Dg IVg cg Cg IIIg dg IVg dg cg Cg IIIg bg Dg IVg cg Cg IIIg bg IIg Cg IIIg IVg Vg Cg IVg cg Dg IVg Cg IIIg IVg		γ	2 3	花岗岩、上位との境界は傾斜52~62度の破砕帯 深度207.57~216.70m: 花岗岩。 径5~10mmの石英、長石、一部径2~3mmの黒雲母の斑晶を3~25%程度含み、石基は径0.1~0.2mm程度で組織は不均質である。斑晶の多い部分と少ない部分とが20~30cm程度の互層をなす。 深度207.94~208.06m: 破砕帯(Hc)。 上盤52度、下盤62度。幅70mm。灰白色礫混じりシルト状。 深度208.06~208.66m: 破砕帯(Hj)。 上盤62度、下盤52度。砂状~シルト質砂状。 深度208.33m: 傾斜72~82度。幅1.5m。褐色シルト状。 深度208.66~208.69m: 破砕帯(Hc)。 上盤52度、下盤59度。幅20mm。灰白色砂質シルト状。 深度212.00~212.07m: 破砕帯(Hc)。 上盤55度、下盤41度。幅35~40mm。礫混じり黒色シルト質砂状。		CL [CL] D CM [CM] CL CM CL [CL] CM CL										126		ダブルコアチューブ/ダイヤビット	20.0	100	0.0	泥水 10	0
	-17.60	216.70		アプライト	明褐灰 にふい黄橙	Dg IVg cg Cg IIIg bg IIg Cg IIIg IVg Vg Cg IVg cg Dg IVg Cg IIIg IVg		β	2	花岗岩、上位との境界は不明瞭。石基は径0.1~0.2mm程度で、径5~10mm程度の石英主体の斑晶が点在する(0.5%以下)。 深度215.42~215.46m: 破砕帯(Hc)。 下盤55度。幅35mm。灰白色礫混じりシルト状。逆断層構造有り。条線方向30度右。 深度215.98m: シーム。傾斜37度。幅5~7mm。灰白色砂質シルト状。 深度216.15~216.24m: 破砕帯(Hb)。 上盤53度、下盤63度。幅35~60mm。褐色シルト混じり砂・礫状。下盤条線方向50度右。 深度216.70~220.00m: アプライト。 上位の花岗岩との境界は不明瞭。石基は径0.1~0.2mm程度で、径5~10mm程度の石英主体の斑晶が点在する(0.5%以下)。		CL [CL] CM CL										76		ダブルコアチューブ/ダイヤビット	20.0	100	0.0	泥水 10	0
	-19.81	220.00		明褐灰	明褐灰 にふい黄	Dg IVg cg Cg IIIg bg IIg Cg IIIg IVg																							

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 最大コア 長 (cm)	記事
210	-8.35	202.87	+	花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	19	53		<ul style="list-style-type: none"> ●202.81~202.85m ・破砕部である。 ・浅黄色の礫混じりシルト状~シルト混じり礫状を呈する。 ・浅黄色礫混じりシルト：累計厚25mm ・走向・傾斜はN32° E64° Wである。 ・上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は64°である。 ●202.87~207.57m ・アプライトである。 ●207.57~216.70m ・花崗斑岩である。 ●207.94~208.69m ・破砕部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状~にぶい橙色の砂状を呈する。 ・灰白色礫混じりシルト：累計厚90mm ・走向・傾斜はN56° Wである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は59°である。 ●212.00~212.07m ・破砕部である。 ・黒色の礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・黒色シルト質砂：累計厚40mm ・走向・傾斜はN6° W63° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は41°である。 ●215.42~215.46m ・破砕部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状を呈する。 ・灰白色礫混じりシルト：累計厚35mm ・走向・傾斜はN9° W69° Wである。 ・下盤境界の傾斜は55°である。 ・逆断層的構造が見られる。条線方向は30度右である。 ●216.15~216.24m ・破砕部である。 ・褐色のシルト混じり砂~礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN26° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は63度である。 ・下盤での条線方向は50度右である。 216.70~220.00m ・アプライトである。 ・上盤境界は不明瞭である。
						CL'	100	66	82		
						CM'	100	19	31		
	-11.49	207.57	+	アプライト	明褐灰	CL'	100	9	0		
						CL'	100	14	14		
						CL'	100	14	14		
	-17.60	216.70	+	花崗斑岩	にぶい褐	① D'	100	19	19		
						CM'	100	20	41		
						CM'	100	19	73		
						CL'	100	18	18		
						CM'	100	24	68		
						CM'	100	21	21		
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	17	27		
						CL'	100	31	42		
CM'						100	21	67			
-19.81	220.00	+	アプライト	明褐灰	CL'	100	28	65			
					CL'	100	17	27			
					CL'	100	17	27			

2-18(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo.							
----------	--	--	--	--	--	--	--

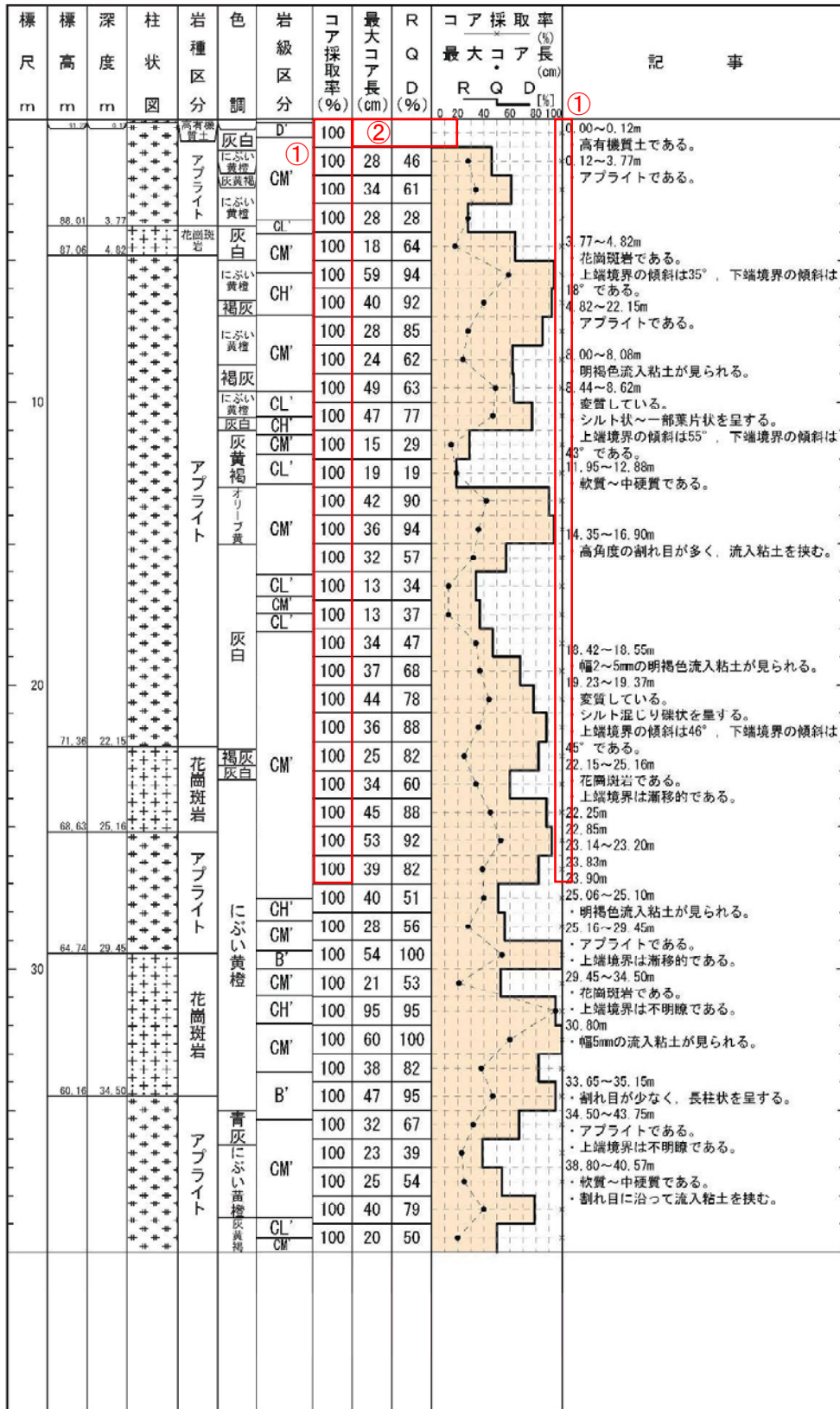
事業・工事名

ボーリング名	No. 14			調査位置				北緯		
発注機関				調査期間				東経		
調査業者名				主任技師				現代理人	コ鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	+ 91.43 m	角	180°上 90° 25°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°	使用機種	試錐機	ハンマー 落下用具
総掘削長	150.00 m	度		向					エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩盤区分	孔内水位 (測定月日)	(標準貫入試験) 試験		室 内 試 験	掘 進 速 度 (cm/時)	掘 進 月 日	給 水 量 (l/分)	送 水 量 (l/分)	送 水 圧 (MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 量 (MPa)	排 水 量 (l/分)		
													N 値	深度											
91.32	0.12			アプライト	灰白	VIg			深度0.12~22.15m: アプライト。石英は径0.1mm以下であり、石英・長石の斑晶は点在程度である(0.5%以下)。							140									
88.01	3.77			アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度1.05~1.12m: 流入土砂。																
87.06	4.82			花崗斑岩	灰白	IIIg			深度2.65~3.00m: 流入土砂。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			花崗斑岩。上位との境界傾斜35度。下位との境界傾斜18度。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度4.74~4.82m: 灰緑色シルト混じり砂礫を挟む。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度8.00~8.08m: 明褐色流入粘土有り。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度8.44~8.62m: 変質帯。上盤55度。下盤43度。シルト状。一部葉片状。上下に幅0.3~0.5cmの明褐色シルト(流入粘土)及びシルト質砂を挟む。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度11.95~12.88m: やや変質強く、軟質化。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度14.35m以深、高角度な節理多く、流入粘土を挟む。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度16.61m: シーム。傾斜42度。幅1~3mm。固結灰白色粘土状。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度16.61~16.77m: 上盤42度。下盤50度。幅1cm程度の礫混じり砂状。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度17.87~17.96m: 明褐色礫混じり砂質シルト状。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度18.42~18.55m: 幅2~5mmの明褐色流入粘土を挟む。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度19.23~19.37m: 変質帯。上盤46度。下盤45度。シルト混じり礫状。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			花崗斑岩。上位との境界漸移的。深度22.15~25.16m: 花崗斑岩。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			径2~3mmの石英、長石及び径1~2mmの黒雲母の斑晶を15~20%程度含み、石英は径0.1mm程度である。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度22.25m、22.85m: 幅5mmの明褐色流入粘土。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度23.14~23.20m: 礫混じり流入粘土。礫は径10~20mm。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度23.83m: 幅10mmの礫混じり明褐色流入粘土。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度23.90m: 幅25mmの礫混じり明褐色流入粘土。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度25.06~25.10m: 礫混じり砂質シルト(流入粘土)。下盤40度。条線有り。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			アプライト。上位との境界漸移的。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			深度25.16~55.75m: アプライト。																
				アプライト	にぶい黄橙	IIg			石英は径0.1mm以下であり、径2~5mm程度の石英、長石を主とする斑晶が点在する(0.5%以下)。																

H19-No. 14

孔口標高	T.P. 91.43m	掘削長	150.00m
------	-------------	-----	---------



第7.4.4.175図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.14孔)

- 2-19(分類b)① 報告書の記載漏れを修正したため。
- 2-20, 2-21(分類c)② 基盤上限の1m未満の区間を省いたため。

6-7-4-1038

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	岩盤区分	岩級分類	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)											
																N 値 ~ 深度																										
		64.74		アブライト			III g				花崗斑岩、上位との境界不明瞭。	40	CM																													
		29.45		花崗斑岩	にがい黄橙		I g			β	深度30.80m:幅5mmの機混じりシルト(流入粘土)。 深度31.00~33.65m:長石の白色化が認められる。	44	CH										83																			
		60.16		アブライト			III g				深度33.65~35.15m:節理少ない新鮮岩。 アブライト、上位との境界不明瞭。	47	B'																													
		34.50		青灰	にがい黄橙		I g			γ	深度36.60~40.57m:変質により一部軟質化。溶脱し節理に沿って粘土を挟む。	50	CH	[CH]																												
		60.16		アブライト			III g				深度40.56~40.57m:破砕帯(Hb)。下盤20度、幅12mm、黒褐色シルト混じり砂礫状。 深度40.57~45.58m:全体に褐色化している。	53	B'																													
		43.75		灰黄橙	にがい黄橙		I g			β	花崗斑岩、上位との境界漸移的。	56	CM																													
		51.78		アブライト			III g				深度45.58~47.80m:強溶脱帯。 アブライト、上位との境界は破砕帯傾斜30度。 深度45.63~45.70m:破砕帯(Hc)。上盤20度、下盤59度。幅60~90mm。明黄色機混じりシルト状及び明褐色シルト混じり砂礫状。 深度45.71~56.00m:溶脱帯。	60	CH																													
		45.60		淡赤橙			I g			2	深度48.50~50.50m:高角度な節理発達。	63	B'																													
		50.10		灰白	にがい黄橙		I g				深度52.75~52.78m:変質帯。上盤17度。幅50mm。暗灰色シルト混じり礫状。	67	CH																													
		40.90		アブライト			III g				深度54.55m以下、全体に薄く褐色を帯びる。	71	CH																													
		55.75		明褐灰			I g			γ	花崗斑岩、上位との境界不明瞭。 深度55.75~59.80m:花崗斑岩。 径5~10mmの長石、石英、黒雲母の斑晶を20~30%程度含み、石基は径0.1mm以下である。	74	CH																													
		40.18		アブライト			I g				深度58.11~58.48m:変質帯。上盤42度。下盤50度。網目状にシルトを挟む。	78	B'																													
		58.40		花崗斑岩	にがい黄橙		I g				アブライト、上位との境界不明瞭。 深度59.80~106.58m:アブライト。 石基は径0.1mm以下であり、径3~10mm程度の石英斑晶が点在する(0.5%以下)。	81	CH																													
		37.23		アブライト			I g				深度61.55~65.00m:斑晶がやや多くなる。	85	CH																													
		59.80		アブライト			I g						CL	[CL]																												
		60.50		アブライト			I g						CL	[CL]																												
		60.75		アブライト			I g						CL	[CL]																												
		61.40		アブライト			I g						CL	[CL]																												
		61.55		アブライト			I g						CL	[CL]																												

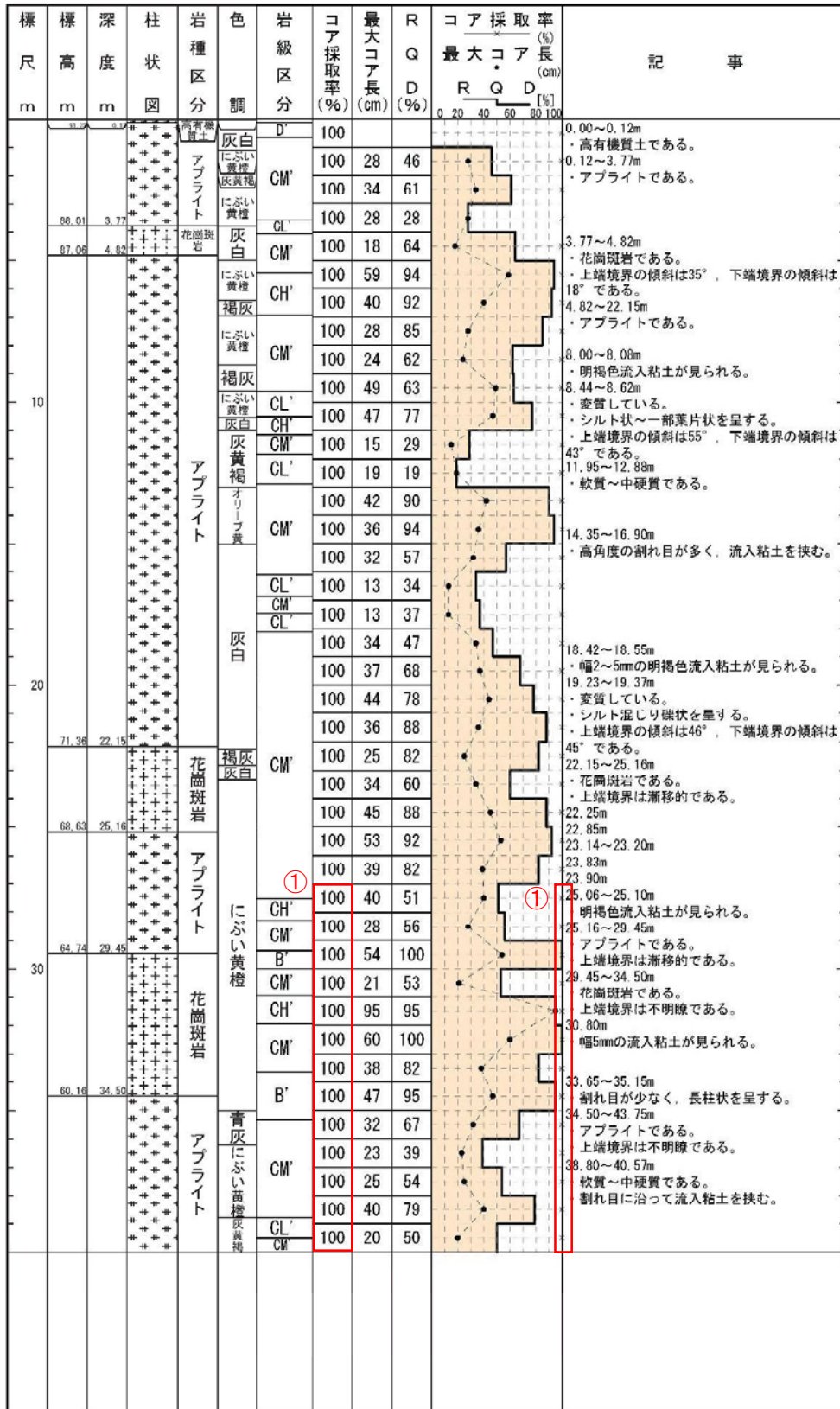
ダブルコアチューブ/ダイヤモンド

76/セメントインダ

76/セメントインダ

H19-No. 14

孔口標高	T.P. 91.43m	掘削長	150.00m
------	-------------	-----	---------



6-7-4-1038

第7.4.4.175図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.14孔)
 2-19(分類)①
 報告書の記載漏れを修正したため。

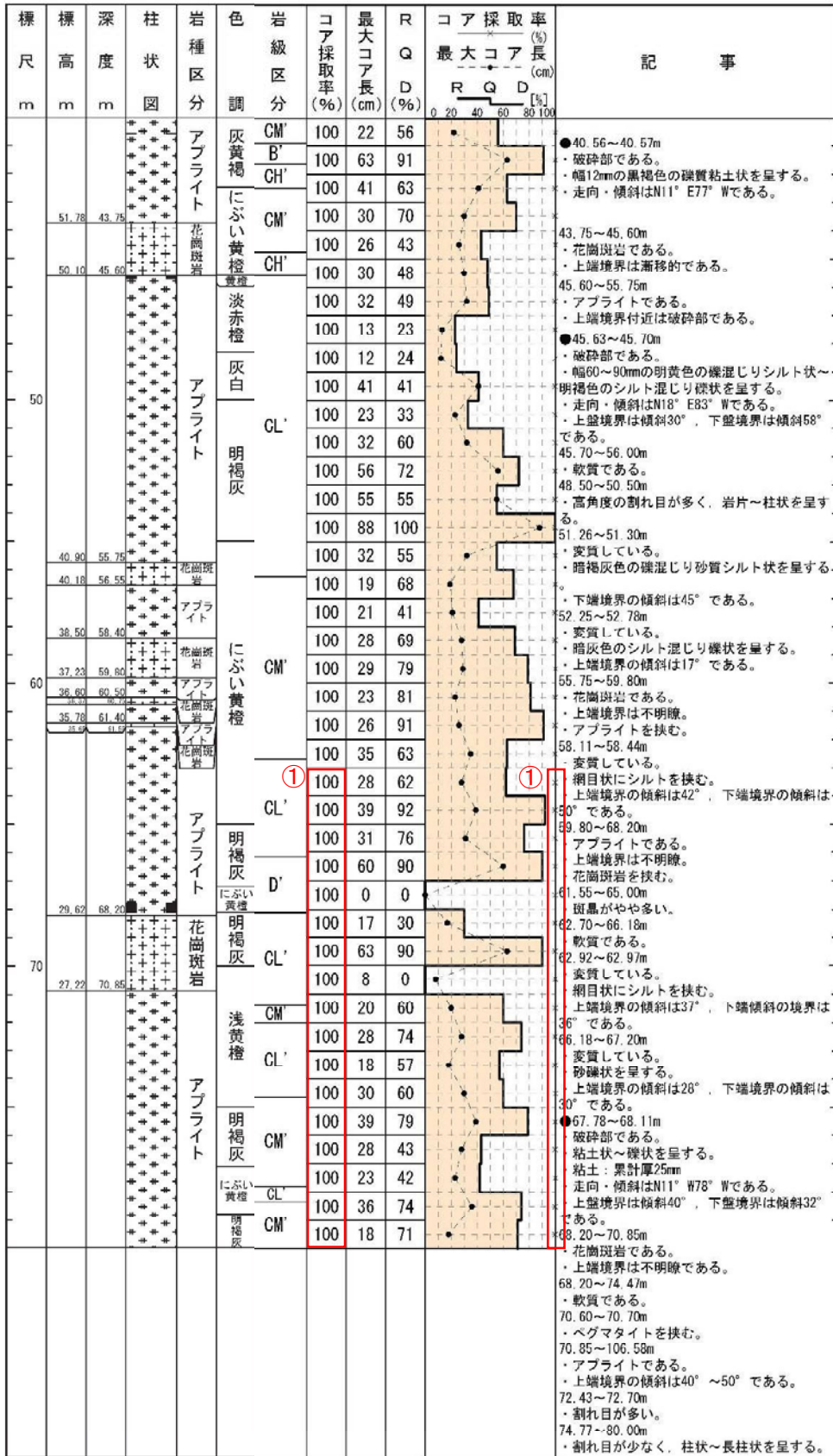
標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩盤区分	岩 類	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)																	
																	(N 値 ~ 深度)																													
																0	10	20	30	40	50																									
30	64.74	29.45	花崗斑岩	アブライト	IIIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	β	花崗斑岩、上位との境界不明瞭。	0 50 100	141	CM	CH	1/11	31.55	83																												
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	Bg		深度30.80m:幅5mmの極混じりシルト(流入粘土)。 深度31.00~33.65m:長石の白色化が認められる。																																			
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg			Bg			深度33.65~35.15m:節理少ない新鮮岩。 アブライト、上位との境界不明瞭。																																
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	Bg					深度36.60~40.57m:変質により一部軟質化。溶脱し節理に沿って粘土を挟む。																																
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg			Bg			深度40.56~40.57m:破砕帯(Hb)。下盤20度、幅12mm、黒褐色シルト混じり砂礫状。 深度40.57~45.58m:全体に褐色化している。																																
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	Bg					深度45.58~47.80m:強溶脱帯。 アブライト、上位との境界は破砕帯傾斜30度。 深度45.63~45.70m:破砕帯(Hc)。上盤30度、下盤50度。幅60~90mm。明黄色塊混じりシルト状及び明褐色シルト混じり砂礫状。 深度45.71~56.00m:溶脱帯。																																
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg			Bg			深度48.50~50.50m:高角度な節理発達。																																
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	Bg					深度51.26~51.30m:変質帯。下盤45度。幅50mm。暗褐色塊混じり砂質シルト状。																																
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg			Bg			深度52.75~52.78m:変質帯。上盤17度。幅50mm。暗灰色シルト混じり礫状。																																
				IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	Bg					深度54.55m以深、全体に薄く褐色を帯びる。																																
			IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	Bg		花崗斑岩、上位との境界不明瞭。 深度55.75~59.80m:花崗斑岩。 径5~10mmの長石、石英、黒雲母の斑晶を20~30%程度含み、石英は径0.1mm以下である。																																				
			IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg		Bg	深度58.11~58.48m:変質帯。上盤42度、下盤50度。網目状にシルトを挟む。																																				
			IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	Bg		アブライト、上位との境界不明瞭。 深度59.80~106.58m:アブライト。 石英は径0.1mm以下であり、径3~10mm程度の石英斑晶が点在する(0.5%以下)。																																				
			IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg		Bg	深度61.55~65.00m:斑晶がやや多くなる。																																				
			IIg	Ig	IIIg	IVg	IIIg	Bg																																						

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 ① (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	記事		
50			[Pattern]	アプライト	灰黄褐	CM'	100	22	56	[Graph]	①	<ul style="list-style-type: none"> ●40.56~40.57m 破砕部である。 幅12mmの黒褐色の礫質粘土状を呈する。 走向・傾斜はN11° E77° Wである。 	
						B'	100	63	91				
						CH'	100	41	63				
						にぶい黄橙	CM'	100	30				70
							CH'	100	26				43
						浅黄橙	CM'	100	30				48
							CH'	100	32				49
						灰白	CM'	100	13				23
							CH'	100	12				24
						アプライト	CL'	100	41				41
							CH'	100	23				33
						明褐灰	CL'	100	32				60
CH'	100	56	72										
60			[Pattern]	アプライト	明褐灰	CL'	100	55	55	[Graph]	①	<ul style="list-style-type: none"> ●45.63~45.70m 破砕部である。 幅60~90mmの明黄色の機湿じりシルト状~暗褐色のシルト混じり礫状を呈する。 走向・傾斜はN18° E83° Wである。 上盤境界は傾斜30°、下盤境界は傾斜58°である。 45.70~56.00m 軟質である。 48.50~50.50m 高角度の割れ目が多く、岩片~柱状を呈する。 51.26~51.30m 変質している。 暗褐色の礫混じり砂質シルト状を呈する。 52.25~52.78m 下盤境界の傾斜は45°である。 変質している。 暗灰色のシルト混じり礫状を呈する。 上盤境界の傾斜は17°である。 55.75~59.80m 花崗斑岩である。 上盤境界は不明瞭。 アプライトを挟む。 58.11~58.44m 変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上盤境界の傾斜は42°、下盤境界の傾斜は50°である。 59.80~68.20m ・アプライトである。 ・上盤境界は不明瞭。 ・花崗斑岩を挟む。 61.55~65.00m ・斑鳥がやや多い。 62.70~66.18m ・軟質である。 62.92~62.97m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上盤境界の傾斜は37°、下盤境界の傾斜は36°である。 66.18~67.20m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。 ・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は30°である。 ●67.78~68.11m ・破砕部である。 ・粘土状~礫状を呈する。 ・粘土：累計厚25mm ・走向・傾斜はN11° W78° Wである。 ・上盤境界は傾斜40°、下盤境界は傾斜32°である。 68.20~70.85m ・花崗斑岩である。 ・上盤境界は不明瞭である。 68.20~74.47m ・軟質である。 70.60~70.70m ・ベグマタイトを挟む。 70.85~106.58m ・アプライトである。 ・上盤境界の傾斜は40° ~50°である。 72.43~72.70m ・割れ目が多い。 74.77~80.00m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。 	
						CL'	100	32	55				
						にぶい黄橙	CM'	100	19				68
							CH'	100	21				41
						アプライト	CL'	100	28				69
							CH'	100	28				69
						にぶい黄橙	CM'	100	29				79
							CH'	100	23				81
						アプライト	CL'	100	26				91
							CH'	100	35				63
						アプライト	CL'	100	28				62
							CH'	100	39				92
明褐灰	CL'	100	31	76									
	CH'	100	60	90									
にぶい黄橙	D'	100	0	0									
	CH'	100	17	30									
70			[Pattern]	アプライト	明褐灰	CL'	100	63	90	[Graph]	①	<ul style="list-style-type: none"> 62.70~66.18m ・軟質である。 62.92~62.97m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上盤境界の傾斜は37°、下盤境界の傾斜は36°である。 66.18~67.20m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。 ・上盤境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は30°である。 ●67.78~68.11m ・破砕部である。 ・粘土状~礫状を呈する。 ・粘土：累計厚25mm ・走向・傾斜はN11° W78° Wである。 ・上盤境界は傾斜40°、下盤境界は傾斜32°である。 68.20~70.85m ・花崗斑岩である。 ・上盤境界は不明瞭である。 68.20~74.47m ・軟質である。 70.60~70.70m ・ベグマタイトを挟む。 70.85~106.58m ・アプライトである。 ・上盤境界の傾斜は40° ~50°である。 72.43~72.70m ・割れ目が多い。 74.77~80.00m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。 	
						CL'	100	8	0				
						浅黄橙	CM'	100	20				60
							CH'	100	28				74
						アプライト	CL'	100	18				57
							CH'	100	30				60
						明褐灰	CL'	100	39				79
							CH'	100	28				43
						にぶい黄橙	CL'	100	23				42
							CH'	100	36				74
						明褐灰	CL'	100	18				71
							CH'	100	18				71

2-19(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

第7.4.4.175図 (2) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.14孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩盤分類	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験日	掘進速度 (cm / 時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	送水量 (l / 分)	送水圧 (MPa)	回転数 (rpm)	給圧 (kN · MPa)	コアカチューブ / ビット							
																(N 値 ~ 深度)																					
70	29.62	68.20		アプライト	にふい黄橙	Dg	cg				深度62.92~62.97m: 変質帯。上盤37度。下盤36度。網目状にシルトを挟む。													76													
				アプライト	明褐灰	Dg	bg				深度65.00~80.00m: 溶脱帯。													76 / セメントペースト													
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	IIg				深度66.18~67.20m: 変質帯。上盤28度。下盤30度。砂礫状。深度67.72~67.78m: 変質強く軟質化。深度67.78~68.11m: 破砕帯 (Hc)。上盤40度。下盤32度。礫状~砂質シルト状。下盤側に幅25mm粘土状。																										
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	IIg				花崗斑岩。上位との境界不明瞭。														1/25												
				浅黄橙	明褐灰	Dg	IIg				深度70.00~74.25m: 傾斜40~50度の平行する節理が5~15cm間隔で発達。深度70.60~70.70m: ベグマタイトを挟む。アプライト。上位との境界傾斜40~50度。																										
				浅黄橙	明褐灰	Dg	cg				深度72.00~74.63m: 全体に変質し。溶脱帯みや軟質化する。節理に沿って弱く褐色化する。																										
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度74.63~77.20m: やや褐色化弱くなる。																										
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度77.20~78.40m: 節理に沿って黒褐色を帯びる。																										
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度81.20~85.10m: 密着した節理が多く。弱く褐色を帯びる。																										
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度83.05~83.40m: やや斑晶が多くなる。																										
				アプライト	明褐灰	Dg	cg				深度84.96m: シーム。傾斜52度。幅4~7mm。明褐~褐色雑混じりシルト状。																										
				アプライト	淡黄	Dg	cg				深度86.12~86.60m: 破砕帯 (Hc)。上盤47度。シルト~礫混じりシルト状。深度86.60~86.95m: 破砕帯 (Hh)。傾斜不明。シルト混じり礫状。深度86.95~87.03m: 破砕帯 (Hc)。下盤60度。砂質シルト状~褐色粘土状。深度87.03~88.36m: 変質帯。上盤60度。下盤54度。砂礫状。深度88.36m: シーム。傾斜54度。																										
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度89.57~90.13m: ベグマタイト。石英。長石の巨晶を含む。深度90.13~98.52m: 全体に褐色化するが、変質は弱い。																										
				灰白	明褐灰	Dg	cg				深度93.05~93.55m: 高角度な節理密集部。深度93.55~98.52m: 節理に沿って褐色化著しい。																										
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度98.52~98.60m: 変質帯。上盤46度。下盤50度。網目状にシルトを挟む。																										
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度98.52~98.60m: 変質帯。上盤46度。下盤50度。網目状にシルトを挟む。																										
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度98.52~98.60m: 変質帯。上盤46度。下盤50度。網目状にシルトを挟む。																										



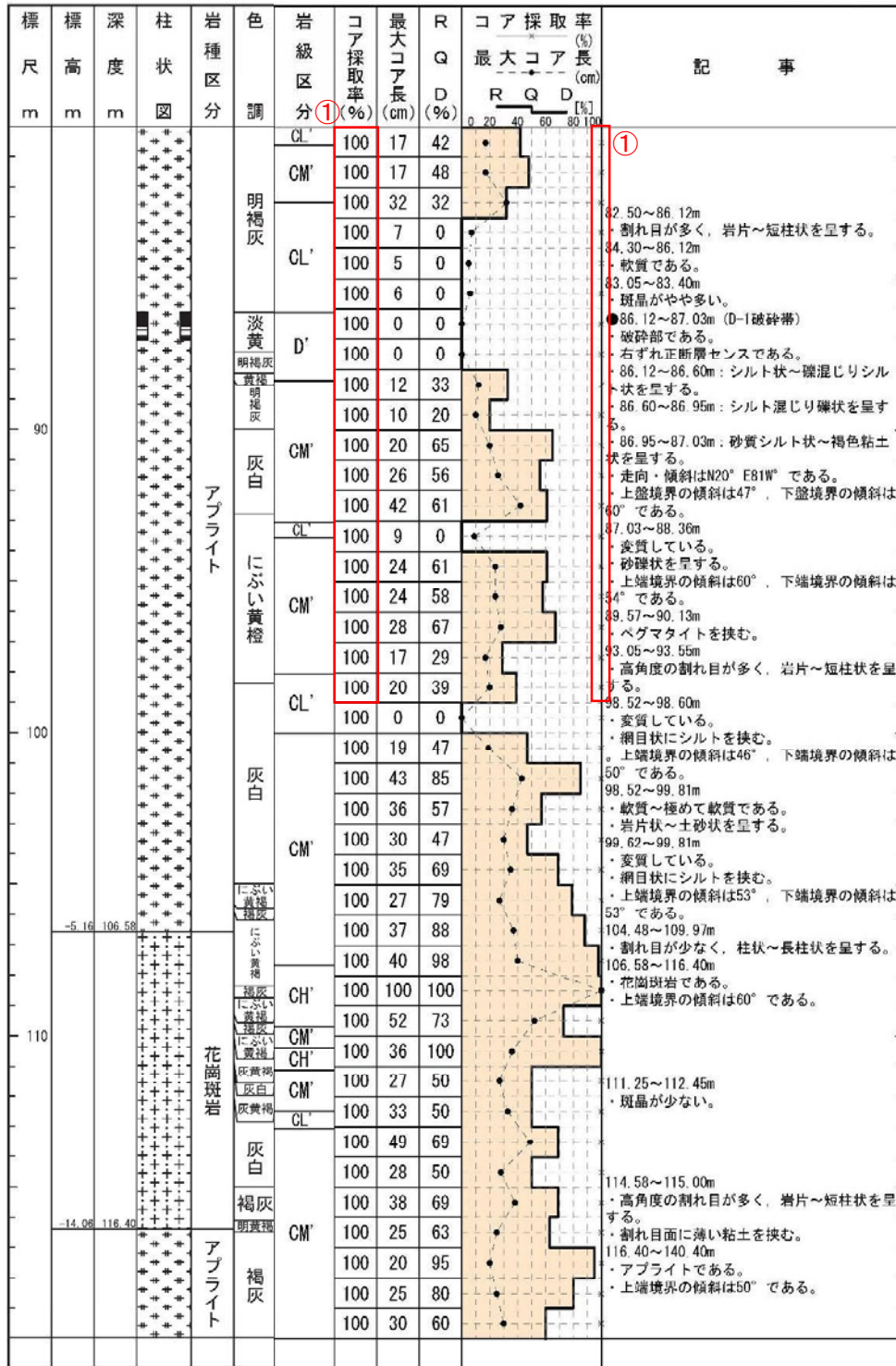
2-19(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1039

第7.4.4.175図 (2) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No.14孔)

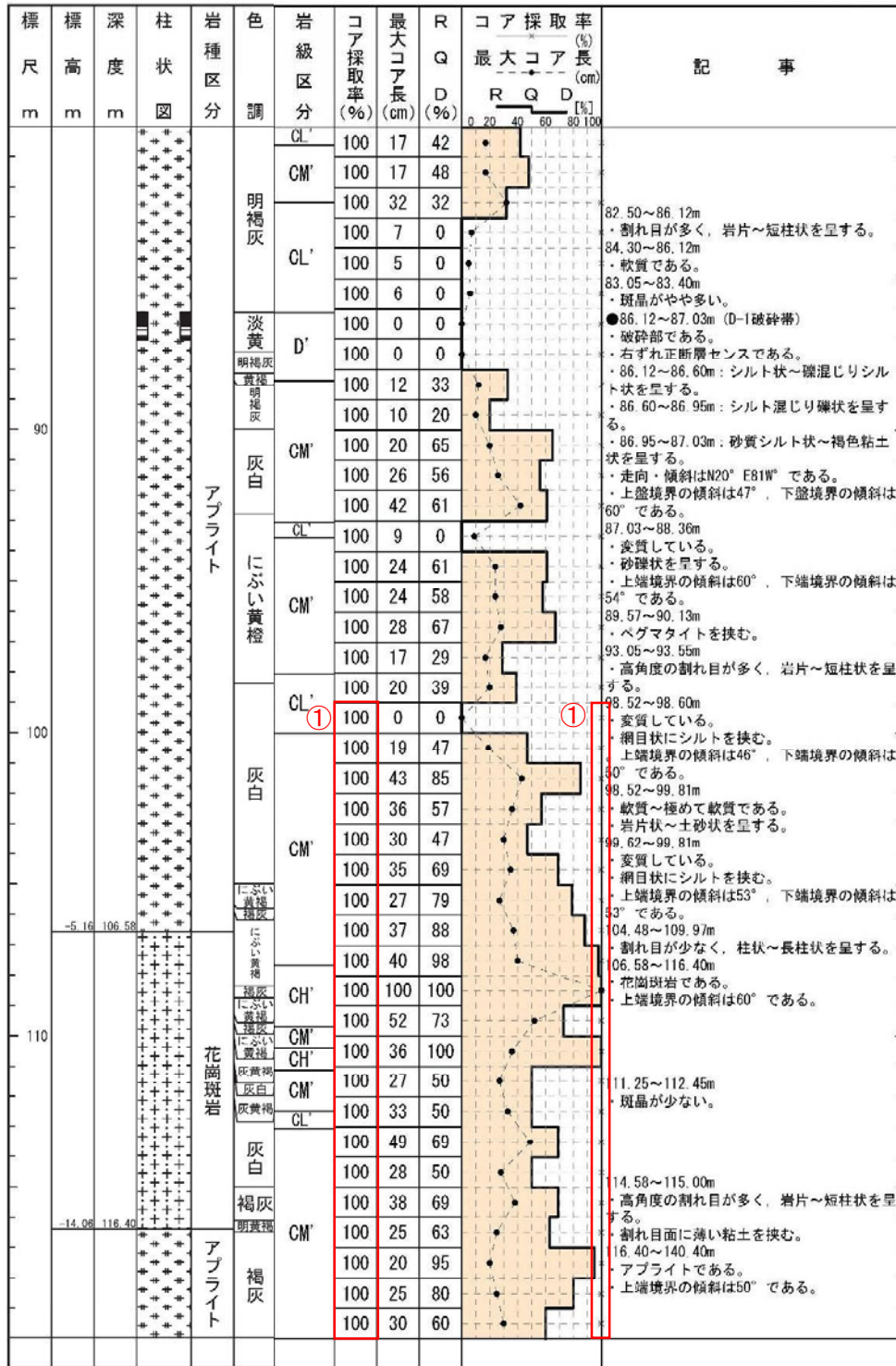
標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩盤区分	岩級分類	(標準貫入試験) 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアカチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)					
															(N 値)	(N 値 ~ 深度)															
				アプライト	にぶい黄橙	Dg	cg				深度62.92~62.97m: 変質帯。上盤37度。下盤36度。網目状にシルトを挟む。									76											
				アプライト	明褐灰	Dg	bg				深度65.00~80.00m: 溶融帯。									76 / セメントミルク											
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	IIg				深度66.18~67.20m: 変質帯。上盤28度。下盤30度。砂礫状。 深度67.72~67.78m: 変質強く軟質化。 深度67.78~68.11m: 破砕帯(Hc)。上盤40度。下盤32度。礫状~砂質シルト状。下盤側に幅25mm粘土状。																				
				花崗斑岩	明褐灰	Dg	IIg				花崗斑岩。上位との境界不明瞭。									1/25											
				浅黄橙	明褐灰	Dg	cg				深度70.00~74.25m: 傾斜40~50度の平行する節理が5~15cm間隔で発達。 深度70.60~70.70m: ベグマタイトを挟む。 アプライト。上位との境界傾斜40~50度。																				
				浅黄橙	明褐灰	Dg	cg				深度72.00~74.63m: 全体に変質し。溶融込みや軟質化する。節理に沿って弱く褐色化する。																				
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度74.63~77.20m: やや褐色化弱くなる。									1/26											
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度77.20~78.40m: 節理に沿って黒褐色を帯びる。																				
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度81.20~85.10m: 密着した節理が多く、弱く褐色を帯びる。																				
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度83.05~83.40m: やや斑晶が多くなる。																				
				アプライト	明褐灰	Dg	cg				深度84.96m: シーム。傾斜52度。幅4~7mm。明褐~褐色雜混じりシルト状。																				
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度86.12~86.60m: 破砕帯(Hc)。上盤47度。シルト~礫混じりシルト状。深度86.60~86.95m: 破砕帯(Hb)。傾斜不明。シルト混じり礫状。 深度86.95~87.03m: 破砕帯(Hc)。下盤60度。砂質シルト状~褐色粘土状。深度87.03~88.36m: 変質帯。上盤60度。下盤54度。砂礫状。 深度88.36m: シーム。傾斜54度。																				
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度89.57~90.13m: ベグマタイト。石英、長石の巨晶を含む。 深度90.13~98.52m: 全体に褐色化するが、変質は弱い。																				
				灰白	明褐灰	Dg	cg				深度93.05~93.55m: 高角度な節理密集部。 深度93.55~98.52m: 節理に沿って褐色化著しい。																				
				明褐灰	明褐灰	Dg	cg				深度98.52~98.60m: 変質帯。上盤46度。下盤50度。網目状にシルトを挟む。																				

No.14(3/5)



2-19(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩盤区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験 日	掘進速度 (cm/時)	掘進月	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (l/分)	排 水 量 (l/分)									
														(N 値 ~ 深度)																								
				アプライト	灰白	IVg, IIIg, IIg, Ig, Cg, IVg, IIIg, IIg, IVg		4		深度99.62m: シーム。傾斜53度。幅1~2mm。明褐色シルト状。 深度99.62~99.81m: 変質帯。上盤53度。下盤53度。網目状にシルトを挟む。 深度102.0m以深。黒雲母を多く含み。組織は全体に均質である。 深度104.95~107.60m: 全体に褐色化顕著。 花崗斑岩。上位との境界傾斜60度。深度106.58~116.40m: 花崗斑岩。径3~10mm程度の石英、長石一部黒雲母の斑晶を1~3%程度含み。石英は径0.1~0.2mm程度で、全体に黒雲母を多く含み、組織は均質である。 深度111.25~112.45m: 斑晶少ない。 深度113.60~116.10m: わずかに褐色を帯びる新鮮岩。 深度114.58~116.00m: 高角度な節理(傾斜70~80度)が1~3cm間隔で発達。節理面に薄く粘土を挟む。 アプライト。上位との境界傾斜50度。深度116.40~140.40m: アプライト。石英は径0.1mm程度であり、斑晶は非常に少ない。 深度116.70~117.00, 118.00~118.15m: 黒雲母の斑晶が傾斜40度の流理に沿って見られる。 深度117.15~121.25m: 節理面に沿って褐色を帯びる。 深度121.60~122.10, 122.60~123.10, 123.60~123.80m: 斑晶多くなる。 深度123.32~123.34m: 破砕帯(Hc)。上盤50度。下盤55度。幅15mm。灰~黄灰色シルト質砂状。 深度128.30~128.55m: 斑晶が多い。 深度132.46~133.78m: 全体に変質を受け、やや軟質化。節理多く、節理に沿って褐色・灰白色シルトを挟む。																												
				アプライト	にぶい黄褐	Bg, 褐灰, IIIg, IIg, Cg, IVg, IIIg, IIg, IVg, Bg, I g, IIIg, IIg, IVg, Bg, IIg		β																														
				花崗斑岩	灰黄褐	Cg, Bg, Cg, IVg, IIg, Cg, IVg, Bg, IIg, Cg, IIIg, IVg, Bg, IIg		α																														
				アプライト	褐灰	Cg, IIIg, Bg, IVg, IIIg, IIg, IVg, Bg, IIg		β																														
				アプライト	にぶい黄橙	Cg, IIIg, IIg, IVg, IIIg, IIg, IVg, Cg, IIIg, IIg, IVg, Bg, IIg, IVg, Bg, IIg		β																														
				アプライト	にぶい黄橙	Eg, Vg, IVg, IIIg, IIg, IVg, Cg		3																														
				アプライト	にぶい黄橙	Cg, IIg, IVg		2																														

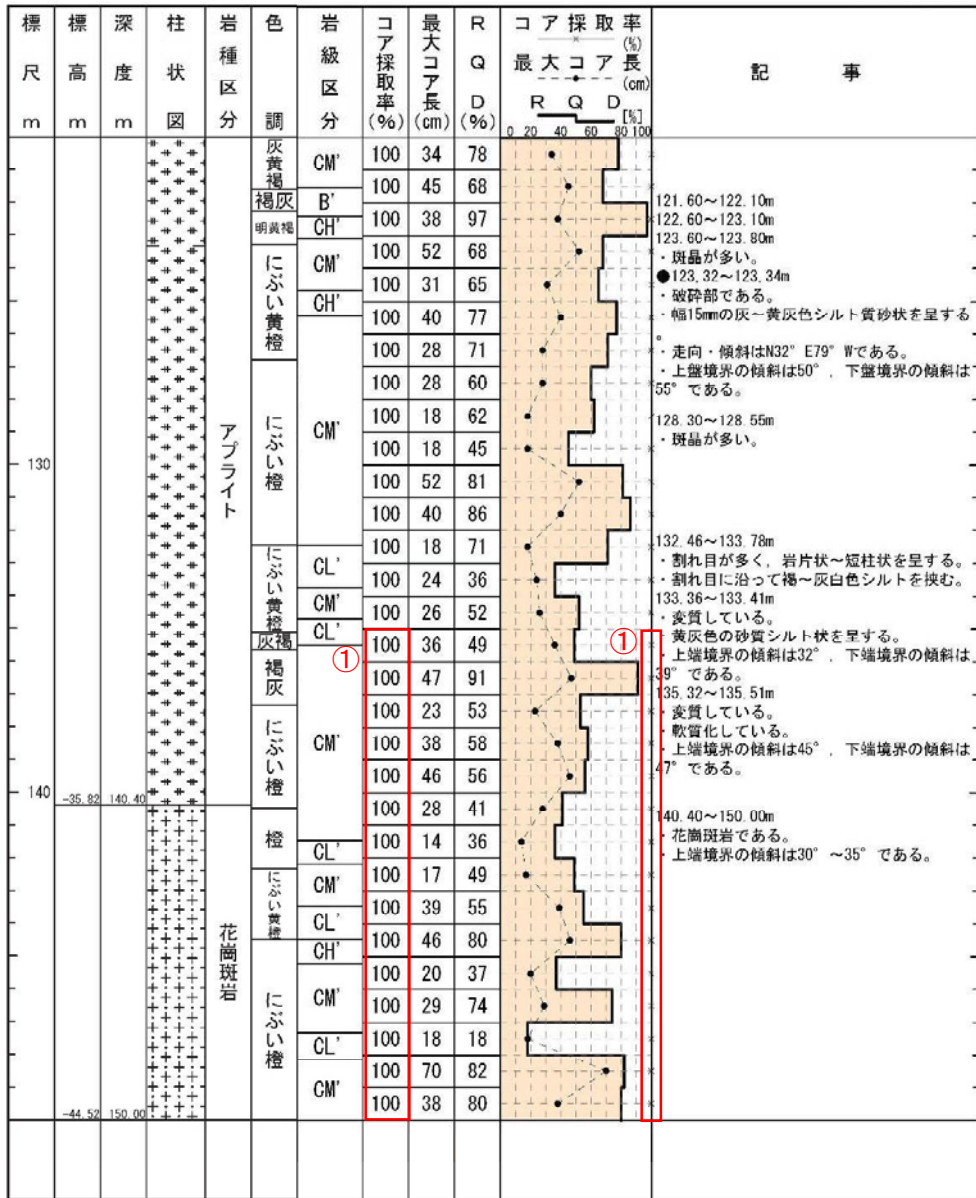


2-19(分類b)①
 報告書の記載漏れを修正したため。

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	記 事	
													①
130			+	ア プ ラ イ ト	灰 黄 褐	CM'	100	34	78		①	21.60~122.10m 22.60~123.10m 23.60~123.80m ・斑晶が多い。 ・123.32~123.34m 破砕部である。 ・幅15mmの灰〜黄灰色シルト質砂状を呈する。	
						B'	100	45	68				
						明黄褐 CH'	100	38	97				
						に ぶ い 黄 橙	CM'	100	52				68
							CH'	100	31				65
						に ぶ い 橙	CM'	100	40				77
							CM'	100	28				71
							CM'	100	28				60
							CM'	100	18				62
						に ぶ い 橙	CM'	100	18				45
							CM'	100	52				81
							CM'	100	40				86
						に ぶ い 黄 橙	CL'	100	18				71
							CM'	100	24				36
						灰 褐	CL'	100	26				52
							CL'	100	36				49
						に ぶ い 橙	CM'	100	47				91
							CM'	100	23				53
						に ぶ い 橙	CM'	100	38				58
							CM'	100	46				56
140			+	花 崗 斑 岩	橙	CL'	100	28	41	132.46~133.78m ・割れ目が多く、岩片状〜短柱状を呈する。 ・割れ目に沿って褐〜灰白色シルトを挟む。 133.36~133.41m 変質している。 ・黄灰色の砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は 39°である。 135.32~135.51m 変質している。 ・軟質化している。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は 47°である。 140.40~150.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は30°〜35°である。			
						CL'	100	14	36				
						CM'	100	17	49				
						CL'	100	39	55				
						CH'	100	46	80				
						CM'	100	20	37				
						CL'	100	29	74				
						CL'	100	18	18				
						CM'	100	70	82				
						CM'	100	38	80				

2-19(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)				
															N 値 ~ 深度																			
			+	アブライト	灰褐	IVg	cg	2		2	深度 135.32~135.51m : 変質帯。上盤45度、下盤47度。軟質化している。深度 135.51m : シーム。傾斜47度。幅1mm。褐色シルト状。	386 (49)	CL		0																			
		35.82	+	アブライト	褐色	IIg		3			深度 135.51m : シーム。傾斜47度。幅1mm。褐色シルト状。	47 (91)	CL																					
		140	+			IIIg		IVg		2	β	深度 137.35~140.40m : 節理に沿って褐色化顕著。岩芯は新鮮。	38 (53)	CM								2/10												
		140.40	+	花崗斑岩	褐色	IIg		2			花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	28 (41)	CL																					
		44.52	+			IIIg		IVg		2		花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	34 (36)	CM																				
		150.00	+	花崗斑岩	褐色	IIg	cg	β			花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	17 (49)	CM																					
						IIIg		IVg		2		花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	46 (60)	CH																				
						IIIg		IVg		2		花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	33 (71)	CM																				
				花崗斑岩	褐色	IIg	cg				花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	29 (74)	CM																					
						IVg		Vg		2		花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	18 (37)	CL																				
				花崗斑岩	褐色	Ig	cg				花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	10 (34)	CM																					
						IIg				2		花崗斑岩。上位との境界傾斜30~35度。深度 140.40~150.00m : 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を60%程度含み、石英は径0.1~0.5mm程度であり、下部には黒雲母を多く含む。	46 (60)	CM																				



2-19(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

H20-②-1

孔口標高	I.P.	69.01m	掘削長	65.00m
------	------	--------	-----	--------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 ①(%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%)	最大コア 長 (cm)	R Q D [%]	①	記 事
				原種土	淡橙	D'	100	0	0					0.00~0.07m 腐植土である。
	66.71	2.30		アフライト	淡黄橙	D'	100	0	0					0.07~0.05m アフライトが主体である。
	64.38	2.92		花崗斑岩		CL'	100	17	32					0.30~2.65m 90~3.20m
	65.06	3.95		アフライト	明褐灰	CM'	100	13	13					0.95~4.34m 花崗斑岩である。
	64.67	4.34		アフライト	淡橙	D'	100	17	49					0.07~2.01m アフライトとの境界は漸移的である。
	61.84	7.17		アフライト	淡橙	D'	100	22	22					極めて軟質である。
	61.32	7.69		ベグマタイト	橙	D'	100	4	0					0.07~14.79m 傾斜25°及び60°程度の割れ目が見られる
	59.34	9.67		アフライト	橙	CL'	100	12	12					割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
	58.95	10.06		花崗斑岩	浅黄橙	CL'	100	12	22					0.01~10.94m 軟質である。
	58.07	10.94		花崗斑岩	浅黄橙	CL'	100	22	36					0.17~7.65m 変質している。
	57.88	11.31		ベグマタイト	灰白	CM'	100	36	46					灰白色粘土が網目状に分布する。
				灰白	灰白	CL'	100	11	22					上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は17°である。
				橙	橙	CM'	100	32	61					0.71~8.81m 傾斜40°~75°程度、幅1mm以下の石英脈を多数挟む。
				明赤褐	明赤褐	CL'	100	14	40					0.05~10.94m 花崗斑岩である。
				明黄褐	明黄褐	CL'	100	36	55					アフライトとの境界は漸移的である。
				浅黄橙	浅黄橙	CL'	100	39	60					0.67~10.06m 黒雲母花崗岩を挟む。
				にぶい黄橙	明褐	CM'	100	31	68					0.94~11.21m ベグマタイトである。
				明褐	明褐	CH'	100	48	77					0.94~14.79m 径5~50mm程度の石英、長石からなる。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	36	73					0.14~18.26m 中硬質である。
				にぶい橙	明褐灰	CM'	100	27	47					0.121~32.25m 花崗斑岩である。
				にぶい橙	にぶい橙	CM'	100	23	56					0.1479~18.26m 軟質である。
				にぶい橙	にぶい橙	CM'	100	31	55					0.1479~18.69m 傾斜70°程度の割れ目が見られる。
				にぶい橙	にぶい橙	CH'	100	38	95					割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
				にぶい橙	にぶい橙	CM'	100	38	71					0.1826~29.70m 硬質である。
				にぶい橙	にぶい橙	CH'	100	36	77					0.1869~29.55m 傾斜20°及び70°程度の割れ目が見られる。
				にぶい橙	褐灰	CH'	100	27	70					割れ目節理に沿って褐色化し、一部灰白色粘土を伴う。
				にぶい橙	にぶい橙	CM'	100	30	77					0.2461m 傾斜80°程度、幅1~2mm程度の石英脈を挟む。
	36.76	32.25		アフライト	にぶい橙	CM'	100	16	42					0.2662m 傾斜76°程度、幅1~2mm程度の石英脈を挟む。
	35.53	33.48		花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	22	33					0.2955~39.55m 傾斜45°及び75°程度の割れ目が見られる。
				明褐灰	明褐灰	CH'	100	23	82					割れ目に沿って褐色化し、マンガンを伴うことが多い。
							100	37	80					0.2970~33.90m 中硬質である。
														0.3201m 傾斜66°程度、幅5~10mm程度の石英脈を挟む。マンガンを伴う。
														0.3222m 傾斜67°程度、幅10mm程度のマンガン脈を挟む。
														0.3225~33.48m アフライトである。
														0.3348~65.00m 上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。
														0.3390~44.37m 花崗斑岩が主体である。
														上位のアフライトとの境界は傾斜78°程度である。
														0.3390~44.37m 硬質である。

第7.4.4.176図(1) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H20-No.②-1孔)

2-22(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

H20-②-1

孔口標高	I.P.	69.01m	掘削長	65.00m
------	------	--------	-----	--------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D (%)	記 事
				花崗斑岩	淡橙	D'	100	0	0			0.00~0.07m ・腐植土である。
	66.71	2.30		アブライト	淡黄橙	D'	100	0	0			0.07~0.05m ・アブライトが主体である。
	64.38	2.92		花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	17	32			2.30~2.65m 2.90~3.20m 3.95~4.34m ・花崗斑岩である。 ・アブライトとの境界は漸移的である。
	65.06	3.95		アブライト	淡橙	D'	100	12	22			0.07~2.01m ・極めて軟質である。
	64.67	4.34		花崗斑岩	淡橙	D'	100	13	13			0.07~14.79m ・傾斜25°及び60°程度の割れ目が見られる。
	61.84	7.17		アブライト	橙	D'	100	22	22			・割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
	61.32	7.69		花崗斑岩	浅黄橙	CL'	100	12	22			2.01~10.94m ・軟質である。
	60.96	8.05		アブライト	浅黄橙	CL'	100	22	36			7.17~7.65m ・変質している。
	59.34	9.67		花崗斑岩	灰白	CM'	100	36	46			・灰白色粘土が網目状に分布する。
	58.95	10.06		花崗斑岩	灰白	CL'	100	11	22			・上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は17°である。
	58.07	10.94		アブライト	橙	CM'	100	32	61			7.71~8.81m ・傾斜40°~75°程度、幅1mm以下の石英脈を多数挟む。
	57.88	11.31		アブライト	明赤褐	CM'	100	14	40			8.05~10.94m ・花崗斑岩である。
				花崗斑岩	明黄褐	CL'	100	36	55			・アブライトとの境界は漸移的である。
				花崗斑岩	浅黄橙	CL'	100	39	60			9.67~10.06m ・黒雲母花崗岩を挟む。
				花崗斑岩	にぶい黄橙	CM'	100	42	53			10.94~11.21m ・ベグマタイトである。
				花崗斑岩	明褐	CH'	100	31	68			・径5~50mm程度の石英、長石からなる。
				花崗斑岩	褐灰	CH'	100	48	77			10.94~14.79m ・中硬質である。
				花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	27	47			11.21~32.25m ・花崗斑岩である。
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	23	56			14.79~18.26m ・軟質である。
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	31	55			14.79~18.69m ・傾斜70°程度の割れ目が見られる。
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	38	95			・割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	38	71			18.26~29.70m ・硬質である。
				花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	36	77			18.69~29.55m ・傾斜20°及び70°程度の割れ目が見られる。
				花崗斑岩	褐灰	CH'	100	27	70			・割れ目節理に沿って褐色化し、一部灰白色粘土を伴う。
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	30	77			24.61m ・傾斜80°程度、幅1~2mm程度の石英脈を挟む。
				花崗斑岩	にぶい橙	CM'	100	18	53			26.62m ・傾斜76°程度、幅1~2mm程度の石英脈を挟む。
	36.76	32.25		アブライト	橙	CM'	100	16	42			29.55~39.55m ・傾斜45°及び75°程度の割れ目が見られる。
	35.53	33.48		花崗斑岩	にぶい橙	CH'	100	22	33			・割れ目に沿って褐色化し、マンガンを伴うことが多い。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	23	82			29.70~33.90m ・中硬質である。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	37	80			32.01m ・傾斜66°程度、幅5~10mm程度の石英脈を挟む。マンガンを伴う。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	16	42			32.22m ・傾斜67°程度、幅10mm程度のマンガン脈を挟む。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	22	33			32.25~33.48m ・アブライトである。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	23	82			・上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	37	80			33.48~65.00m ・花崗斑岩が主体である。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	23	82			・上位のアブライトとの境界は傾斜78°程度である。
				花崗斑岩	明褐灰	CH'	100	37	80			33.90~44.37m ・硬質である。

第7.4.4.176図(1) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H20-No.②-1孔)

2-22(分類)①
報告書の記載漏れを修正したため。

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 ① (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 最大コア長 (cm)	率 (%)	記 事				
													R	Q	D	
40			+	花崗斑岩	明褐灰 にぶい層	CH'	100	46	69		① 39.55~41.72m 傾斜20°及び60°程度の割れ目が見られる。					
						CM'	100	17	71							
						明褐灰	100	27	40							
					CH'	100	10	10								
					CH'	100	25	88								
					CH'	100	18	42								
				花崗斑岩	にぶい層	CM'	100	38	87			41.72~65.00m 傾斜60~70°程度の割れ目が見られる。割れ目に沿って褐色化し、灰白色粘土を伴うことが多い。				
						CL'	100	15	25							
						CL'	100	8	0							
				50			+	花崗斑岩	黄橙灰白			D'	100	3	0	43.16m 傾斜45°程度、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。 43.25~43.50m 44.20~45.56m アブライトを挟む。 44.55~44.80m 変質している。微細な割れ目に灰白色粘土を挟む。上端境界は傾斜53°、下端境界は傾斜49°である。 ●45.13~46.34m 破砕部である。灰白色~黄褐色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。走向・傾斜はN3°W60°Wである。上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は68°である。 ●46.85~46.97m 破砕部である。明褐色の粘土混じり礫状を呈する。灰白色粘土：累計厚0.6mm 走向・傾斜はN63°E71°Sである。上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は67°である。 47.13~47.25m 変質している。灰白色粘土が網目状に分布する。上端境界の傾斜は66°、下端境界の傾斜は30°であるが、傾斜の方向が異なる。 ●48.26~48.95m 破砕部である。明褐色の硬質粘土状~礫混じり粘土状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚10mm 走向・傾斜はN52°W71°SWである。上盤境界の傾斜は69°、下盤境界の傾斜は45°である。 ●49.21~51.10m (D-1破砕帯) 破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚100mm 走向・傾斜は未測定。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は36°、主せん断面の傾斜は65°である。 51.10~57.42m ・軟質である。 51.73~52.12m 52.53~52.67m 53.67~53.72m 54.55~54.64m 55.85~55.90m 56.57~56.67m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上盤境界の傾斜は31°~76°、下端境界の傾斜は31°~77°である。 57.42~65.00m ・中硬質である。 59.67~61.35m 61.74~61.60m ・アブライトである。 64.78~65.00m ・変質している。 ・微細な割れ目が多く、一部に灰白色粘土。マンガンが網目状に分布する。 ・上盤境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は不明である。
												D'	100	2	0	
												CL'	100	7	0	
								花崗斑岩	にぶい層			D'	100	8	0	
												D'	100	2	0	
												D'	100	0	0	
花崗斑岩	にぶい層	D'	100					3	0							
		D'	100					4	0							
		D'	100					14	14							
花崗斑岩	にぶい層	D'	100	10	10											
		D'	100	6	0											
		D'	100	8	0											
花崗斑岩	にぶい層	CL'	100	7	0											
		CL'	100	12	54											
		CL'	100	7	0											
花崗斑岩	にぶい層	明褐灰	100	8	0											
		明褐灰	100	10	10											
		明褐灰	100	15	25											
花崗斑岩	にぶい層	浅黄	100	13	13											
		浅黄	100	8	0											
		浅黄	100	8	0											

第7.4.4.176図(2) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H20-No.②-1孔) 2-22(分類)① 報告書の記載漏れを修正したため。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種 花崗斑岩	色調 浅黄	硬軟 Dg Vg Cg Bg IVg Cg IVg Dg Vg Eg	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率	岩盤級分区分類	孔内水位(測定日)	(標準貫入試験)試験					原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm) /孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧(kN・MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
											←(%)			N値~深度															
4.01	65.00					Dg Vg Cg Bg IVg Cg IVg Dg Vg Eg		γ 3		64.78~65.00m:変質帯。上盤45°, 下盤不明。幅7cm程度以上。微細な節理が発達し。一部に灰白色粘土。マンガンが網目状に分布する。	0 50 100	62.00		0	10	20	30	40	50			4/23	86	76	20.0	120	0.0	泥水3	0
						Dg Vg Cg Bg IVg Cg IVg Dg Vg Eg		γ 4			0 50 100	65.00									4/23	65.00							

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア 長 (cm)	R Q D (%)	記 事
40			+	花崗斑岩	明褐色 にぶい橙	CH'	100	46	69		39.55~41.72m ・傾斜20°及び60°程度の割れ目が見られる。	
						CM'	100	25	78			
						CM'	100	17	71			
						CM'	100	27	40			
						CM'	100	10	10			
						CH'	100	25	88			
						CH'	100	18	42			
						CM'	100	38	87			
						CL'	100	15	25			
						CL'	100	8	0			
						CL'	100	8	0			
						50			+			花崗斑岩
D'	100	2	0									
CL'	100	7	0									
CL'	100	8	0									
D'	100	2	0									
D'	100	0	0									
D'	100	3	0									
D'	100	4	0									
CL'	100	14	14									
CL'	100	10	10									
CL'	100	6	0									
CL'	100	8	0									
CL'	100	7	0									
CL'	100	12	54									
CL'	100	7	0									
CL'	100	8	0									
CL'	100	10	10									
CL'	100	15	25									
CL'	100	13	13									
D'	100	8	0									

6-7-4-1043

第7.4.4.176図(2) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H20-No.②-1孔) 2-22(分類)① 報告書の記載漏れを修正したため。

ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNo.										1
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

ボーリング名	D1-1					調査位置						北緯					
発注機関											調査期間			東経			
調査業者名						主任技師						現代理人			ボーリング責任者		
孔口標高	20.25 m	角				方						地盤勾配			試験機	ハンマー落下用具	
総掘削長	100.00 m	度				向						鉛直			エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m)	測定月日	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 試験 (図)					原位置試験 (孔内水平断面)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L / 分)					
																N	10	20	30	40											50				
		17.19	4.33	埋土	にぶい黄橙					0.00~4.33m: 埋土 0.00~3.00m: 中砂 均質な中砂。径2~3mmの石英粒が点在する。 1.70~2.00m: 径5~10mm, 最大30mmの花崗斑岩岩片を多く含む。																									
		16.68	5.05	砂礫	にぶい黄橙					4.33~4.40m: 粗砂 径2~5mm, 最大10mmの花崗斑岩岩片が混入。																									
		16.40	5.45	砂	にぶい黄橙					4.40~4.33m: 砂礫 径5~30mmの花崗斑岩の硬質礫を含む。下記の第四系砂礫層との境界は不明瞭。																									
		15.77	6.33	砂礫	にぶい黄橙					4.33~12.20m: 砂。砂礫主体 (③層) 4.33~5.05m: 砂礫 礫は径2~80mmの垂円~亜角礫。基質は中~粗砂。礫率30~40%程度。 5.05~5.45m: 粗砂 径1~3mmの石英を多く含む。																									
		15.59	6.59	砂礫	にぶい黄橙					5.45~6.33m: 礫 径30~280mmの亜角礫からなる。																									
		15.50	6.72	砂	にぶい黄橙					6.33~6.59m: 砂礫 礫は径2~80mmの垂円~亜角礫。基質は中~粗砂。礫率30%前後。 6.59~6.72m: シルト混じり細砂 未分解の有機物を含む。																									
		13.55	9.48	砂	にぶい黄橙					6.72~8.84m: 中砂 均質。石英や花崗斑岩が点在。 上端部に粘土分が多い。																									
		13.00	10.25	砂礫	にぶい黄橙					8.84~9.48m: 粗砂 9.48~10.25m: 砂礫 礫は径2~70mmの石英, 垂円~亜角礫。基質は中~粗砂。礫率30%前後。																									
		12.47	11.00	砂	にぶい黄橙					10.25~11.00m: 中砂 不均質に粘土分や有機物を含む。 径2~20mmの礫も少量含む。																									
		11.62	12.20	砂礫	にぶい黄橙					11.00~12.20m: 砂礫 礫は径2~160mmの垂円~亜角礫。基質は中~粗砂。礫率40~50%程度。																									
10										12.20~100.00m: 花崗斑岩 (Gp) 斑岩は径1~3mmの石英, 長石。 12.20~18.10m: 割れ目に沿って砂状化やマトリックス付着が認められる。																									
										19.88~20.25m: 割れ目は消滅し。 径5~10mmの粘土化岩片が主体。 20.09m付近, 幅5~20mmで淡緑色化。 20.16~20.19m: 粘土化した岩片を多く含む。																									
										21.04~24.53m: 割れ目は傾斜10~35°が主体で, 60~80°の割れ目が斜交する。																									
										24.53~30.53m: 割れ目は傾斜50~60°が主体。一部で10~50°の割れ目に60~70°の割れ目が交差する。																									
										25.12m: 傾斜40°で褐色粘土挟在。 周縁に黄鉄鉱が付着																									
										26.50~27.04m: 軟化著しい。一部に粘土脈を伴う。																									
										27.21m: 傾斜34°の割れ目に沿って幅1~3mmが砂状化する。																									
										27.81~27.90m: 幅0.5~2mmの白色粘土を挟む。																									
										30.53~31.94m: 傾斜30~50°の中角度割れ目が主体。																									

H24-D1-1

孔口標高	T.P.	20.25m	掘削長	100.00m
------	------	--------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										R	Q	D	
				埋土	にぶい黄橙		100						0.00~4.33m ・埋土である。
		17.19		砂礫	にぶい黄橙		100						4.33~5.05m ・砂礫である。 ・径5~30mmの花崗斑岩の硬質礫を含む。
		16.68		砂	にぶい黄橙		100						5.05~5.45m ・砂である。 ・径1~3mmの石英を多く含む。
		16.40		砂	にぶい黄橙		100						5.45~6.33m ・礫である。 ・径30~280mmの亜角礫からなる。
		15.77		砂礫	にぶい黄橙		100						6.33~6.59m ・砂礫である。 ・礫は径2~80mmの亜円~亜角礫を含み基質は中粒~粗粒砂からなる。
		15.59		シルト混り砂	にぶい黄橙		100						6.59~6.72m ・シルト混り砂である。
		13.55		砂	にぶい黄橙		100						6.72~9.48m ・砂である。 ・石英や花崗斑岩礫が点在する。
		13.00		砂礫	にぶい黄橙		100						9.48~10.25m ・砂礫である。 ・礫は径2~70mmの石英、亜円~亜角礫からなる。
		12.47		砂	にぶい黄橙		100						10.25~11.00m ・砂である。 ・不均質に粘土分や有機物を含む。
		11.62		砂礫	にぶい黄橙		100						11.00~12.20m ・砂礫である。 ・礫は径2~160mmの亜円~亜角礫を含む。 ・礫率40~50%程度。
						D'	100	7	0				12.20~100.00m ・花崗斑岩である。
						D'	100	4	0				12.20~21.04m ・風化部である。
						D'	100	8	0				21.04~30.53m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。
						CL'	100	6	0				
						D'	100	5	0				
						D'	100	4	0				
						D'	100	3	0				
						D'	100	6	0				
						CL'	100	7	0				
						CL'	100	12	12				
						CL'	100	11	11				
						D'	100	6	0				
						D'	100	5	0				
						D'	100	7	0				
						CL'	100	2	0				
						CL'	100	16	16				
						D'	100	4	0				
						D'	100	17	17				
						D'	100	6	0				
						D'	100	22	22				
						D'	100	9	0				
						CL'	100	9	0				
						D'	100	5	0				
						D'	100	4	0				
						D'	100	10	10				
						D'	100	4	0				
						CL'	100	5	0				

2-23(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

6-7-4-1049

第7.4.4.178図(1) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) コア柱状図 (H24-D1-1孔)

H24-D1-1

孔口標高	T.P. 20.25m	掘削長	100.00m
------	-------------	-----	---------

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										R	Q	D	
				埋土	にぶい黄橙		100					0.00~4.33m ・埋土である。	
		17.19	4.33	砂礫	にぶい黄橙		100					4.33~5.05m ・砂礫である。 ・径5~30mmの花崗斑岩の硬質礫を含む。	
		16.68	5.05	砂	にぶい黄橙		100					5.05~5.45m ・砂である。 ・径1~3mmの石英を多く含む。	
		16.40	5.45	砂	にぶい黄橙		100					5.45~6.33m ・礫である。 ・径30~280mmの亜角礫からなる。	
		15.77	6.33	砂礫	にぶい黄橙		100					6.33~6.59m ・砂礫である。 ・礫は径2~80mmの亜円~亜角礫を含み基質は中粒~粗粒砂からなる。	
		15.59	6.59	シルト混り砂	にぶい黄橙		100					6.59~6.72m ・シルト混り砂である。	
		13.55	9.48	砂礫	にぶい黄橙		100					6.72~9.48m ・砂である。 ・石英や花崗斑岩礫が点在する。	
		13.00	10.25	砂	にぶい黄橙		100					9.48~10.25m ・砂礫である。 ・礫は径2~70mmの石英、亜円~亜角礫からなる。	
		12.47	11.00	砂	にぶい黄橙		100					10.25~11.00m ・砂である。 ・不均質に粘土分や有機物を含む。	
		11.62	12.20	砂礫	にぶい黄橙		100					11.00~12.20m ・砂礫である。 ・礫は径2~160mmの亜円~亜角礫を含む。 ・礫率40~50%程度。	
				花崗斑岩	にぶい黄橙	D'	100	7	0			12.20~100.00m ・花崗斑岩である。 ・風化部である。	
						D'	100	4	0				21.04~30.53m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。
						D'	100	8	0				
						CL'	100	6	0				
						D'	100	5	0				
						D'	100	4	0				
						D'	100	3	0				
						D'	100	6	0				
						CL'	100	7	0				
						CL'	100	12	12				
				CL'	100	11	11						
				D'	100	6	0						
				D'	100	5	0						
				D'	100	7	0						
				CL'	100	2	0						
				CL'	100	16	16						
				D'	100	4	0						
				D'	100	17	17						
				D'	100	6	0						
				D'	100	22	22						
				D'	100	9	0						
				CL'	100	9	0						
				CL'	100	5	0						
				明褐灰	明褐灰		100	4	0				
				明褐灰	明黄褐		100	10	10				
				明褐灰	明黄褐		100	4	0				
				明褐灰	明黄褐		100	10	10				
				明褐灰	明黄褐		100	4	0				
				明褐灰	明黄褐		100	5	0				
				明褐灰	明黄褐		100	4	0				
				明褐灰	明黄褐		100	5	0				

2-23(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

6-7-4-1049

第7.4.4.178図(1) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1 トレンチの間) コア柱状図 (H24-D1-1孔)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア 長 (cm)	R	Q	
		50	①			明褐灰	100	15	27	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ●45.91~48.28m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・明褐灰~明黄褐色の礫混じり粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい赤橙~明黄褐~にぶい黄褐色粘土：累計厚34mm ・走向・傾斜はN1° E58° Wである。 ●49.20~49.91m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明褐~明黄褐色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・明褐~明黄褐色粘土：累計厚10mm。 ・走向・傾斜はN9° W74° Eである。 ●53.77~54.54m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・にぶい橙~にぶい黄橙~灰黄色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい黄褐~淡黄橙~黄褐~浅黄橙色粘土：累計厚52mm ・走向・傾斜はN20° E77° Eである。 ●58.96~59.30m ・破砕部である。 ・明褐灰~淡黄~浅黄褐色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・明赤灰~褐灰~にぶい橙色粘土：累計厚30mm ・走向・傾斜はN8° E78° Wである。 ●60.12~60.15m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである ・浅黄橙~にぶい黄褐色の礫混じり粘土状を呈する。 ・浅黄橙~にぶい黄褐色粘土：累計厚23mm ・走向・傾斜はN9° E88° Wである。 ●68.84~69.00m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・浅黄橙~灰白色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・にぶい黄橙~暗褐色粘土：累計厚16mm ・走向・傾斜はN31° W72° NEである。 ●78.77~79.19m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・明オリーブ灰~赤灰色の礫混じり粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰赤色粘土：累計厚3mm ・走向・傾斜はN4° E78° Eである。
						にぶい橙	100	8	0	0	0	0	
						明黄褐	100	8	0	0	0	0	
						明褐灰	100	3	0	0	0	0	
						明褐灰	100	2	0	0	0	0	
						明褐灰	100	1	0	0	0	0	
						明褐灰	100	1	0	0	0	0	
						明褐灰	100	2	0	0	0	0	
						明褐灰	100	5	0	0	0	0	
						にぶい橙	100	4	0	0	0	0	
						灰褐	100	2	0	0	0	0	
						灰褐	100	2	0	0	0	0	
						にぶい黄橙	100	4	0	0	0	0	
						灰褐	100	4	0	0	0	0	
						灰褐	100	4	0	0	0	0	
						明褐灰	100	2	0	0	0	0	
						橙	100	1	0	0	0	0	
						明褐灰	100	4	0	0	0	0	
						明褐灰	100	1	0	0	0	0	
						明褐灰	100	2	0	0	0	0	
						明褐灰	100	5	0	0	0	0	
						灰褐	100	6	0	0	0	0	
						灰褐	100	10	10	0	0	0	
						灰褐	100	10	10	0	0	0	
						にぶい黄橙	100	11	21	0	0	0	
						にぶい黄橙	100	6	0	0	0	0	
						D'	100	4	0	0	0	0	
						D'	100	3	0	0	0	0	
						灰褐	100	3	0	0	0	0	
						灰褐	100	3	0	0	0	0	
						灰褐	100	2	0	0	0	0	
						にぶい黄橙	100	3	0	0	0	0	
						D'	100	4	0	0	0	0	
						D'	100	2	0	0	0	0	
						灰褐	100	4	0	0	0	0	
						灰褐	100	4	0	0	0	0	
						D'	100	1	0	0	0	0	
						CL'	100	3	0	0	0	0	

2-23(分類c)①
 申請書作成の際に模様を見直したため。
 2-24(分類c)②
 記事欄の記載変更に伴う変更。(破砕部模様の変更)

6-7-4-1050

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩 級 区 分	標準貫入 () 試験 (N 値 ~ 深度) 図		孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアラチューブ / ビット	給 送 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)														
														N	値																										
70			花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	2	γ	68.52m: 傾斜70°で、幅2~5mmの白~明黄褐色粘土状。68.52~68.84m: 全体に粘土化進む。 ●68.84~69.00m: 破砕帯。68.84~68.93m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj)。上端50°で不明瞭、下端55°でやや波打つ。幅2mm、径5~10mmの粘土化した岩片を主体とする。68.93~68.95m: 礫質粘土状破砕部(Hb)。下端50°でやや波打つ。幅20~30mm、径5~18mmの粘土化した岩片を多く含む。68.95~69.00m: 粘土混じり礫状破砕部(Hj)。下端45°でやや波打つ。幅32~35mm、径5~10mmの粘土化した岩片を主体とする。下端に幅2mmの硬質な淡褐色粘土を挟む。 69.06~69.18m: 傾斜60~80°、幅2~8mmの灰赤色粘土を挟む。 71.21~71.35m: 著しく軟化し、粘土脈が傾斜40~60°で分布。74.28~75.50m: 不規則な割れ目に灰白色粘土を網目状に伴う。75.50~77.75m: 傾斜10~30°と、斜交する50~70°の割れ目が分布。	CL'	0	10	20	30	40	50																							
																																			3/22	115	3.0	120	0.0	0	0
																																			3/23	110	0.1	0	0	0	0
																																			3/23	75	3.0	120	0.0	0	0
																																			3/23	105	3.0	120	0.1	1	1
																																			3/30	85	3.0	120	0.1	2	2
																																			80						
																																			4/1	90	3.0	120	0.1	1	1
																																			4/2	100	3.0	120	0.1	1	1
																																			95						
																																			4/3	65	3.0	120	0.1	1	1
																																			4/4	90	3.0	120	0.1	1	1
																																			80						
																																			4/5	55	3.0	120	0.1	2	2
																																			4/6	75	3.0	120	0.1	2	2
60																																									

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)			記 事
										最大 コア 長 (cm)	R	Q	
50			①	花崗斑岩		明褐灰	100	15	27	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ●45.91~48.28m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・明褐灰～明黄褐色の礫混じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい赤橙～明黄褐～にぶい黄褐色粘土：累計厚34mm ・走向・傾斜はN1° E58° Wである。 ●49.20~49.91m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・明褐～明黄褐色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・明褐～明黄褐色粘土：累計厚10mm。 ・走向・傾斜はN9° W74° Eである。 ●53.77~54.54m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・にぶい橙～にぶい黄橙～灰黄色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にぶい黄褐～淡黄橙～黄褐～浅黄橙色粘土：累計厚52mm ・走向・傾斜はN20° E77° Eである。 ●58.96~59.30m ・破砕部である。 ・明褐灰～淡黄～浅黄褐色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・明赤灰～褐灰～にぶい橙色粘土：累計厚30mm ・走向・傾斜はN8° E78° Wである。 ●60.12~60.15m (D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである ・浅黄橙～にぶい黄褐色の礫混じり粘土状を呈する。 ・浅黄橙～にぶい黄褐色粘土：累計厚23mm ・走向・傾斜はN9° E88° Wである。 ●68.84~69.00m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・浅黄橙～灰白色の粘土状～礫質粘土状を呈する。 ・にぶい黄橙～暗褐色粘土：累計厚16mm ・走向・傾斜はN31° W72° NEである。 ●78.77~79.19m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・明オリーフ灰～赤灰色の礫混じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・灰赤色粘土：累計厚3mm ・走向・傾斜はN4° E78° Eである。
							100	8	0	0	0	0	
							100	8	0	0	0	0	
							100	3	0	0	0	0	
							100	2	0	0	0	0	
							100	1	0	0	0	0	
							100	1	0	0	0	0	
							100	2	0	0	0	0	
							100	5	0	0	0	0	
							100	4	0	0	0	0	
							100	2	0	0	0	0	
							100	2	0	0	0	0	
							100	4	0	0	0	0	
							100	4	0	0	0	0	
							100	2	0	0	0	0	
							100	1	0	0	0	0	
							100	4	0	0	0	0	
							100	1	0	0	0	0	
							100	2	0	0	0	0	
							100	5	0	0	0	0	
							100	6	0	0	0	0	
							100	10	10	0	0	0	
							100	10	10	0	0	0	
							100	11	21	0	0	0	
							100	6	0	0	0	0	
							100	4	0	0	0	0	
							100	3	0	0	0	0	
							100	3	0	0	0	0	
							100	3	0	0	0	0	
							100	2	0	0	0	0	
							100	3	0	0	0	0	
							100	4	0	0	0	0	
							100	2	0	0	0	0	
							100	4	0	0	0	0	
							100	4	0	0	0	0	
							100	1	0	0	0	0	
100	3	0	0	0	0								

2-23(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 送 水 量 (L/分)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																																																																																																																																						
															(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)																																																																																																																																																																																	
70			花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	2		68.52m: 傾斜70°で、幅2~5mmの白~明黄褐色粘土状。68.52~68.84m: 全体に粘土化進む	0 50 100 0 10 20 30 40 50	CL'																																																																																																																																																																																				
											●68.84~69.00m: 破砕帯																																																																																																																																																																																						
											80																					花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	2																																																																																																																																																											
																																																											●69.06~69.18m: 傾斜60~80°、幅2~8mmの灰赤色粘土を挟む。																																																																																																																																						
											90																					花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	2		71.21~71.35m: 著しく軟化し、粘土脈が傾斜40~60°で分布		D'																																																																																																																																																							
																																								●72.77~79.19m: 破砕帯																																																																																																																																																									
																																																												花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	2		79.25~79.85m: 傾斜10~30°と60~70°の割れ目が約1cm間隔で分布。		CL'																																																																																																																											
																																																																				●81.20~81.42m: 破砕帯																																																																																																																													
																																																																																								花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	3		81.42~81.14m: 傾斜30~70°と、斜交する30~70°の割れ目が分布。		D'																																																																																															
																																																																																																●89.91~89.95m: 破砕帯																																																																																																	
																																																																																																																			花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	3		90.26~90.84m: 破砕帯		CL'																																																																				
																																																																																																																											●91.26~91.52m: 破砕帯																																																																						
																																																																																																																																														花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	2		93.12~93.24m: 破砕帯		D'																																									
																																																																																																																																																						●95.23~99.46m: 岩片状を呈し、割れ目は傾斜20~50°が主体で、交差する30~50°のものが分布する。																																											
																																																																																																																																																																									花崗斑岩	灰褐色	Dg	Vg	cg	δ	2		99.46~99.68m: 傾斜50~60°の割れ目が平行に分布。割れ目沿いに砂状化し、粘土脈を挟む。		CL'														
																																																																																																																																																																																	●99.46~99.68m: 傾斜50~60°の割れ目が平行に分布。割れ目沿いに砂状化し、粘土脈を挟む。																

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	記事		
		①		花崗斑岩	灰褐 にぶい 黄橙	CL'	100	3	0		80.08~81.00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●81.20~81.42m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・にぶい黄橙~浅黄橙色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・灰赤~淡赤橙色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。		
								100	5		0		
								100	5		0		
								100	6		0		
								100	6		0		
								100	8		0		
								100	9		0		
							にぶい 黄橙	D'	100		11	11	87.14~88.35m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							灰褐	CL'	100		6	0	●89.91~89.95m ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・明赤灰色の礫混じり粘土状を呈する。 ・明赤灰色粘土：累計厚35mm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。
							灰	D'	100		4	0	
							灰褐 褐灰	D'	100		3	0	
								D'	100		1	0	●90.26~90.84m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
							灰褐	CL'	100		4	0	
								D'	100		3	0	・にぶい黄橙~灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。
								CL'	100		5	0	
								CL'	100		5	0	
							灰黄褐	CL'	100		3	0	●91.26~91.52m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。 ・にぶい黄橙~浅黄橙色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。
							灰褐	CL'	100		4	0	
						CL'	100	5	0	●93.12~93.24m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。 ・灰黄~灰白~にぶい黄橙色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・灰赤~明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。			
						CL'	100	4	0				
						CL'	100	5	0	95.23~99.46m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●99.68~99.71m ・破碎部である。 ・正断層センスが推定される。 ・灰白~にぶい黄橙色の礫混じり粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・灰赤~にぶい黄橙色粘土：累計厚8mm ・傾斜は65° である。			

2-23(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記号	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入 () 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)
														(N 値 ~ 深度) 図	(N 値)											
	-50.46	100.00		花崗斑岩	灰黄緑	Dg	Vg	cg	δ	●99.68~99.71m: 破碎帯 99.68~99.69m: 礫混り粘土状破碎部 (Ho-2)。上端65'、下端63' ともに直線的。幅8mm。灰赤色。 99.69~99.71m: 礫質粘土状破碎部 (Hb)。下端65' で直線的。幅12mm。	CL							4/10	60	86	ダブル コアチップ ダイヤモンド	3.0	120	0.1	泥水	1

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取 率 (%) 最大コア 長 (cm)	記事
90	-50.46	100.00	①	花崗斑岩	灰褐 にぶい 黄橙	CL'	100	3	0		80.08~81.00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●81.20~81.42m ・破碎部である。 ・左ずれセンスである。 ・にぶい黄橙~浅黄橙色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・灰赤~淡赤橙色粘土：累計厚4mm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
							100	5	0		
							100	5	0		
							100	6	0		
							100	6	0		
							100	8	0		
							100	9	0		
					にぶい 黄橙	D'	100	11	11		87.14~88.35m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
					灰褐	CL'	100	6	0		●89.91~89.95m ・破碎部である。 ・正断層センスである。 ・明赤灰色の礫混じり粘土状を呈する。 ・明赤灰色粘土：累計厚35mm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。
					灰	D'	100	4	0		
					灰褐	CL'	100	4	0		
					褐灰	D'	100	3	0		●90.26~90.84m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					灰褐	CL'	100	4	0		
					灰褐	D'	100	3	0		・にぶい黄橙~灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。
					灰褐	D'	100	5	0		
					灰褐	D'	100	5	0		
					灰黄褐	CL'	100	3	0		●91.26~91.52m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。
					灰褐	CL'	100	4	0		・にぶい黄橙~浅黄橙色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・赤灰色粘土：累計厚15mm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。
灰褐	CL'	100	5	0							
										●93.12~93.24m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。	
										・灰黄~灰白~にぶい黄橙色の粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・灰赤~明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。	
										95.23~99.46m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●99.68~99.71m ・破碎部である。 ・正断層センスが推定される。 ・灰白~にぶい黄橙色の礫混じり粘土状~礫質粘土状を呈する。 ・灰赤~にぶい黄橙色粘土：累計厚8mm ・傾斜は65° である。	

2-23(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。

ボーリング柱状図

調査名

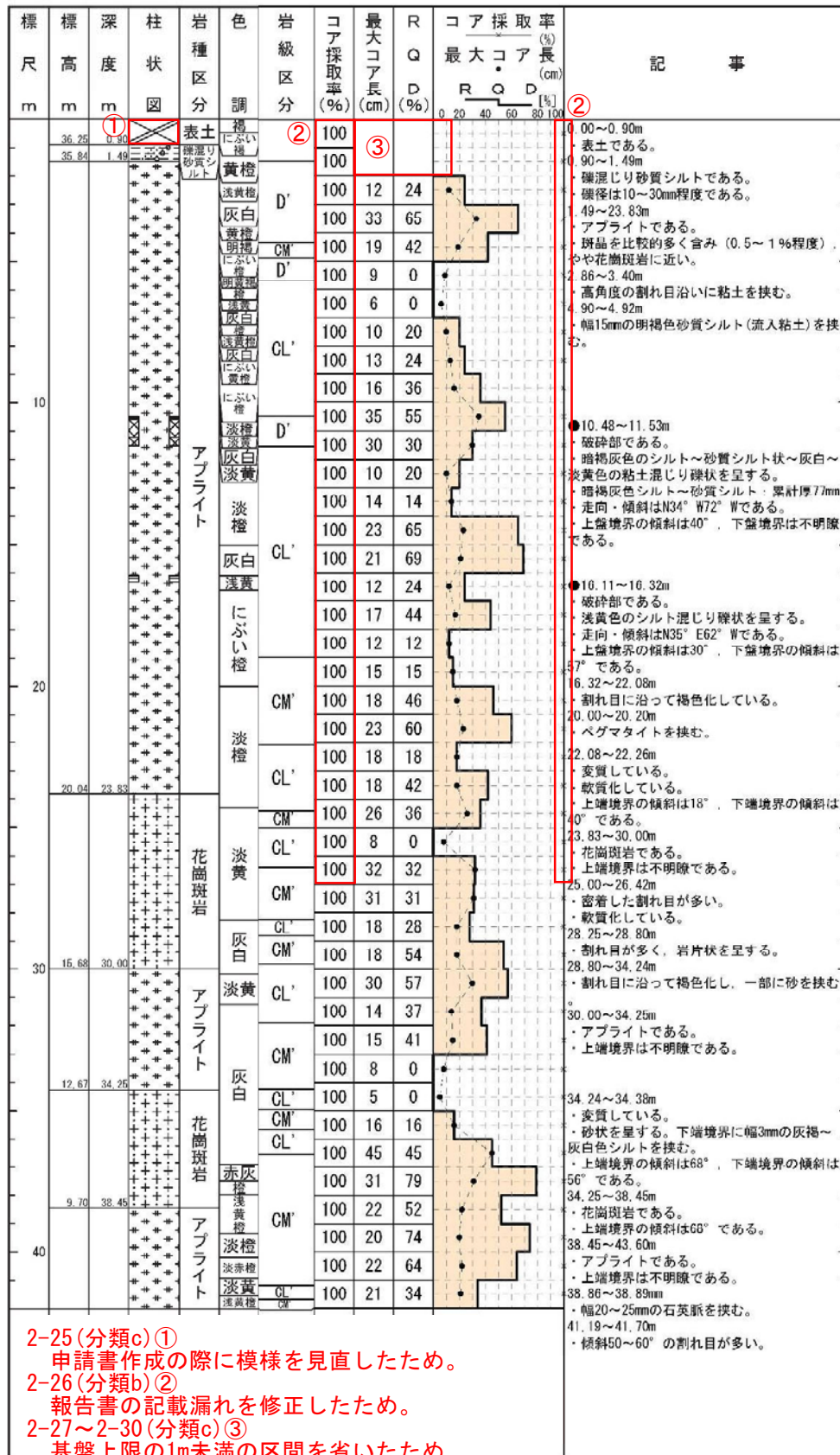
ボーリングNo.												
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

ボーリング名	No. 4		調査位置		北緯		東経	
発注機関					調査期間			
調査業者名	主任技師			現代理人		コ鑑定者		ボーリング責任者
孔口標高	+ 36.89 m	角	180° 上	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種
総掘削長	250.00 m	度	90°	向	45°	試験機	ハンマー 落下用具	ポンプ
						エンジン		

標尺	高度	深	柱状区分	色調	硬軟	割れ目の形状	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D ↳ [%]	岩盤区分	孔内水位(測定月日)	(標準貫入試験)試験				室内掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチップ/ビット	給送水量 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/min)	排水量 (l/min)
												N値	深度	N値	深度									
		36.25	表土	褐色	IVg			深度0.90~1.49m: 礫径は1~3cm.																
		35.84	黄橙	IVg	IVg			深度1.49~53.35m: アプライト、花崗斑岩及びアプライトの互層。アプライトは、石基の径が0.1mm以下で、一部に径0.2mm程度。斑晶は径3mm程度で石英、長石を主体にわずかに黒雲母を含む。全体に点在する程度である (0.5%以下)。																
			灰白	IIg	IIg	δ		深度1.49~23.83m間はアプライトであるが、斑晶を比較的多く含む (0.5~1%程度)。やや花崗斑岩に近い。																
			黄橙	VIg	VIg			深度2.96~3.40m: 高角度の粘土を挟む節理あり。																
			明褐色	CG	CG	γ		深度4.90~4.92m: 幅15mm、明褐色砂質シルト(流入粘土)を挟む。																
			明黄橙	Eg	VIg																			
			灰白	IVg	IVg	δ	2																	
			淡黄橙	Dg	CG	γ																		
			灰白	IVg	IVg	γ																		
			淡黄	Dg	VIg																			
			明黄橙	Eg	VIg																			
			灰白	IVg	IVg	δ																		
			淡黄	Dg	CG	γ																		
			灰白	IVg	IVg	δ	3																	
			淡黄	Dg	CG	γ		深度10.48~10.58m: 破砕帯(Hc)。上盤49度。下盤44度。幅65mm。上盤から幅4mm黄灰色シルト状、幅20mm暗褐色砂質シルト状、幅25mm暗褐色砂質シルト混じり砂状、幅15mm暗褐色シルト状。																
			淡黄	Dg	CG	γ		深度10.58~11.21m: 破砕帯(Hj)。上盤44度。下盤49度。軟質化、節理密集部。																
			灰白	IVg	IVg	δ	2	深度11.21~11.52m: 破砕帯(Hj)。上盤49度。下盤35度。砂状~シルト状。																
			淡黄	Dg	CG	γ		深度11.21m: 傾斜49度。幅0.5~3mm、暗褐色シルト状。																
			灰白	IVg	IVg	δ	3	深度11.25m: 傾斜6度。幅0~2mm、灰白色シルト状。																
			淡黄	Dg	CG	γ		深度11.52~11.53m: 破砕帯(Hc)。上盤35度。下盤不明。幅12mm、暗褐色シルト状。																
			灰白	IVg	IVg	δ	4	深度16.11~16.32m: 破砕帯(Hb)。上盤30度。下盤57度。径5~10mm程度の石英を含むシルト混じり礫状。全体に固結。下盤に幅4~6mmの暗褐色シルト状部分を挟む。																
			淡黄	Dg	CG	γ		深度16.32~22.08m: 節理に沿って褐色化する。																
			明黄橙	Eg	VIg																			
			灰白	IVg	IVg	δ	2	深度20.00~20.20m: ベグマタイトを挟む。																
			淡黄	Dg	CG	γ																		
			明黄橙	Eg	VIg																			
			灰白	IVg	IVg	δ	3	深度22.08~22.26m: 変質帯。上盤18度。下盤40度。軟質化。																
			淡黄	Dg	CG	γ		深度22.59m: シーム。傾斜55度。幅2mm。淡黄灰色粘土状。																
			明黄橙	Eg	VIg																			
			灰白	IVg	IVg	δ	2	花崗斑岩。上位との境界不明瞭。深度23.83~30.00m: 花崗斑岩。径5mm程度の石英、長石主体の斑晶を1~5%程度含む。																
			淡黄	Dg	CG	γ		深度25.00~26.42m: 密着した節理が発達し、全体に軟質化する。																

孔口標高	T.P. 36.89m	掘削長	250.00m
------	-------------	-----	---------



2-25(分類c)①
申請書作成の際に模様を見直したため。
2-26(分類b)②
報告書の記載漏れを修正したため。
2-27~2-30(分類c)③
基盤上限の1m未満の区間を省いたため。

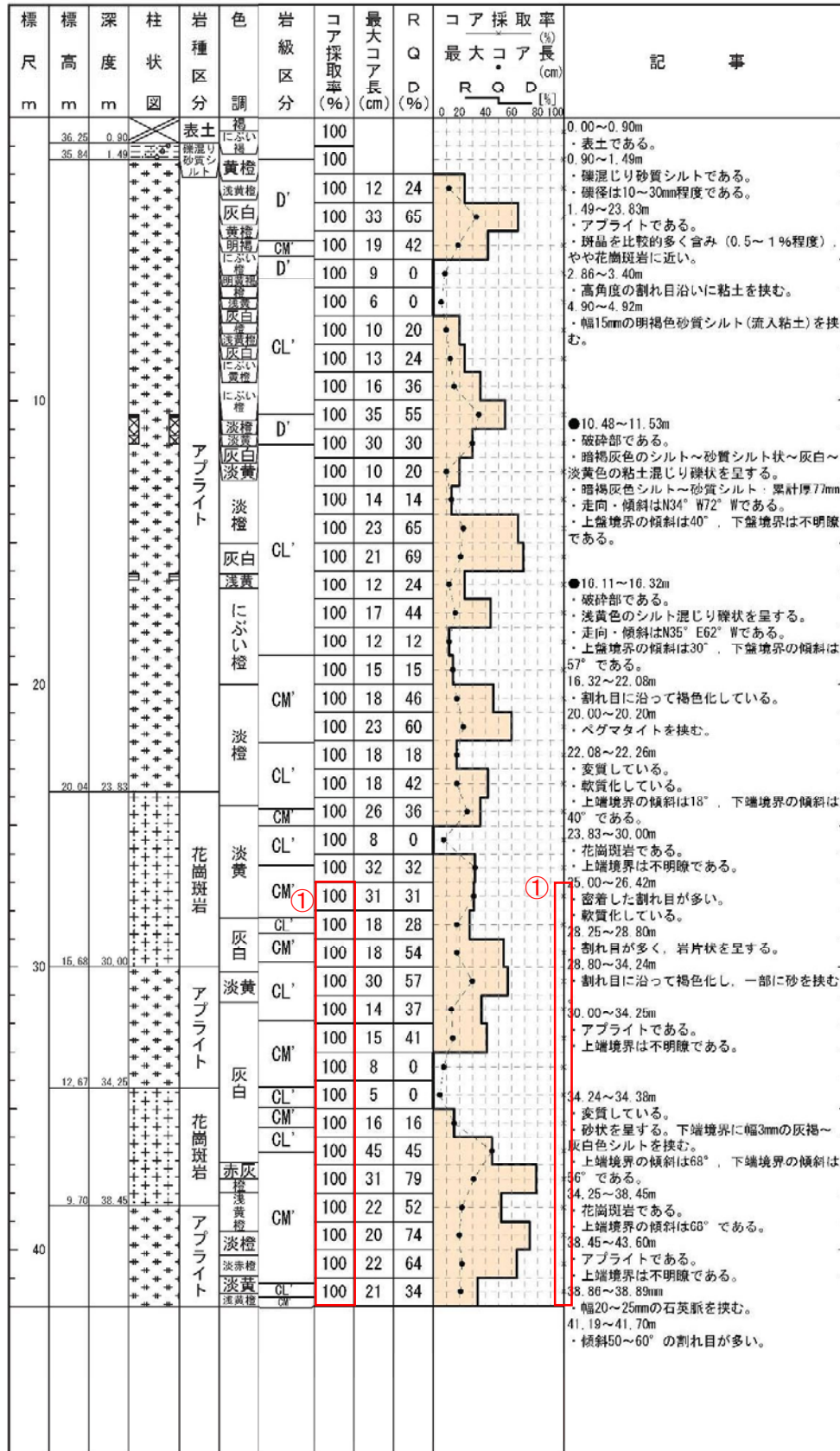
6-7-4-1062

第7.4.4.181図 (1) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)

標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コアラ形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D ↳ [%]	岩盤区分		孔内水位(m) 測定日	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月	孔径(mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)							
													N	値		N	値	N	値	N												値						
30	15.68	30.00	花崗斑岩	淡黄	IVg	bg					深度28.25~28.80m: 岩片~細粒状をなし、軟質化している。	31	OM	1/8	26.30																							
			灰白	淡黄	IVg	cg					深度28.80~34.24m: 節理に沿って褐色化し、一部砂を挟む。	28	OM	1/8	30.14																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					アブライト、上位との境界不明瞭。深度30.00~53.35m: アブライト主体で、厚さ0.8~4.2m程度の花崗斑岩を挟む。花崗斑岩は、径3mm程度の石英、長石主体の斑晶を1~3%程度含む。斑晶が少なくアブライトに近い岩相である。	30	CL	9/15	32.38																							
	12.67	34.25	灰白	淡黄	IVg	cg					花崗斑岩、上位との境界は変質帯、傾斜60度。	34	OM	1/31	34.25																							
			花崗斑岩	赤灰	IVg	cg					深度34.24~34.38m: 変質帯。上盤68度、下盤56度。砂状化し、脆くなる。	33	OM	9/1	36.38																							
	9.70	38.45	花崗斑岩	淡黄	IVg	cg					深度34.38m: シーム。傾斜56度。幅3mm。灰褐色と灰白色シルトの互層状。深度34.38~36.38m: やや節理多く、角粒状コアをなす。	35	OM	9/1	38.38																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					アブライト、上位との境界不明瞭。深度38.86m: 幅20~25mmの石英脈を挟む。	38	OM	2/13	42.10																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度41.19~41.70m: 傾斜50~60度の節理多く、全体に褐色化する。	41	OM	2/13	42.10																							
	6.06	43.60	花崗斑岩	淡黄	IVg	cg					深度46.13~46.38m: 破砕帯(Hb)。上盤55度、下盤54度。径3~15mmの礫を主とするシルト混じり礫状。下盤幅10mmの褐色粘土を挟む。	46	OM	1/15	45.25																							
	5.48	44.42	アブライト	淡黄	IVg	cg					深度48.00~49.92m: 高角度な節理が発達する。	48	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度49.00~59.22m: 全体に褐色化し、節理に沿って黒褐色化している。	49	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度51.38m: シーム。傾斜16度。幅1m。明褐色シルト状。	51	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度52.24m: シーム。傾斜48度。幅3mm。褐色シルト状。	52	OM	1/22	47.88																							
	-0.83	53.35	花崗斑岩	淡黄	IVg	cg					花崗斑岩、上位との境界傾斜60度。深度53.35~65.10m: 花崗斑岩、径5mm程度の石英、長石の斑晶を1~5%程度含む。	53	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度57.10~58.10m: やや斑晶が少なく、アブライト様。	57	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度59.22~59.59m: 破砕帯(Hj)。上盤30度、下盤70度。全体に脆く軟質、一部シルト質礫状。深度59.59m: 傾斜30度。幅5mm。褐色・黄灰色シルト状。	59	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度59.59m: 傾斜70度。幅2mm。黄灰色シルト状。	59	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度60.32~60.36m: 破砕帯(Hb)。上盤71度、下盤71度。幅10~20mm。黒色砂礫状。礫径5~15mm。	60	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg					深度60.36~60.57m: 変質帯。上盤71度、下盤61度。幅120mm。礫状~葉片状、全体に脆い。	60	OM	1/22	47.88																							
			アブライト	淡黄	IVg	cg																																

H19-No. 4

孔口標高	T.P.	36.89m	掘削長	250.00m
------	------	--------	-----	---------

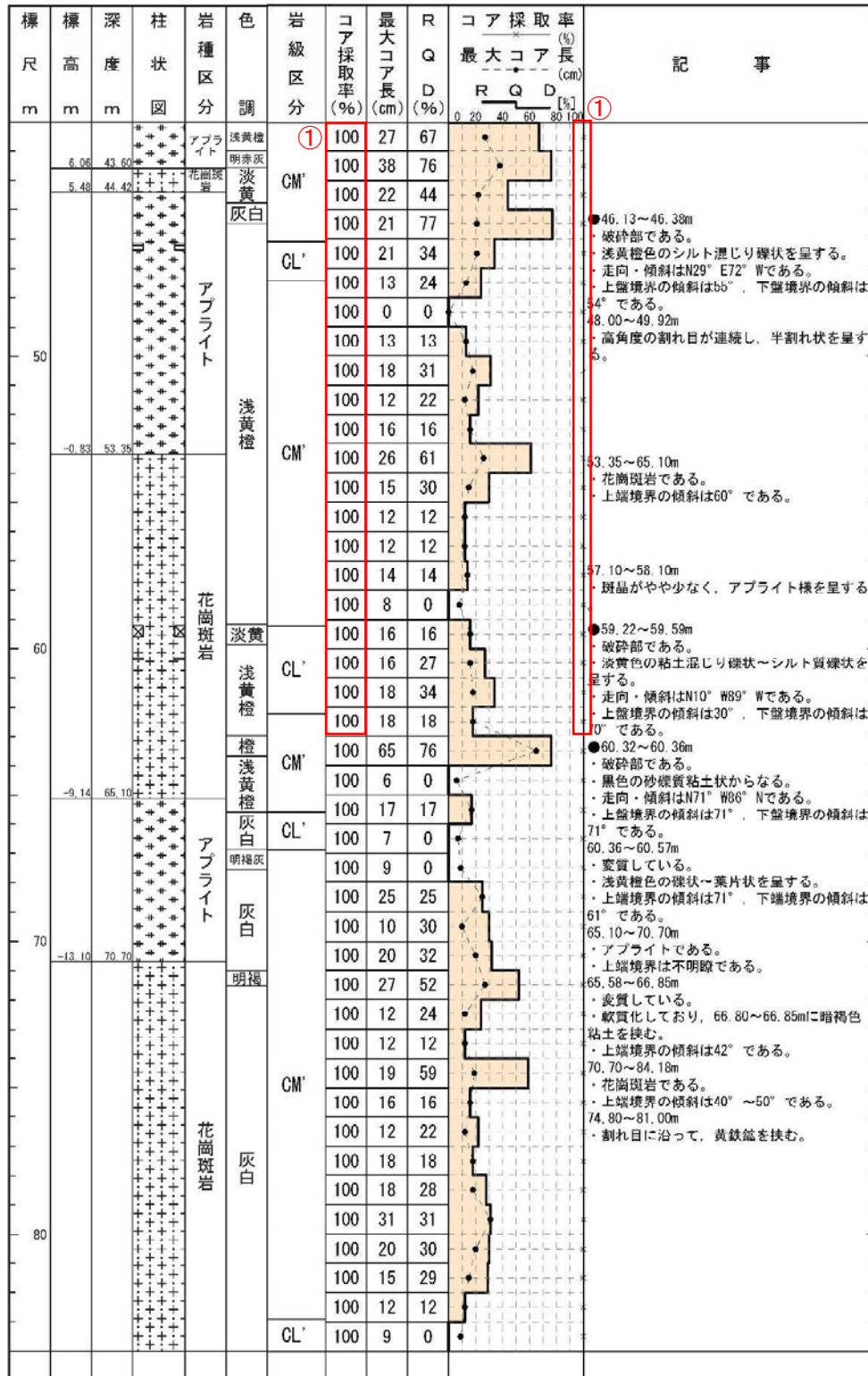


2-26 (分類b) ①
報告書の記載漏れを修正したため。

第7.4.4.181図 (1) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)

6-7-4-1062

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩盤区分	孔内水位/測定日 (N) 値	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)								
															(N 値 ~ 深度)																							
30	15.68	30.00	花崗斑岩	花崗斑岩	淡黄	IVg	bg				深度28, 25~28, 80m: 岩片~細粒状をなし、軟質化している。	50	OM	1/8																								
			花崗斑岩	花崗斑岩	灰白	CG	cg				深度28, 80~34, 24m: 節理に沿って褐色化し、一部砂を挟む。	50	CL	1/43																								
			花崗斑岩	アブライト	淡黄	IVg	cg			γ	2	50	CL	1/15																								
			花崗斑岩	アブライト	灰白	CG	bg				アブライト、上位との境界不明瞭。深度30, 00~53, 35m: アブライト主体で、厚さ0, 8~4, 2m程度の花崗斑岩を挟む。花崗斑岩は、径3mm程度の石英・長石主体の斑晶を1~3%程度含む。斑晶が少なくアブライトに近い岩相である。	50	CL	1/32																								
			花崗斑岩	アブライト	淡黄	IVg	cg				花崗斑岩、上位との境界は変質帯、傾斜60度。深度34, 24~34, 38m: 変質帯。上盤68度、下盤56度。砂状化し、脆くなる。深度34, 38m: シーム。傾斜56度。幅3mm。灰褐色と灰白色シルトの互層状。深度34, 38~36, 38m: やや節理多く、角粒状コアをなす。	50	CL	1/31																								
			花崗斑岩	アブライト	赤灰	IG	cg				アブライト、上位との境界不明瞭。深度38, 86m: 幅20~25mmの石英脈を挟む。	50	OM	1/9																								
			花崗斑岩	アブライト	浅黄橙	IVg	bg				アブライト、上位との境界不明瞭。深度41, 19~41, 70m: 傾斜50~60度の節理多く、全体に褐色化する。	50	CL	2/13																								
			花崗斑岩	アブライト	淡黄	CG	cg			β		深度46, 13~46, 38m: 破碎帯 (Hb)。上盤55度、下盤54度。径3~15mmの礫を主とするシルト混じり礫状。下盤幅10mmの褐色粘土を挟む。	50	CL	1/16																							
			花崗斑岩	アブライト	灰白	CG	bg				深度48, 00~49, 92m: 高角度な節理が発達する。	50	CL	1/22																								
			花崗斑岩	アブライト	浅黄橙	IVg	cg				深度49, 00~59, 22m: 全体に褐色化し、節理に沿って黒褐色化している。	50	CL	1/22																								
			花崗斑岩	アブライト	淡黄	CG	cg				深度51, 38m: シーム。傾斜16度。幅1m。明褐色シルト状。	50	OM	1/16																								
			花崗斑岩	アブライト	灰白	CG	cg				深度52, 24m: シーム。傾斜48度。幅3mm。褐色シルト状。	50	CL	1/47																								
			花崗斑岩	アブライト	淡黄	CG	cg				花崗斑岩、上位との境界傾斜60度。深度53, 35~65, 10m: 花崗斑岩。径5mm程度の石英、長石の斑晶を1~5%程度含む。	50	CL	1/22																								
			花崗斑岩	アブライト	淡黄	CG	cg				深度57, 10~58, 10m: やや斑晶が少なく、アブライト様。	50	OM	1/22																								
			花崗斑岩	アブライト	淡黄	CG	cg				深度59, 22~59, 59m: 破碎帯 (Hj)。上盤30度、下盤70度。全体に脆く軟質。一部シルト質礫状。深度59, 22m: 傾斜30度。幅5mm。褐色・黄灰色シルト状。	50	CL	1/27																								
			花崗斑岩	アブライト	浅黄橙	IVg	bg				深度60, 32~60, 36m: 破碎帯 (Hb)。上盤71度、下盤71度。幅10~20mm。黒色砂礫状。礫径5~15mm。	50	CL	1/27																								
			花崗斑岩	アブライト	浅黄橙	IVg	bg				深度60, 36~60, 57m: 変質帯。上盤71度、下盤61度。幅120mm。礫状~葉片状、全体に脆い。	50	OM	1/27																								



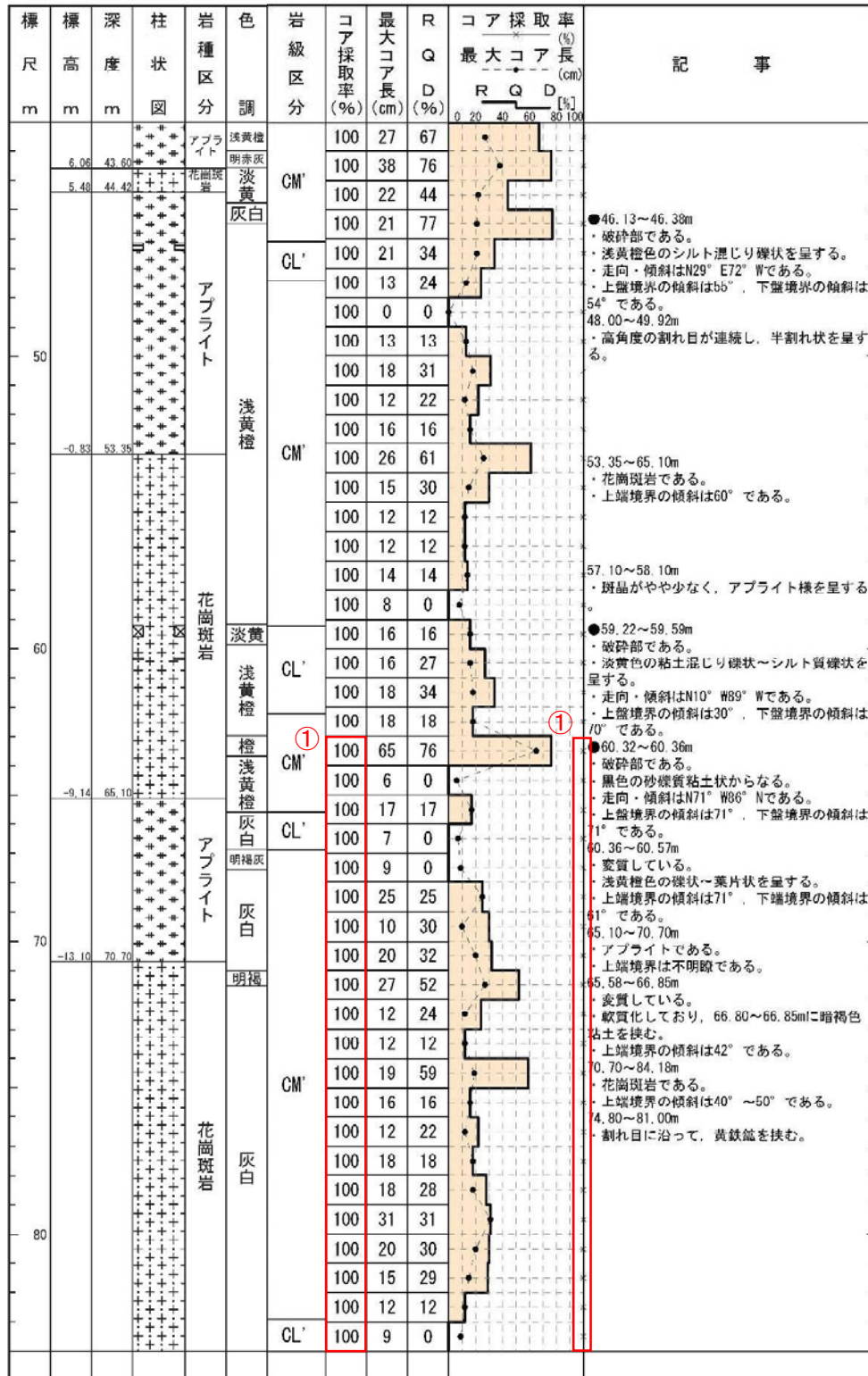
2-26(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1063

第7.4.4.181図(2) D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図(H19-No.4)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 — (%) 最大コア長 cm R Q D □ [%]	岩盤区分	孔内水位/測定月日 (N) 値	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)								
															(N 値 ~ 深度)																						
		-9.14	65.10	花崗斑岩	橙	I g	bg	γ	2		アブライト。上位との境界不明瞭。深度65.10~70.70m:アブライト。石基は径0.1mm以下であり、径3mmの石英、長石の斑晶が点在する(0.5%以下)。	0 50 100	OM		0 10 20 30 40 50																						
		-13.10	70.70	アブライト	灰白	Dg	cg	δ	3		深度65.58~66.85m:変質帯。上盤42度、軟質化。深度66.80~66.85mに暗褐色粘土を挟む。深度67.00~70.70m:節理に沿って褐色化著しく、やや割れ目多い。		CL																								
		-13.10	70.70	花崗斑岩	明褐	IV g	bg				花崗斑岩。上位との境界傾斜40~50度。深度70.70~84.18m:花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、径1~2mmの黒雲母の斑晶が3~40%程度を含み、石基は径0.1~0.2mm程度で組織は比較的均質である。斑晶は下方に向かって多くなる。深度70.70~78.80m:節理に沿って褐色化し、斑点状の褐色化も見られる。		OM																								
		-22.63	84.18	アブライト	灰白	Dg	cg				深度74.80付近~81.00m付近まで、節理に沿って黄鉄鉱を挟む。		OM																								
		-25.12	87.70	花崗斑岩	淡赤橙	IV g	bg				アブライト。上位との境界不明瞭。深度84.18~122.70m:アブライト。深度84.18~96.80mの間は、アブライトを主体とし、厚さ0.4~1.4mの花崗斑岩を挟む。アブライトは石基の径が0.1mm以下であり、径3mm石英、長石の斑晶を主体として、径1mm程度の黒雲母の斑晶が点在する(0.5%以下)。		CL																								
		-26.15	89.15	アブライト	明赤灰	IV g	cg				深度84.25~84.33m:破砕帯(Hc)。上盤55度、下盤63度。幅20~30mm。暗褐色シルト状。灰白色砂質シルト状。深度84.33~84.49m:変質帯。上盤63度、下盤29度。橙褐色を帯び軟質化し脆い。		CL																								
		-30.06	94.68	花崗斑岩	淡緑灰	IV g	cg				アブライト。上位との境界不明瞭。深度89.50付近~94.10m付近、節理に沿って黄鉄鉱を挟む。		CL																								
		-30.50	95.30	アブライト	にぶい赤橙	IV g	cg				花崗斑岩。上位、下位との境界漸移的。深度95.12~96.78m:変質帯。全体に淡緑灰~暗緑灰色を呈する。		CL																								
		-31.56	96.80	花崗斑岩	にぶい赤橙	I g	bg	γ	2		花崗斑岩。上位との境界不明瞭。深度96.80~100.80m:花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、一部黒雲母の斑晶を15%程度を含み、石基は径0.1mm程度である。深度96.80~99.60m間は石英の斑晶が多い。		OM																								

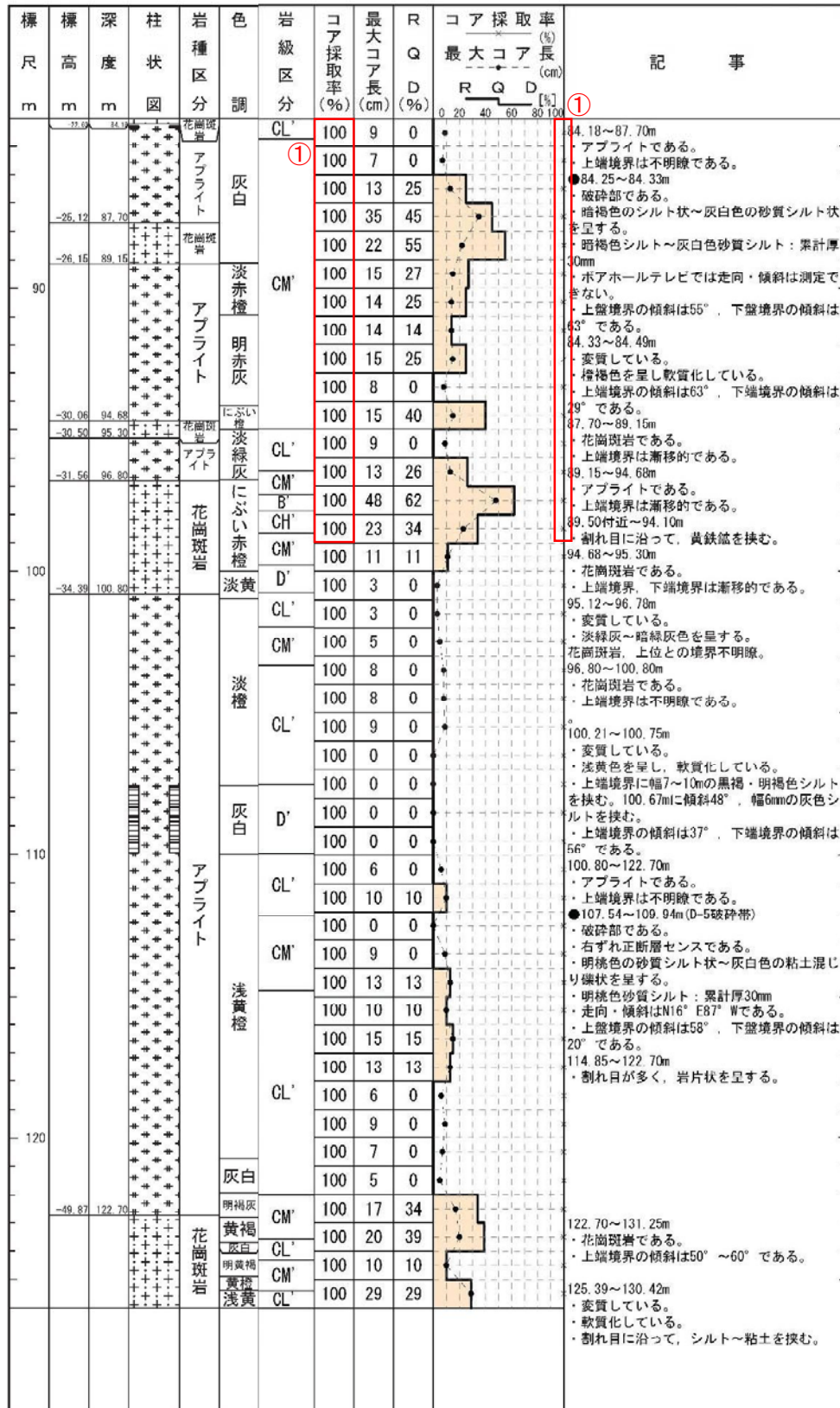
ダブルコアチューブ/ダイヤビット
90/ケレン



2-26 (分類b) ①
報告書の記載漏れを修正したため。

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	風割れ目	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩盤区分	孔内水位/測定月日 (N) 値	(標準貫入試験) 試験					原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)																	
														(N 値 ~ 深度)																												
	-9.14	65.10		花崗斑岩	橙	I g	bg	γ	2	アプライト。上位との境界不明瞭。深度65.10~70.70m: アプライト。石基は径0.1mm以下であり、径3mmの石英、長石の斑晶が点在する (0.5%以下)。	0	CL		0	10	20	30	40	50																							
				アプライト	灰白	Dg	cg	δ	3	深度65.58~66.85m: 変質帯。上盤42度、軟質化。深度66.80~66.85mに暗褐色粘土を挟む。深度67.00~70.70m: 節理に沿って褐色化著しく、やや割れ目多い。																																
	-13.10	70.70		明褐	明褐	IV g	bg			花崗斑岩。上位との境界傾斜40~50度。深度70.70~84.18m: 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、径1~2mmの黒雲母の斑晶を3~40%程度含み、石基は径0.1~0.2mm程度で組織は比較的均質である。斑晶は下方に向かって多くなる。深度70.70~78.80m: 節理に沿って褐色化し、斑点状の褐色化も見られる。																																
				花崗斑岩	灰白	III g	bg		2	深度74.80付近~81.00m付近まで、節理に沿って黄鉄鉱を挟む。																																
				アプライト	灰白	II g	cg			深度80.25~84.25m: やや風化し、全体に褐色化している。																																
	-22.63	84.18		アプライト	灰白	IV g	cg		3	アプライト。上位との境界不明瞭。深度84.18~122.70m: アプライト。石基を主体とし、厚さ0.4~1.4mの花崗斑晶を挟む。アプライトは石基の径が0.1mm以下であり、径3mm石英、長石の斑晶を主体として、径1mm程度の黒雲母の斑晶が点在する (0.5%以下)。																																
	-25.12	87.70		花崗斑岩	淡赤橙	II g	cg		2	アプライト。上位との境界漸移的。深度89.50付近~94.10m付近、節理に沿って黄鉄鉱を挟む。																																
	-26.15	89.15		アプライト	明赤灰	IV g	cg		3	アプライト。上位との境界不明瞭。深度84.25~84.33m: 破砕帯 (Hc)。上盤55度、下盤63度。幅20~30mm。暗褐色シルト状。灰白色砂質シルト状。深度84.33~84.49m: 変質帯。上盤63度、下盤29度。橙褐色を帯び軟質化し脆い。																																
	-30.06	94.68		花崗斑岩	淡緑灰	IV g	cg		3	アプライト。上位との境界漸移的。深度84.33~84.49m: 変質帯。上盤63度、下盤29度。橙褐色を帯び軟質化し脆い。花崗斑岩。上位との境界不明瞭。																																
	-30.50	95.30		アプライト	にぶい赤橙	III g	bg		2	花崗斑岩。上位、下位との境界漸移的。深度95.12~96.78m: 変質帯。全体に淡緑灰~暗緑灰色を呈する。																																
	-31.56	96.80		花崗斑岩	にぶい赤橙	I g	bg	γ	2	花崗斑岩。上位との境界不明瞭。深度96.80~100.80m: 花崗斑岩。径3~5mmの石英、長石、一部黒雲母の斑晶を15%程度含み、石基は径0.1mm程度である。深度96.80~99.60m間は石英の斑晶が多い。																																

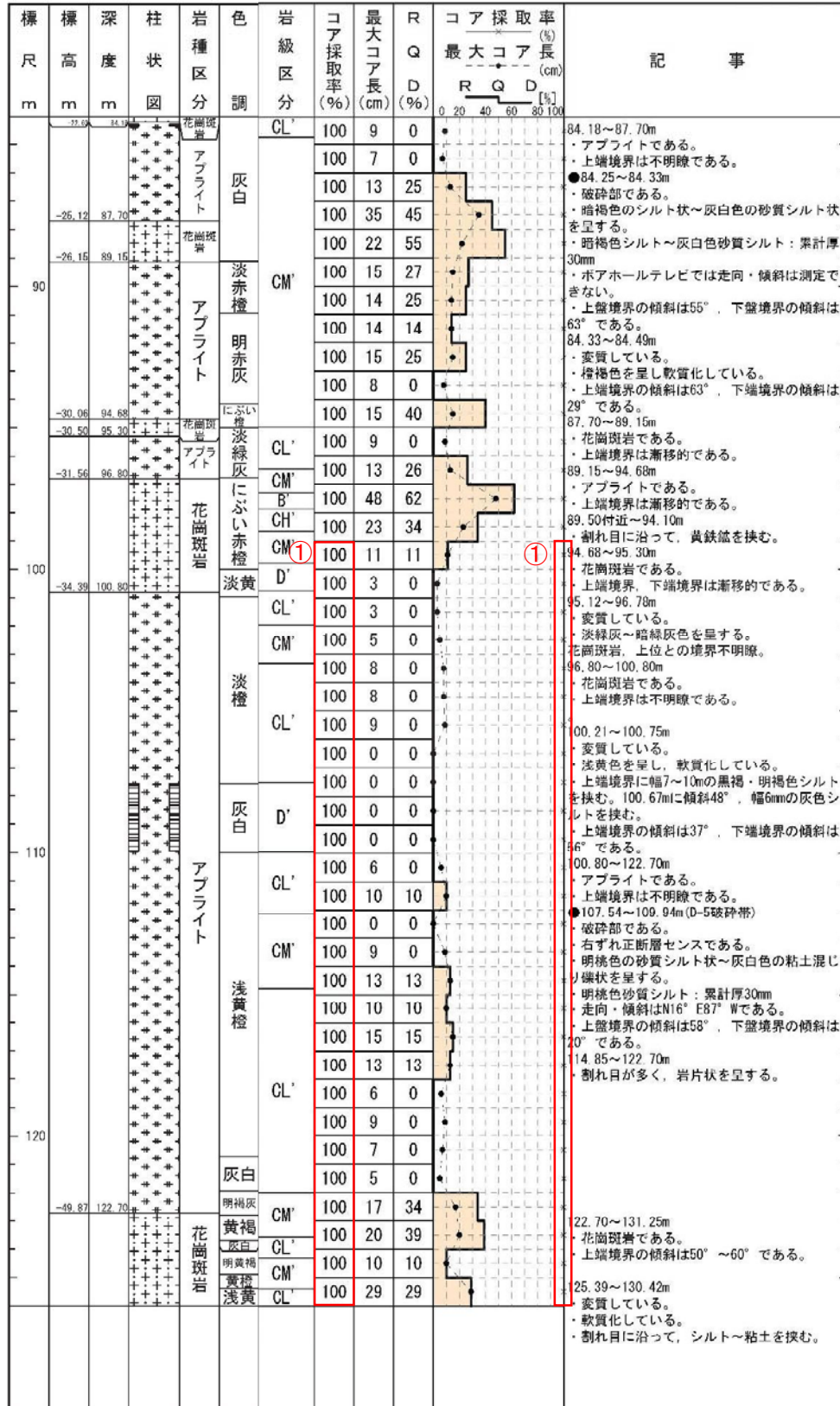
ダブルコアチューブ/ダイヤモンド



2-26(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

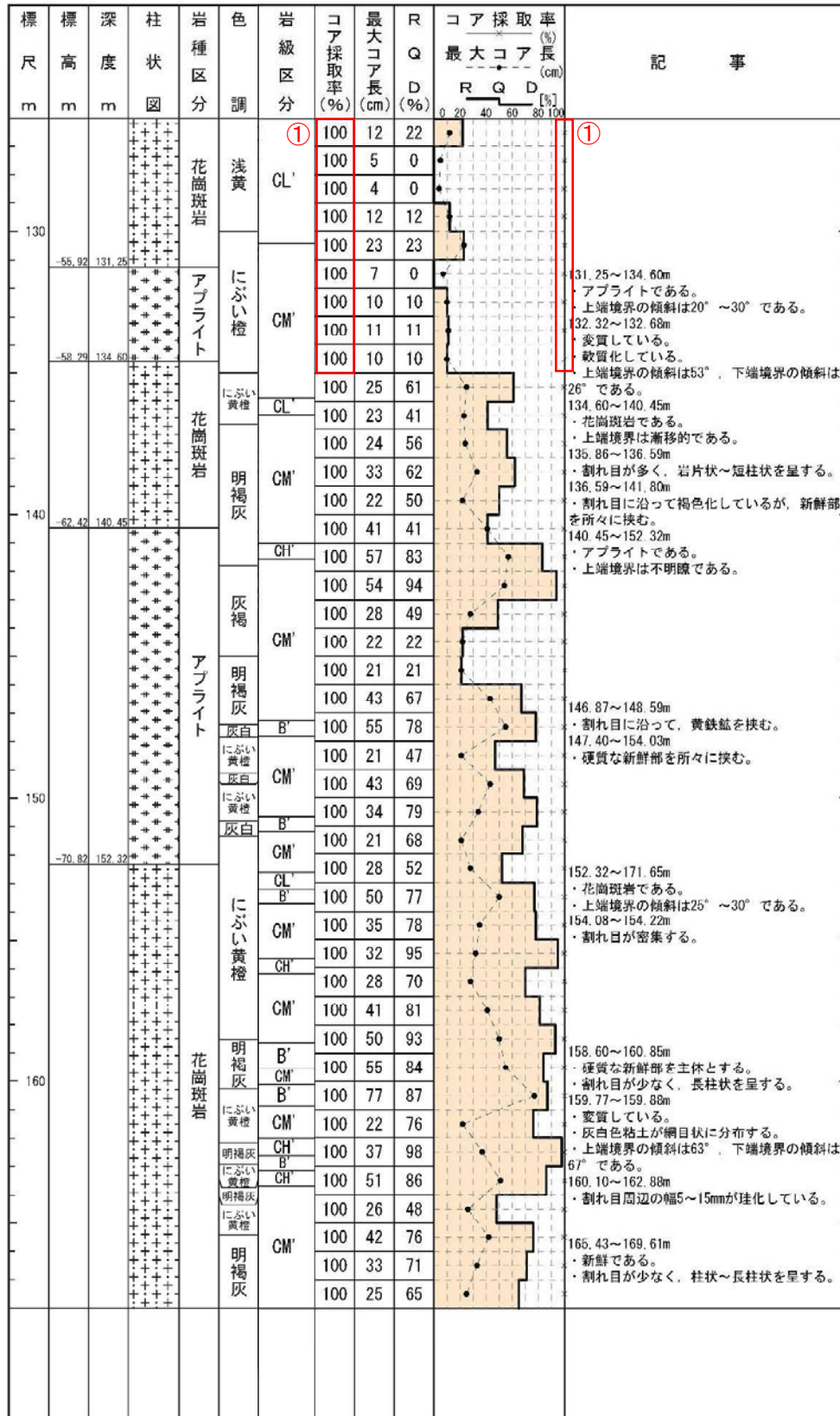
6-7-4-1064

第7.4.4.181図 (3) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No.4)



2-26 (分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

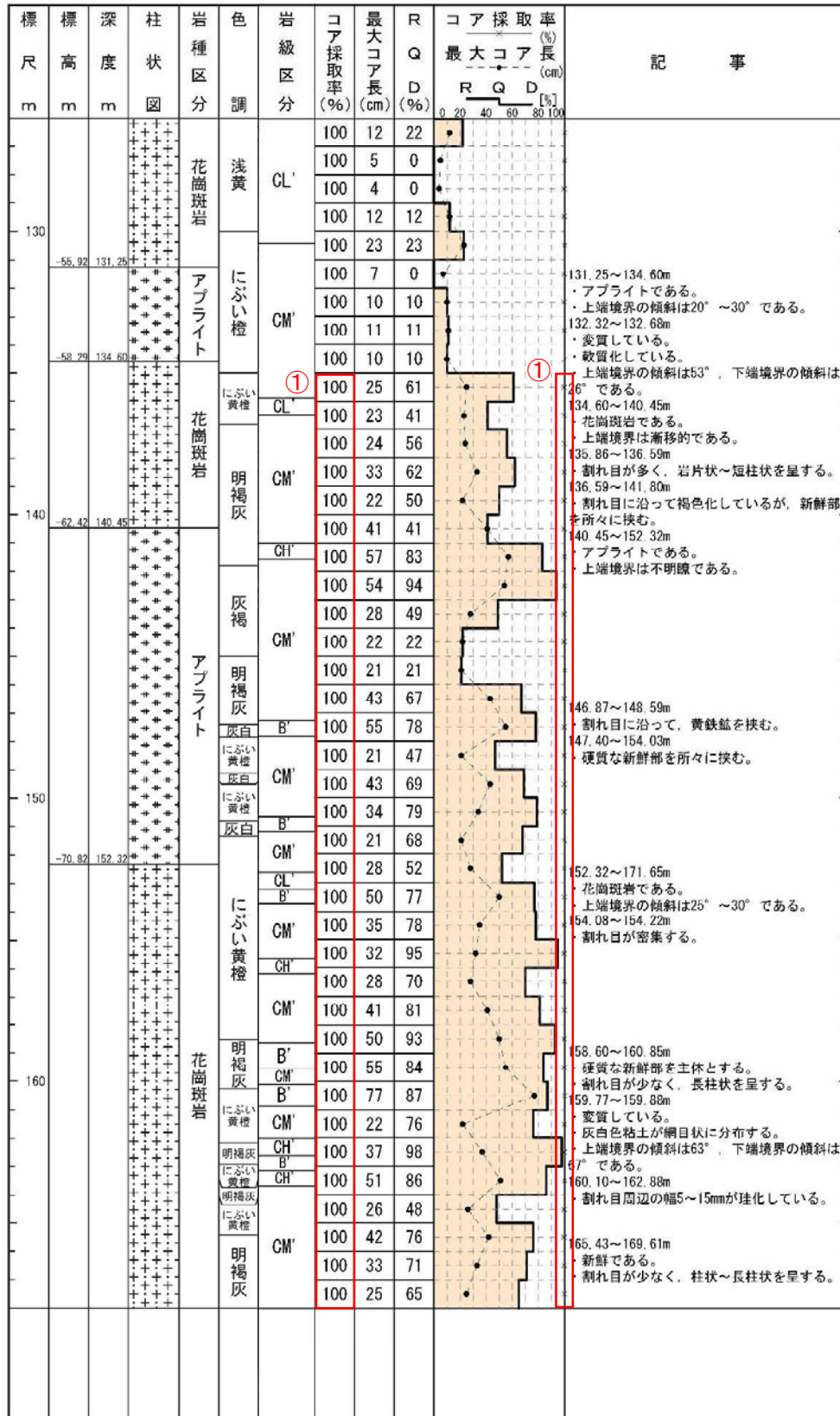
6-7-4-1064



2-26 (分類b) ①
報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1065

第7.4.4.181図 (4) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)



2-26 (分類b) ①
 報告書の記載漏れを修正したため。

6-7-4-1065

第7.4.4.181図 (4) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩盤区分	孔内水位(測定日)	(標準貫入試験)試験					原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給水圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)												
															(N値 ~ 深度)																									
		140		花崗斑岩	にがい黄橙	IIIg	bg				深度134.60~140.25m: 花崗斑岩。径5mm程度の石英、長石の斑晶を1~2%程度含み、石基は径0.2mm程度である。斑晶が少なく、アプライトに近い花崗斑岩である。深度135.06~136.59m: 節理多く、岩片→柱状コア。深度136.59~141.80m: 節理に沿って褐色化しているが、岩芯部分は新鮮部を残す。		OM																											
		140	-62.42 140.45	明褐灰	明褐灰	IIIg	bg				深度140.14~140.51m: 灰白色を帯びる。アプライト、上位との境界不明瞭。		OM																											
		140		明褐灰	明褐灰	IIIg	bg				深度142.45~146.00m: 全体に褐色を帯び、節理に沿って黒褐色化している。		OM																											
		140		明褐灰	明褐灰	IIIg	bg				深度144.00~144.75m: やや節理が多くなる。		OM																											
		140		アプライト	明褐灰	IIIg	bg				深度146.87~148.59m: 節理に沿って黄鉄鉱を挟む。		[CM]																											
		150		アプライト	灰白	Ig	bg						B'																											
		150		アプライト	にがい黄橙	IIIg	bg						OM																											
		150		アプライト	にがい黄橙	IIIg	bg						OM																											
		150		アプライト	灰白	Ig	bg						B'																											
		150	-70.82 152.32	アプライト	にがい黄橙	IIIg	bg				花崗斑岩。上位との境界傾斜25~30度		OM																											
		150		アプライト	にがい黄橙	IIIg	bg				深度152.32~171.65m: 花崗斑岩。径3~20mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を50%程度含み、石基は径0.5mm程度である。一般に黒雲母の斑晶が多く、下部ほど長石の斑晶が多くなる。		OM																											
		150		アプライト	にがい黄橙	IIIg	bg				深度153.12m: シーム。傾斜30度、幅1mm。黄灰色シルト状。		OM																											
		150		アプライト	にがい黄橙	IIIg	bg				深度154.08~154.22m: 節理密集部。		OM																											
		150		アプライト	にがい黄橙	IIIg	bg				深度154.00~157.00m: 全体に弱く褐色化している。		CH																											
		160		明褐灰	明褐灰	IIIg	bg						B'																											
		160		明褐灰	にがい黄橙	IIIg	bg				深度159.77~159.88m: 変質帯。上盤63度、下盤67度。灰白色粘土が網目状に入る。		OM																											
		160		明褐灰	にがい黄橙	IIIg	bg				深度160.10~162.88m: 節理周辺の幅5~15mmが珪化している。		OM																											
		160		明褐灰	明褐灰	IIIg	bg				深度164.08~164.74m: やや節理が多くなる。		CH																											
		160		明褐灰	にがい黄橙	IIIg	bg				深度165.43~169.61m: 新鮮岩。		OM																											
		170		明褐灰	明褐灰	IIIg	bg						OM																											
		170		明褐灰	明褐灰	IIIg	bg						OM																											
		170		明褐灰	明褐灰	IIIg	bg						OM																											
		170		明褐灰	灰褐	IIg	bg						OM																											
		170		明褐灰	灰褐	IIg	bg						OM																											

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
	170			花崗斑岩	明褐灰 にぶい 黄橙	① CM'	100	30	72		<p>●171.69~174.88m (D-6破砕帯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白~灰黄・褐色のシルト状~褐灰~明黄褐~橙~灰黄色の礫混じりシルト~砂質シルト~礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・灰白~灰黄・褐色シルト~黄灰色礫混じりシルト：累計厚175mm ・走向・傾斜はN19° E78° Wである。 ・上盤境界の傾斜は57°、下盤境界の傾斜は66°である。
					褐灰 明黄橙	D'	100	0	0		
					橙	D'	100	0	0		
					灰黄	CL'	100	0	0		
					黄橙	CL'	100	6	0		
					橙	CL'	100	7	0		
					淡赤橙	CL'	100	4	0		
					灰白	CM'	100	20	20		
					橙	CL'	100	20	52		
					灰白	CL'	100	23	35		
		-91.49 181.50		花崗斑岩	アブライト 灰白	CM'	100	8	0	<p>●175.27~175.28m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・黄褐色のシルト状を呈する。 ・黄褐色シルト：累計厚13mm ・走向・傾斜はN29° W78° Wである。 ・上盤境界の傾斜は33°である。 	
		-92.07 182.38			橙 にぶい 黄橙	CL'	100	48	48		
					アブライト 灰白	CL'	100	20	20		
					橙 にぶい 黄橙	CL'	100	19	36		
		-94.60 185.96			アブライト	CL'	100	9	0		
					アブライト	CM'	100	16	43		
					アブライト	CM'	100	7	0		
		-95.99 187.92			淡赤橙	CM'	100	32	53		
					淡赤橙	CM'	100	24	42		
					淡赤橙	CM'	100	20	20		
				淡赤橙	CM'	100	27	40			
				淡赤橙	CM'	100	37	37			
				花崗斑岩	にぶい 橙	CL'	100	12	12	<p>180.51~182.22m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やや変質し、軟質化している。 181.50~182.38m ・アブライトである。 ・上端境界、下端境界は不明瞭である。 182.38~185.96m ・花崗斑岩である。 185.96~187.92m ・アブライトである。 ・上端境界、下端境界は不明瞭である。 186.63~188.09m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 187.92~250.00m ・花崗斑岩である。 192.75~199.72m ・割れ目がやや多く、部分的に岩片状を呈する。 195.63~195.68m ・変質している。 ・淡褐白色を呈し軟質化している。 ・上端境界の傾斜は36°、下端境界の傾斜は46°である。 	
					にぶい 橙	CM'	100	13	13		
					にぶい 橙	CL'	100	13	13		
					にぶい 橙	CM'	100	25	25		
					にぶい 橙	CL'	100	19	19		
					にぶい 橙	CL'	100	12	12		
					灰赤 にぶい 橙	CM'	100	11	21		
					灰赤 にぶい 橙	CM'	100	37	71		
					灰赤 にぶい 橙	CM'	100	24	37		
					灰赤 にぶい 橙	CM'	100	10	20		
				灰赤 にぶい 橙	CM'	100	37	37			
				灰赤 にぶい 橙	CM'	100	9	0			
				灰赤 にぶい 橙	CM'	100	14	24			
				灰赤 にぶい 橙	CM'	100	14	14			
				灰赤 にぶい 橙	CM'	100	5	0			
				灰赤 にぶい 橙	CL'	100	0	0			
				灰赤 にぶい 橙	CM'	100	30	40			
										<p>●207.69~207.72m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・にぶい橙色の礫混じりシルト状を呈する ・にぶい橙色礫混じりシルト：累計厚10mm ・走向・傾斜はN13° E83° Wである。 ・上盤境界の傾斜は39°、下盤境界の傾斜は61°である。 207.72~209.00m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。 	

2-26 (分類b) ①
報告書の記載漏れを修正したため。

第7.4.4.181図 (5) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩盤区分	孔内水位(測定月日)	(標準貫入試験)試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアカチーフ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)												
																N値 ~ 深度																										
																0	10	20	30	40	50																					
				花崗斑岩	灰褐色	Cg	bg	β	2		深度171.69~171.83m: 破砕帯 (Hc)。上盤57度、下盤42度。幅140mm。灰白色シルト、黄灰~褐色砂質シルト、黄灰色礫混じりシルト状。	17	17	OM	[CM]																											
				花崗斑岩	橙	Eg	dg	δ	3		深度171.83~174.28m: 破砕帯 (Hj)。上盤42度、下盤60度。全体に礫混じりシルト質砂~砂質シルト状、一部土砂状。	18	18	D'	[D]																											
				花崗斑岩	灰黄	Cg					深度174.28~174.33m: 破砕帯 (Hc)。上盤60度、下盤54度。幅18~20mm。灰黄色シルトと褐色シルトの互層状。	19	19																													
				花崗斑岩	黄橙	IVg		cg			深度174.33~174.85m: 破砕帯 (Hj)。上盤54度、下盤62度。礫混じりシルト質砂状。	20	20	CL	[CL]																											
				花崗斑岩	橙	Dg					深度174.85~174.88m: 破砕帯 (Hc)。上盤62度、下盤66度。幅12~15mm。黄灰色シルト状。	21	21																													
				花崗斑岩	淡赤橙	IVg					深度171.65~187.92m: 花崗斑岩。径2~5mmの石英、長石、黒雲母の斑晶を10~20%程度含み、石基は上部が径0.1mm以下、下部が径0.1~0.2mmである。部分的に径2~4mmの石英、長石の斑晶が密集し、黒雲母が散在する。	22	22																													
				花崗斑岩	灰白	Cg		bg			深度175.27~175.28m: 破砕帯 (Hc)。上盤33度。幅9~13mm。黄褐色シルト状。	23	23	OM																												
				花崗斑岩	橙	IVg		cg			深度175.64~175.65m: 破砕帯 (Hc)。上盤49度。幅10mm。礫混じり砂質シルト状。	24	24																													
				花崗斑岩	灰白	Dg					深度180.51~182.22m: やや変質し、軟質化している。全体に黒褐色化する。アプライトの上位、下位の境界不明瞭。	25	25	CL																												
				花崗斑岩	橙	IVg					深度180.51~182.22m: やや変質し、軟質化している。全体に黒褐色化する。アプライトの上位、下位の境界不明瞭。	26	26																													
				花崗斑岩	にぶい黄橙	IVg					深度184.80~186.00m: 節理に沿って黒褐色化している	27	27																													
				花崗斑岩	アプライト	IVg					アプライトの上位、下位の境界不明瞭	28	28	OM																												
				花崗斑岩	淡赤橙	IIIg					深度186.63~188.09m: 節理多く、角礫状をなす。	29	29																													
				花崗斑岩	淡赤橙	IVg					花崗斑岩。上位との境界漸移的。深度187.92~210.00m: 花崗斑岩。径3~20mmのかり長石、石英、斜長石、黒雲母の斑晶を10~50%含み、石基は径0.1~0.5mmである。斑晶の多い部分と少ない部分とが互層を呈する。深度188.90~199.72m: 全体に褐色化し、風化を受けている。	30	30																													
				花崗斑岩	淡赤橙	IVg					深度186.63~188.09m: 節理多く、角礫状をなす。	31	31	OM	[CM]																											
				花崗斑岩	淡赤橙	IVg					深度192.75~199.72m: やや節理多く、部分的に角礫状をなす。	32	32	CL																												
				花崗斑岩	淡赤橙	IIIg					深度195.63~195.68m: 変質帯。上盤36度、下盤46度。淡褐色を帯び軟質化。上盤下に粘土を挟む。	33	33	OM																												
				花崗斑岩	にぶい橙	IVg					深度195.63~195.68m: 変質帯。上盤36度、下盤46度。淡褐色を帯び軟質化。上盤下に粘土を挟む。	34	34	CL																												
				花崗斑岩	にぶい橙	IVg					深度199.40~199.51m: 淡褐色を呈し、節理に沿って、雲母粘土鉱物を挟む。	35	35																													
				花崗斑岩	にぶい橙	IVg					深度199.72~207.69m: 新鮮岩。節理に沿ってのみ黒褐色を帯びる。	36	36	OM																												
				花崗斑岩	灰赤	IVg					深度199.40~199.51m: 淡褐色を呈し、節理に沿って、雲母粘土鉱物を挟む。	37	37																													
				花崗斑岩	にぶい橙	IVg					深度199.72~207.69m: 新鮮岩。節理に沿ってのみ黒褐色を帯びる。	38	38	OM																												
				花崗斑岩	灰赤	IVg					深度199.72~207.69m: 新鮮岩。節理に沿ってのみ黒褐色を帯びる。	39	39																													
				花崗斑岩	灰赤	IVg					深度199.72~207.69m: 新鮮岩。節理に沿ってのみ黒褐色を帯びる。	40	40																													

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記 事
170			+	花崗斑岩	明褐灰	CM'	100	30	72		① ●171.69~174.88m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白~灰黄・褐色のシルト状~褐灰~明黄 ・橙~灰黄色の礫混じりシルト~砂質シル ・ト~礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・灰白~灰黄・褐色シルト~黄灰色礫混じり ・シルト：累計厚175mm ・走向・傾斜はN19° E78° Wである。 ・上盤境界の傾斜は57°、下盤境界の傾斜は ・6°である。 71.65~181.50m ・花崗斑岩である。 ●175.27~175.28m ・破砕部である。 ・黄褐色のシルト状を呈する。 ・黄褐色シルト：累計厚13mm ・走向・傾斜はN29° W78° Wである。 ・上盤境界の傾斜は33°である。 ●175.64~175.65m ・破砕部である。 ・黄褐色の礫混じり砂質シルト状を呈する。 ・黄褐色礫混じり砂質シルト：累計厚10mm ・走向・傾斜はN14° E76° Wである。 ・上盤境界の傾斜は49°である。 80.51~182.22m ・やや変質し、軟質化している。 81.50~182.38 ・アブライトである。 ・上端境界、下端境界は不明瞭である。 82.38~185.96m ・花崗斑岩である。 85.96~187.92m ・アブライトである。 ・上端境界、下端境界は不明瞭である。 86.63~188.09m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 87.92~250.00m ・花崗斑岩である。 92.75~199.72m ・割れ目がやや多く、部分的に岩片状を呈す ・る。 95.63~195.68m ・変質している。 ・淡褐白色を呈し軟質化している。 ・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は ・6°である。 99.40~199.51m ・淡緑灰色を呈し、割れ目に沿って、雲母粘 ・土鉱物を挟む。 99.72~207.69m ・新鮮である。 ・割れ目面のみ黒褐色を呈する。 ●207.69~207.72m ・破砕部である。 ・にぶい橙色の礫混じりシルト状を呈する ・にぶい橙色礫混じりシルト：累計厚10mm ・走向・傾斜はN13° E83° Wである。 ・上盤境界の傾斜は39°、下盤境界の傾斜は ・61°である。 207.72~209.00m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。	
					にぶい 灰褐	CM'	100	29	44			
					明褐灰	①	100	44	94			
					明褐灰	D'	100	17	56			
					明褐灰	D'	100	0	0			
					橙	D'	100	0	0			
					灰黄	D'	100	0	0			
					黄橙	CL'	100	6	0			
					橙	CL'	100	7	0			
					橙	CL'	100	4	0			
					淡赤橙	CM'	100	20	20			
					灰白	CM'	100	20	52			
					橙	CL'	100	23	35			
					灰白	CL'	100	8	0			
					アブライト	CL'	100	48	48			
花崗斑岩	CL'	100	20	20								
にぶい 黄橙	CL'	100	19	36								
アブライト	CL'	100	9	0								
花崗斑岩	CM'	100	16	43								
アブライト	CM'	100	7	0								
淡赤橙	CM'	100	32	53								
淡赤橙	CM'	100	24	42								
淡赤橙	CM'	100	20	20								
淡赤橙	CM'	100	27	40								
淡赤橙	CM'	100	37	37								
にぶい 橙	CL'	100	12	12								
にぶい 橙	CM'	100	13	13								
にぶい 橙	CL'	100	13	13								
にぶい 橙	CM'	100	25	25								
にぶい 橙	CL'	100	19	19								
花崗斑岩	CM'	100	12	12								
灰赤	CM'	100	11	21								
にぶい 橙	CM'	100	37	71								
にぶい 橙	CM'	100	24	37								
灰赤	CM'	100	10	20								
にぶい 橙	CM'	100	37	37								
灰赤	CM'	100	9	0								
灰赤	CM'	100	14	24								
灰赤	CM'	100	14	14								
にぶい 橙	CL'	100	5	0								
オリブ 斑	CL'	100	0	0								
灰赤	CM'	100	30	40								

2-26(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

第7.4.4.181図 (5) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No.4)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)		岩盤区分	孔内水位(測定日)	(標準貫入試験) 試験					室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアダクトン / ビット	給 送 (KN・MPa)	回 転 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (l/分)	排 水 量 (l/分)										
												最大コア長 (cm)	R/Q/D [%]			N 値 ~ 深度	0	10	20	30										40	50								
		210	花崗斑岩	花崗斑岩	灰赤	IVg	bg	β	2	β	深度 207.69~207.72m: 破砕帯 (Hb)。 上盤39度, 下盤61度。幅10mm。緑混じりシルト状。礫は径0.5~1.0cmの亜円礫。 深度207.72~209.00m: 砂礫状をなす。		OM										100	3/7	208.90														
		220									IVg		bg	β	2	β	深度 210.00~250.00m: 花崗斑岩。 径3~10mmのかり長石、石英、斜長石、黒雲母の斑晶を60~70%含み、石英は径0.2~0.5mmである。径10mm程度のかり長石の斑晶を散在し、黒雲母の斑晶が多く、組織は全体に塊状均質で、斑晶の割合が高い。 深度210.00m以深、節理に沿ってのみ褐色化する。	OM												86	3/8	213.20			0.0		泥水 10		
		230									IVg		bg	β	2	β	深度 215.47~215.74m: 節理に沿って変質を受けている。	B'												107									
		240									IVg		bg	β	2	β	深度 218.73~218.74m: 破砕帯 (Hc)。 上盤62度、下盤不明。幅15mm。暗灰色緑混じりシルト状。	OM													105	3/9	216.10						
		250									IVg		bg	β	2	β	深度 221.28~224.46m: 長柱状の硬質コア。	B'													103								
		260									IVg		bg	β	2	β	深度 223.00m, 223.47m付近、節理に沿って淡緑灰色に変質する。	OM													103	3/10	223.30						
		270									IVg		bg	β	2	β	深度 228.30m: シーム。傾斜69度、幅5~7mm。礫状。 深度228.30m以深、褐色化顕著。	B'													103								
		280									IVg		bg	β	2	β	深度 228.30m: シーム。傾斜69度、幅5~7mm。礫状。 深度228.30m以深、褐色化顕著。	OM													103								
		290									IVg		bg	β	2	β	深度 234.32~236.15m: 全体に変質をうけ、軟質化している。一部砂状をなす。	CL													100								
		300									IVg		bg	β	2	β	深度 236.15m以深、全体に柱状コアをなす。節理に沿って褐色を帯び、全体に弱く変質している。	OM													102								
		310									IVg		bg	β	2	β	深度 239.72m: 幅4mmの石英脈を挟む。	OM													102								
		320									IVg		bg	β	2	β	深度 242.73m: 幅2~5mm、傾斜30度の石英脈を挟む。	OM													102								

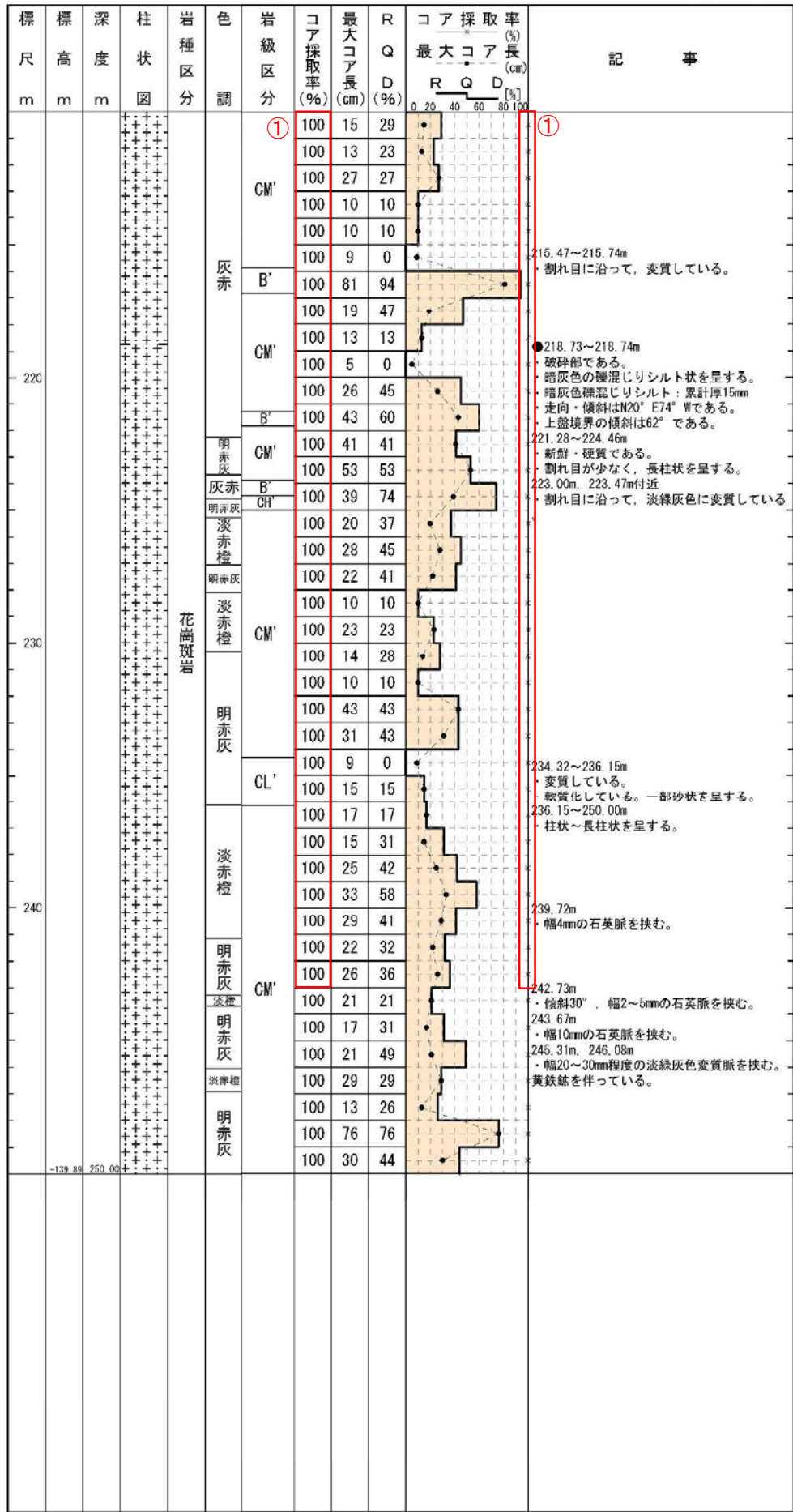
ダブルコア / ダイヤビット

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記 事										
													0 20 40 60 80 100									
170			+	花崗斑岩	明褐灰 にぶい 黄橙	CM'	100	30	72		0 20 40 60 80 100		●171.69~174.88m (D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・灰白~灰黄・褐色のシルト状~褐灰~明黄 褐~橙~灰黄色の礫混じりシルト~砂質シル ト~礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・灰白~灰黄・褐色シルト~黄灰色礫混じり シルト：累計厚175mm ・走向・傾斜はN19° E78° Wである。 ・上盤境界の傾斜は57°、下盤境界の傾斜は 66°である。									
							100	29	44													
							100	44	94													
							100	17	56													
							180							+	花崗斑岩	橙	D'	100	0	0		
																		100	0	0		
																		灰黄	CL'	100	6	0
																				100	7	0
																		淡赤橙	CM'	100	20	20
																				100	20	52
							190							+	花崗斑岩	灰白	CM'	100	20	52		
																		100	20	52		
100	23	35																				
アブライト	CL'	100	8	0																		
		100	8	0																		
180			+	花崗斑岩	橙にぶい 黄橙	CM'				100	48	48										
										100	20	20										
										100	19	36										
										100	9	0										
										100	16	43										
										100	7	0										
200			+	花崗斑岩	淡赤橙	CM'				100	32	53										
							100	24	42													
							100	20	20													
							100	27	40													
							100	37	37													
							190			+	花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	12	12						
														100	13	13						
														100	13	13						
														100	25	25						
														100	19	19						
														100	12	12						
							190			+	花崗斑岩	灰赤	CM'	100	11	21						
100	37	71																				
100	24	37																				
100	10	20																				
100	37	37																				
100	9	0																				
190			+	花崗斑岩	灰赤	CM'	100	14	24													
							100	14	14													
							100	5	0													
							100	0	0													
							100	30	40													
							100	30	40													

2-26(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

第7.4.4.181図(5) D-6破砕帯及びD-5破砕帯 ボーリング調査結果(1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図(H19-No.4)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩盤区分	孔内水位(測定月日) N値	(標準貫入試験)試験				原位置試験(孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	送水圧 (MPa)	送水量 (l/分)	排水量 (l/分)						
													N値 ~ 深度	0	10	20									30	40	50			
		210		花崗斑岩	灰赤	IVg, Vg, Dg	β, γ		深度207.69~207.72m: 破砕帯(Hb)。上盤39度, 下盤61度。幅10mm。緑混じりシルト状。礫は径0.5~1.0cmの垂円礫。深度207.72~209.00m: 砂礫状をなす。	0, 50, 100	OM, CL		0	10	20	30	40	50												
		220		花崗斑岩	明赤灰, 灰赤, 淡赤橙, 明赤灰	IVg, IIIg, IIg, I g, Bg, Cg	β, γ	2	深度210.00~250.00m: 花崗斑岩。径3~10mmのかり長石, 石英, 斜長石。黒雲母の斑晶を60~70%含み, 石英は径0.2~0.5mmである。径10mm程度のかり長石の斑晶を散在し, 黒雲母の斑晶が多く, 組織は全体に塊状均質で, 斑晶の割合が高い。深度210.00m以深, 節理に沿ってのみ褐色化する。 深度215.47~215.74m: 節理に沿って変質を受けている。 深度218.73~218.74m: 破砕帯(Hc)。上盤62度, 下盤不明。幅15mm。暗灰色緑混じりシルト状。 深度221.28~224.46m: 長柱状の硬質コア。 深度223.00m, 223.47m付近, 節理に沿って淡緑灰色に変質する。	0, 50, 100	OM, B', CH, [CM]		0	10	20	30	40	50												
		230		花崗斑岩	明赤灰, 淡赤橙, 明赤灰	IVg, IIIg, IIg, I g, Bg, Cg	β, γ		深度228.30m: シーム。傾斜69度, 幅5~7mm。礫状。 深度228.30m以深, 褐色化顕著。	0, 50, 100	OM, CL		0	10	20	30	40	50												
		240		花崗斑岩	淡赤橙, 明赤灰	IVg, IIIg, IIg, I g, Bg, Cg	β, γ		深度234.32~236.15m: 全体に変質をうけ, 軟質化している。一部砂状をなす。 深度236.15m以深, 全体に柱状コアをなす。節理に沿って褐色を帯び, 全体に弱く変質している。 深度239.72m: 幅4mmの石英脈を挟む。	0, 50, 100	OM, CL		0	10	20	30	40	50												
									深度242.73m: 幅2~5mm, 傾斜30度の石英脈を挟む。	0, 50, 100	OM		0	10	20	30	40	50												
																	ダブルコアチューブ/ダイヤモンド	76/泥水	25.0	110										
																				No.4(7/8)										



第7.4.4.181図 (6) D-6 破砕帯及びD-5 破砕帯 ボーリング調査結果 (1号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H19-No. 4)

2-26(分類b)①
報告書の記載漏れを修正したため。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級	岩盤区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入試験) 試験		原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (l/分)	排 水 量 (l/分)
															N 値	深度											
				花崗斑岩	明赤灰 淡橙		IVg IIg IIg IVg IIIg IIg IIg IVg IIg IIg IVg IIIg IVg I g IIIg IIg IVg bg			深度243.29~243.72m : 全体に褐色化する。 深度243.67mに幅1cmの石英脈を挟む。 深度245.31m、246.08mに幅2~3cm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。黄鉄鉱を伴う。										102 3/15 244.70 76 76 3/16 250.00	ダブルコアチューブ / ダイヤモンド	25.0	110	0.0	泥水 10	0	